和漢朗詠集私注引用漢籍考

栃尾 武

一、和漢朗詠集の注について
(イ)朗詠江注 (ロ)和漢朗詠集私注 (ハ)永済注
(ニ)和漢朗詠集註 (ホ)柿村重松 和漢朗詠集考證
(ヘ)川口久雄 平安朝漢文學史の研究

二、私注所引漢籍・漢詩文考
(1)陰陽書 (2)班婕妤怨詩 (3)王起 (4)王府新書
(5)河圖 (6)廻文詩 (7)會稽録 (8)外論 (9)月令
(10)漢記 (11)漢書 (12)關中記 (13)九經略 (14)翰林文苑
(15)兼名苑 (16)坤元録 (17)混天圖 (18)史記 (19)時務策
注 (20)初學記 (21)紹運圖 (22)千金翼方 (23)千字文
(24)琱玉集 (25)白氏文集 (26)白氏六帖 (27)白詠
(28)蒙求 (29)靈鬼志 (30)老子述義
(31)文選 (イ)李善注 (ロ)五臣注 (ハ)文選集注

三、和漢朗詠集私注所引漢籍一覧

はじめに

本稿の目的は和漢朗詠集私注に引用された漢籍・漢詩文を檢討し、私注が著わされた當時いかなる漢籍・漢詩文が使われ、讀まれていたかを知ることにある。したがって積極的に出典研究や注釋研究をするのではなく、私注の著者の注釋方法及び態度について調査研究することである。ある著者がどのような材料を用いて、どのように研究したかを究明することは、私意を加えることができず、客觀性が求められるので、誠に困難である。なるべく私意を加えず筆を進めるつもりであるが、不充分な點が少なからずあると思うがあえてここに發表する。

私注に引用された漢籍・漢詩文は多岐にわたっており、すべてを檢討する暇がないが、本稿では注目すべきものを略説し、文選のみを特に詳細に檢討してみたい。殘るものについては引用出典一覧表を附すので、そちらを參照されたい。なお、私注本文は、影印本（新典社叢書 和漢朗詠集私注）を近く上梓するので、あわせ參照されたい。尚、私注の作品番號は和漢朗詠集（岩波日本古典文學大系）に合わせた。

一 和漢朗詠集の注について

和漢朗詠集の研究は、はやくから行われ、高い成果が得られ、今更述べるべきものもないが、私注の價値を知る上で、重要と思えるもののみに限定を加え紹介するにとどめる。

(イ) 朗詠江注

私注の先蹤書として、袋草子や清輔本古今集勘物にその跡をとどめており、黑田彰氏が指摘（類聚本江談抄と朗詠江注 ―巻四、六の編纂資料― 五十六年

度十二月六日發表レデュメ）されるように、和漢朗詠集に書き入れの形で、江注が傳えられているという。江注は和漢の作品を兼ねているが、この江注と、嘉承元年（一一〇六）頃の成立といわれる大江匡房談、藤原實兼筆録とされる江談抄の類聚系（古本系の水言抄等に對していう）本文の巻四、五、六にその痕跡を停めている。この江談抄と和漢朗詠集の關係については、はやく柿村重松著和漢朗詠集考證（大正十五年＝一九二六）に指摘引用が見られ、川口久雄著和漢朗詠集・梁塵秘抄（岩波日本古典文學大系 昭和四十年＝一九六五）に出典一覧が見られる。いま、朗詠の作品番號と群書類從本の巻と頁を示しておこう。

(555)四584b、(521)四584b、(433)四585a、(350)四585a、(323)四585a、(495)四585b、(22)四586b、(97)四586b、(73)四587a、(583)四588b、(205)四589a、(271)四589a、(250)四589a、(248)四589a、(217)四589a、(334)四589b、(702)四589b、(400)四589b、(597)四590a、(41)四590a、(636)四590b、(455)(254 482)四590b、(242)四590b、(792)四590b、(338)四591a、(267)四591a、(786)四591a、(319)四591a、(725)四591b、(372)四591b、(740)四592b、(342)(426)四593a、(738)四593b、(677)(672)四593b、(257)四595a、(622)四595a、(628)四595a、(635)四595b、(646)四595b、(295)四595b、(279)四595b、(276)四595b、(730)四596a、(458)四596b、(414)四596b、(322)四598b、(620)四598b、(548)四598b、(269)四598b、(774)四599a、(502)四599b、(523)四599b、(688)四599b、(346)四599b、(342)(426)五602b、(227)五606a、(728)五613b、(609)(164)五613b、(374)六616a、(311)六616a、(499)六616b、(416)六616b、(679)(680)六616b、(685)六616b、(746)六616b、(437)(758)六617a、(632)六617a、(634)六617a、(262)(264)六617a、(592)六617b、(320)六618a、(406)六618a、(737)六618b、(653)六618b、(658)六618b、(68)(69)六618b、(413)六618b、(475)六619b、(34)六619b、(557)(727)六620a、(485)(762)六620b、

右は朗詠と直接關係のあるものであるが、そのほかに、文選、白氏文集、坤元錄等に論及した文があり、私注に影響を與えたもの大である。ただし、私注は江注ないしは江談抄をそのまま引用したものではなく、選擇が行われているのは當然である。次に江談抄と私注の例を二、三對比してみよう。

555(江四)蘭省花時錦帳下、廬山雨夜草庵中 白

古人傳云、此句文集第一句云々。故源右府師房仰云、不避三連之
句也。難為規摸云々。

(私注)蘭省花時錦帳下、廬山雨夜草庵中 廬山草堂雨夜獨宿 白
蘭省、禁中歟。言、白氏初仕趨朝庭、後往廬山下。

319(江四)四五朶山粧雨色、兩三行雁點雲聲 杜荀鶴、淮陽道中詠

古來難義也。但大略見古集。以蓮喩山也。呂榮望花山詩云、花
岳陰森秀色濃、削成三朶碧芙蓉。張方古女几山詩云、空唱香
几在山上、碧玉蓮花數朶高云々。

(私注)四五朶山粧雨色、兩三行雁點雲秋 鄢陽道中 杜荀鶴
四五朶者古來之難義也。但呂榮望花山詩曰、華岳陰森秀色
濃、削成三朶碧芙蓉 以此可為證歟。

227(江五)朗詠集相如作多入事

又四條大納言者、高相如之弟子也。仍撰朗詠集時、多入相如
作。所謂蜀茶漸忘浮光味、并蕉蘇往反之句、有何秀發乎。

(私注)蜀茶漸忘浮花味、楚練新傳擣雪聲 暑往寒來詩 江相公
蜀郡茶草、夏日其花浮水。飲之則散熱。商賈人多募利云々。楚
國人、秋擣練為冬服。言、暑往故、曰忘浮花味。寒來故、曰擣雪

聲云云。

632（江六）前途程遠、馳思於雁山之暮雲、後會期遙、霑纓於鴻臚之曉涙。

於鴻臚館餞北客詩序　後江相公

此句渤海之人流涙叩胸、後經數年問此朝人曰、江朝綱至三公位乎、答云未也、渤海人云、知日本國非用賢才之國云々。

（私注）前途程遠、馳思於雁山之暮雲、後會期遙、霑纓於鴻臚之曉涙、

於鴻臚館餞北客序　後江相公

鴻臚館在羅城門傍、異朝人來時舍此處云云　雁山者在益州見于千字文注云云　此詩或曰唐使周文德遇時朝綱作

555の句は枕草子でも有名な白氏文集の名句であるが、注に直接の關連は認められない。319の句の兩書の關係は明らかである。227は朗詠集を論じているのだから、論をまたない。632は注の類似は認められるが、因果關係を云々することは困難である。以上江談抄、朗詠との共通句を考えるとき、當然私注への影響を考えてさしつかえない。

（ロ）和漢朗詠集私注

川口久雄博士は岩波大系の朗詠集の解題で私注について次のように述べている。

江家の注に次いで私注がなった。六巻。これは普通釋信阿の注といわれるが、東急所藏市埜光彦・森立之舊藏本私注に據ると、信救房覺明が平安末の二條院應保年中（一一六一—六三）に南都で菅家本に據って注したものという。架藏本私注も東

急本や、靜嘉堂藏梭齋舊藏本私注とほぼ同じ室町末期の寫本、それには文中に信阿靈鬼志となくて單に靈鬼志として引用されかつ信阿に注して信救房阿闍梨光弘也とある。覺明は勸學院文章博士進士藏人通廣（通弘、光弘にも作る）であって剃髮して南都の信救得業と號したので、沙石集卷九下に「コソノカミ東大寺法師ニテ、信救得業トテ才覺ノ仁アリケリ。朗詠ノ注ナドシタル物也」とある。この信救を草體文字が似ているところから、信教・信阿ともあやまったらしく、永濟の集註・雅嘉の群書一覽・保孝の朗詠攷の說に從って信阿私注と俗稱せられるものは覺明注をあやまったものとみておく。覺明は三教指歸覺明注において佚書琱玉集を引用しているが、本書にも琱玉集を引いていて、平安朝末撰述とみていい古色もある。ただし東坡・山谷・杜甫・三體詩註などの引用があったり、和歌を注したりするところは後人の增補にかかるものであろう。

右の引用で問題になるのは(a)信救房覺明と信教・信阿とが同一人物である。(b)東坡・[注ァ]杜甫・三體詩注などの引用があるの二點である。(a)は斷定できぬが、信阿の私注しか傳わらぬ現在、李吟の和漢朗詠集註の序の記述とあわせ認めておこう。(b)は內閣文庫室町期寫本、版本等には引用が認められず、後人の增補たること明確である。

內閣文庫本の跋によれば、應保元年（一一六一）辛巳十月五日に、出羽最上郡の瀧山寺の信阿が、山階寺の上乘院の律師の求めに應じて草したといわれるので、平安末期の成立が考えられる。この說を信ずると、私注に引用された漢籍、漢詩文の性格は自然に位置づけられることになり、私注の存在は貴重である。

(ハ)永済注

永済の單注は山田孝雄博士(岩波文庫倭漢朗詠集の序説 昭和五年=一九三〇)によれば文安年間(一四四四―一四四八)に成る太子傳玉林抄[注2]に引用が見えるという。しかし、まとまった注は北村季吟の和漢朗詠集註[注3]に引かれたもので見ることができる。この永済注と私注を比較すると、永済注が私注に加徐を加えたことがうかがえる。永済注は漢籍・漢詩文にのみ注を加えたものである。両者を比較してみよう。

90(私注)青絲繆出陶門柳、白玉裝成庾嶺梅 尋春花後江相或菅三品

時務策注曰、陶潛字淵明、隱彭澤門下植五株柳、會飲於其下。時人號曰五柳先生、庾嶺梅東在上在。

(永済注)青絲繆出陶門柳、白玉裝成庾嶺梅 尋春花後江相或云菅三品

此詩上句ニ陶門柳トハ陶淵明ガ門ニ柳五本ウヘテ自ラ五柳先生ト云シコト上ニ見タリ。其柳ノウチナビクアリサマ青キ絲ヲクリイダスニ似タリト云也。下ノ句ニ庾嶺トイハモロコシニ五ノ嶺アリ。庾嶺其一ッセ。彼コニハ多ク梅アリトイヘリ。梅花ノサケルサマハ白キ玉ヲヨソホヘルニ似タリト云ナリ。後江相トハ大江朝綱卿也。從四位下玉淵ガ男。天德元年ニ薨ス七十二。

引用を一例にとどめたが、両者の相異を全巻を通じて見るに、私注が漢文表記であるのに對して、永済注が和文であることが特徴で、私注が典據を多く示して、簡要な注

であるのに比して、より説明的で、内容がこなれており、注釋としては一歩前進しているといえる。ただ本稿の目的である引用漢籍・漢詩文の研究においては私注に魅力がある。

永濟は私注を參考にしていると思えるが、逸話等を説くにも原典を離れてより豊かな表現になっている。これはあたかも文選に於ける李善注の典據主義に對して語釋に力を致している五臣注の如き觀を呈する。

(二) 和漢朗詠集註

北村季吟が永濟の漢詩文の注に和歌の注を加えたもの。寛文十年(一六七〇)十二月二十八日の自序がある。

朗詠者、殿風起於催馬樂・風俗之後。而我邦中世以降、上自朝廷、下達於鄕黨、歌謠之者也。睠夫孫興公天台山賦云、朗詠長川。李周翰註文選云、朗高也。李善云、朗猶清徹也。宜哉、一高詠之則心思澄徹。其所據良有以也。抑此集也、當一條帝御宇四條亞槐公任卿所摭集也。其語巧而意達、其章文而旨深。實是鸚鵡之舌乎、鳳凰之毛乎。其作者兼備和漢、尤傑然者也。和漢朗詠集號由是而起焉。始記四時之詩歌、末記帝王・丞相・刺史・交友之諸什及佛事無常之章、鱗次蟬聯。撰者其有思乎。先哲解此集者可謂居多也。有江家註、合註和歌。世聽其名、未見其書。今也有覺明之註、有玄惠之抄、俱行諸世。各僅記事實來歷、未盡其旨趣也。屬者中野氏某閲市而搜獲永濟之註、亦予不喜而嘉乎。其爲註、祖述覺明之註、以和語解之。未詳其姓

字。不知何人。古人有謂、讀其書不知其人而可乎。今細視之、則語意筆精巍巍璨璨。知非近世之俗士。漢才云、倭語云、兼之者、蓋此人也歟。惜哉猶闕和歌之註解。豈非白圭之玷也乎。予少時聞此集之詩章於尺五堂。至和歌之秘訣、則請問逍遊軒。予於此集、其所從舊矣。今幸見永濟註之。日芟其繁、輯其餘、附以嚮所聞之和歌之訓說、該為一編、亡慮十巻、號曰和漢朗詠集註。嗟夫至朗詠之音響曲折、我所不與知也。啻述前脩之訓說、而明此集之大義而已。恐不合大人意也。我黨之小子、含毫朗詠歌林者、有所資歟。於是乎書。

時寛文十年臘月廿八日　北村季吟　識

意はこの序で盡されているが、序の文言に注解をつけておこう。「孫興公の天台山賦」とは、文選に遊天台山賦と見えるのをいう。「凝思幽巖朗詠長川」の李周翰（五臣の一人）の注に「朗、高也」といい、李善の注に「朗、猶清徹也」といっている。和漢朗詠集の成立は一條帝ではなく三條帝の長和二年（一〇一三）頃の成立とされる。「鸚鵡の舌」とは果實の名であるが、ここでは、鸚鵡能く言うの意であろう。「鳳凰の毛」とは鳳毛の意で、秀れた文才の喩。あわせて、辨舌文才の秀れた喩。「鱗次」とは、うろこのようにならびつらなる意、「蟬聯」とはせみの鳴き聲が絶えず續くようにつらなり續くことの喩。朗詠集の詩句が聯綿とつらなるさまをいう。「逍遊軒」は松永貞德（一五七一〜一六五三）をいう。

ここに、永濟の注にふれて、「覺明の注を祖述して、和語をもってこれを解せり」といって、次いで「その繁きを芟き、その餘を輯め」とは、季吟引く永濟の注はもとの注そのままではないのではな

かろうかという疑問がわく。覺明の注を永濟はどのように祖述していたか、そして、季吟がどのように改めたか、原永濟注を發見しない限りわからない。尚、季吟の序文には訓點が一切ないので、筆者の恣意によって施したものである。日本歌謠集成に翻印されているが、その讀み(斷句)に誤りが認められるので注意が必要である。念のためであるが、信阿と覺明が同一人物と見ての論であることをことわっておく。

(ホ)柿村重松　和漢朗詠集考證(大正十五年＝一九二六、目黒書店)

出典考證及び關連作品についての論及など精緻を極め、今に至るも第一級の研究書である。昭和四十八年(一九七三)に藝林舎から影印出版されている。

(ヘ)川口久雄　平安朝漢文學史の研究(昭和三十四年＝一九五九　明治書院)、和漢朗詠集　梁塵秘抄(昭和四十年＝一九六五　岩波書店)

兩書は考證の説を一歩進めるとともに「朗詠集の成立と和漢抄の屏風」(岩波)の論で見られるように、一首帖和漢抄屏風の本文と朗詠集との關係等成立論に獨特の説が見られる。後著は前著を發展させたもので、補注及び出典一覽も價値が高い。

二　私注所引漢籍・漢詩文考

私注の注釋に引用された漢籍漢詩文は多く、今は佚したものも見られ、これが私注の價値を高くしているものである。全貌については後に附した出典一覽を參照されたい。ここでは別に一章を設けた文選を除く諸書について述べてみたい。ただし、筆者が論ずる必要ありと認める書のみに限定し、その順序は一覽表の五十音配列に從う。

(1) 陰陽書

日本國見在書目[注5]（以下見在書目と略稱）は藤原佐世（～八九八）の著わした漢籍目錄であるが、この書に大唐陰陽書五十一卷、新撰陰陽書五十卷呂才撰が著錄されている。舊唐書 經籍志（以下舊唐志と略稱）に陰陽書 五十卷 呂才撰、新撰陰陽書 三十卷 王粲撰 新唐書 藝文志（以下唐志と略稱）に呂才陰陽書五十三卷、王粲新撰陰陽書三十卷が著錄されている。兩書ともに今は佚して、わずかに輯佚書にその一部を傳えるのみ。この書は五行類に分類されている。輯佚書として玉函山房輯佚書[注6]（以下玉函山房と略稱）子編陰陽類、鳴沙石室佚書[注7] 存卷十三（以上影印本あり）に呂才の撰あり。また、本邦殘存典籍による輯佚資料集成（新美寛編 鈴木隆一補 京都大學人文科學研究所 以下輯佚資料と略稱）に唐王粲、唐呂才の兩書を引く。ここに私注の例を見よう。

164 陰陽書曰、夏至後第三庚爲初伏、第四庚爲中伏、立秋後初庚爲後伏。謂之三伏。（玉函山房、所引 初學記四、太平御覽三十一、白孔六帖四 〈呂才撰〉）

261 陰陽書曰、二八月中前後間、戊日也。（王粲、呂才のいずれか不明）

320 陰陽書曰、月上旬其上晃曰之上弦、下旬其下晃曰之下弦。（輯佚資料續所引和漢朗詠註略抄〈呂才撰〉）

(2) 班婕妤 怨詩

班婕妤の怨歌行で知られる樂府詩、文選、玉臺新詠、初學記、樂府詩集等に所收。問題は本文に異同があって、それ故に逆にどのように本文が選ばれたかを知る手

懸りが得られる。今、私注と他の本文を比較してみよう。

162（私注）班婕妤怨詩曰、新裂齊紈素、鮮潔如霜雪、裁為合歡扇、團團似明月

199（同）團扇似雪月、見婕妤詩、

380（同）班婕妤詩曰、新裂齊紈素、鮮潔如霜雪、裁為合歡扇、團團似明月、

779（同）文選曰…班婕妤怨詩在上注、

（文選 李善注）新裂齊紈素、皎潔如霜雪、裁為合歡扇、團團似明月、…

（文選 五臣注）新裂齊紈素、鮮潔如霜雪、裁成合歡扇、團團似明月、…

（宋本玉臺新詠）新裂齊紈素、鮮潔如霜雪、裁為合歡扇、團團似明月、…

（初學記 月 似紈扇）新裂齊紈素、鮮潔如霜雪、裁為合歡扇、團團似明月、

（同 雪 班扇）新裂齊紈素、皎潔如霜雪、裁為合歡扇、團團似明月、

（同 霜 齊紈扇）新裂齊紈素、皎潔如霜雪、

（樂府詩集 42）新裂齊紈素、鮮潔如霜雪、裁為合歡扇、團團似明月、…

以上注目すべきは、私注引く怨詩（怨歌行）において、鮮と為字の異同が問題となる。私注の本文と一致するものは玉臺新詠[注8]、初學記[注9]月の部、樂府詩集[注10]の本文である。初學記は文選李善注系本文と玉臺新詠系の本文を使っていることになる。ただし、引用本文が後世の改變を受けていないことが前提である。玉臺新詠は徐陵（五〇七－五八二年）が梁の簡文帝に近侍していた時に作られたという。見在書目録には、初學記とともに著録されている。樂府詩集は北宋（九六〇－一一二六）の頃と考えられるが、

私注の撰者が見たかどうか疑わしい。私注では文選とともに初學記が多用されており、初學記によって書かれたのではなかろうか、玉臺新詠も勿論使用された可能性はある。また、文選も玉臺新詠と同一本文を持ったものがあった可能性がある。注11 藝文類聚には文選の李善注の本文と五臣注本文と同じものが見られる。ただし藝文類聚は唐の武徳五年（六二二）〈唐書〉成立で、文選李善注は唐の顯慶三年（六五八）の上表、五臣注は唐の開元三年（七一五）上表成立したのであるから、藝文類聚の成立當時、すでに兩本文が行われていたと考えられる。

(3) 王起

王起は常識では人名にも思え、現に全唐文巻六四一―六四二には王起という人物の作品を収めているが、私注に引用している王起は皇甫謐の帝王世紀と何茂林の續帝王世紀（佚書）のことを指すのではないかと推測する。次に私注に引かれた例を示そう。

656（私注）王起曰、帝堯陶唐氏姓、伊祁名、放勛、高辛氏娶陳鋒氏女而生帝。眉有八彩、都平陽、茅茨不剪、土階三尺、蓂莢蒲生庖、命義和掌四時、封太山置諫鼓、立誹謗木、景星見、甘露降、醴泉出、十六即位年百日年崩、又曰、帝舜有虞氏姓、姚名、重花、鼓叟子、母握登感大虹而生帝、目有重瞳、年二十、以孝聞、三十、堯妻以二女、受堯禪、蓂莢生階、作簫韶、年一百五十歳崩、又大昊伏羲氏風姓、鱗身人首、母曰華胥、燧人之時、有大跡出雷澤、華胥履之感而生帝、製嫁娶、畫八卦、分九州、次甲暦、造書契、結網罟、養犠牲、以充庖廚、都陳在位一百一十年也云云。

皇甫謐は晋初の人で、帝王世紀の撰者であるが、この書には完帙なく、史記の注や藝文類聚、初學記等の類書に部分的に佚文を残すのみであるが、徐宗元の帝王世紀輯存(中華書局一九六四)に、それら佚文が輯められている。今、私注の引用する本文と關係ある部分を引き、問題になる部分に注記を加えておこう。

(史記　五帝本紀)帝嚳娶陳鋒氏女、生放勳。娶娵訾氏女、生摯。帝嚳崩、而摯代立。帝摯立、不善、而弟放勳立。是為帝堯。(注)索隱、皇甫謐云、陳鋒氏女曰慶都。

(初學記9總敍帝王)帝堯陶唐氏、帝王世紀曰、堯、伊祁姓也。母曰慶都、孕十四月而生堯於丹陵、名曰放勛。鳥庭荷勝、眉有八采、豐下銳上。或從母姓伊祁氏。年十五而佐帝摯、受封於唐。年二十而登帝位。以火承木、都平陽。景星耀於天、甘露降於地、朱草生於郊、鳳凰止於庭。廚中自生肉脯、其薄如翣形、搖鼓則生風、使食物寒而不臰。又有草夾階而生、隨月而生死、名曰蓂莢。始堯在位五十年登舜、二十年始老、使攝政、二十八年而崩。即位九十八年、壽一百一十八歲。

「茅茨不翦、土階三尺」の句は群書治要[注11]11史記五帝本紀注(輯存所收)に「為堯堂高三尺、土階三等、茅茨不翦」が見える。「萸[注12]蒲生庖」の句は輯存には見えぬが、「廚中自生肉脯其薄如翣形」を指すか。萸は藥草の茱萸、蒲は白蒲で藥草として使われる。「羲和…諫鼓」は群書治要巻十一史記五帝本紀注に「置敢諫之鼓、…命羲和…」と見える。「誹謗木」は群書治要巻十一、史記(輯存)に「舜立誹謗

之木」となっていて、舜がこの木を立てたことになっている。呂氏春秋自知篇、淮南子主術訓等諸書いずれも、堯が敢諫之鼓を置き、舜が誹謗之木を立てたことなっており、理にかなっている。醴泉の語見えず。醴泉は瑞祥の泉で甘露とも言われ、「甘露降、醴泉涌」(列子湯問)等と表現される。原帝王世紀には私注に近い表現がとられていたことが十分考えられる。

次に同じく初學記に舜についての記述を見よう。

帝舜有虞氏。帝王世紀曰、舜、姚姓也。其先出顓頊…橋牛生瞽瞍。瞽瞍妻曰握登、見大虹、意感而生舜於姚墟。故姓姚氏、字都君。家本冀州。其母早死、瞽瞍更娶、生象傲。而父頑母嚚、咸欲殺舜。舜能和諧…年二十始、以孝聞。堯以二女娥皇女英妻之…堯乃命舜代己攝政。明年正月舜始受終文祖…舜攝政二十八年而堯崩…

(史記 五帝本紀)虞舜者、名曰重華。(注)集解、徐廣曰、皇甫謐云、舜以堯之二十一年甲子生…七十九年壬午即真、百歳癸卯崩。

(同)舜年二十以孝聞。三十而帝堯問可用者、四嶽咸薦虞舜、曰可。於是堯乃以二女妻舜以觀其內、使九男與處以觀其外。…

「蓂莢生階」は堯の時の事。簫韶は藝文類聚11帝王部帝舜有虞氏に「乃作大韶之樂、簫韶九成、鳳皇來儀」(帝王世紀)が見える。

大昊伏羲氏は、これも帝王世紀に見える。

(初學記・總敍帝王)庖犧氏、風姓也。蛇身人首、有聖德。燧人氏沒、庖犧代

之。繼天王、首德於木、爲百王先。帝出於震、未有所因、故位在東方、主春象日之明、是稱太昊、都陳。制嫁娶之禮、取犧牲以充庖廚、號庖犧氏、是爲犧皇。後世音謬、故謂之伏犧、或謂之宓犧

華胥については、易繫辭下正義に「大皞帝包犧氏、風姓也。母曰華胥、燧人之世、有大人跡出於雷澤、華胥履之、而生包犧……」（輯存）と見える。八卦については、初學記21經典に「帝王世紀曰、庖犧氏作八卦、神農重之爲六十四卦、黃帝堯舜引而伸之、分爲二易……」とある。また、注13太平御覽721醫に「於是造書契、以代結繩之政、畫八卦以通神明之德」（帝王世紀）と見える。九州については同じく太平御覽755敍京都上所引の帝王世紀に、「宓羲爲天子都陳、在禹貢豫州之域……」とあるが、ここに見える禹貢が九州である。

660に黃炎の語が見えるが、これに王起を引いて「炎帝神農氏姜姓、少昊之子、母女登、感神人而生、帝人身牛首、辨百草、制本草、造五絃、在位一百四十年」とある。これも帝王世紀の佚文に記事が見える。ところが661「皇甫謐之述百王」という本文に、私注は注して「皇甫謐造帝王世時記、此書未渡日本」といっているが、これは誤りで見在書目雜史に帝王世記卅巻皇甫謐、起三皇盡漢魏、と續帝王紀十巻何茂林撰が見える。ただ、私注の著者が帝王世紀を見ていず、王起なるものを何かから引用したことが考えられる。

王起を引いているもう一つの例は667「齊帝寵愛第八之子也」の私注に「王起云此文宣帝、姓高、名洋。凡五王、合二十年、廢帝、殷、孝昭帝演、武成帝湛、後

主諱云云」とあるが、これは皇甫謐の帝王世紀には時代が後れているので、引かれないのが當然である。もし引かれるならば續帝王紀であるが、今は佚書とて憶測の域を出ない。

ここに引かれた齊帝以下は北史の齊本紀に見える。齊帝寵愛の第八子とは桂陽鑠のことを指しているが、考證が言うように、齊帝の寵愛を受けたのは隨郡王かもしれない。なお、私注は北史に見える人物を引くが、ここでいう齊帝は北齊ではなく、南齊書に見える武帝(世祖)である。武帝十七王傳に「隨郡王子隆、字雲興、世祖第八子也。…子隆最以才貌見憚」とあるように、文才ある隨郡王が帝の寵を得ていた。朗詠本文の桂陽櫟は南齊書の高祖十二王傳に「桂陽櫟、字宣朗、太祖第八子也。…時鄱陽王鏘好文章、鑠好名理、時人稱為鄱桂」と見える。文中、鏘とある人物は「鄱陽王鏘、字宣韶、太祖第七子也。…鏘和悌美令、有寵於世祖」とあり、この人物が寵愛されたのであって、たまたま鑠と同一文中にあったため、この文(667)の作者菅三品(菅原文時)が誤ったものと考えられる。したがって、隨郡王とする考證とそれによった川口久雄博士の説は當っていないと言えよう。なお私注所引の「後主諱云々」とあるのは「後主諱緯、字仁綱」と北史になっている。

さて、王起が、如何なるものかわからぬが、皇甫謐の帝王世紀と何茂林の續帝王紀に何らかの關係あることをうかがえるものがあり、今後の研究で結論が得られるかもしれない。なお、帝王世紀は藝文類聚や初學記等に引文を見ることから、兩書が著録されている見在書目以前(奈良時代から平安時代)に文人達の目に觸れていたことは間違いない。ただし王起の著に廣五運圖(唐書藝文志)等があり、檢討の餘地がある。

(4) 王府新書

772に蝸牛角上争何事（白居易對酒）に私注は「王府新書ニ引荘子ノ篇ニ曰蝸牛ノ角ノ上ニ有リ二國十五日ニシテ而一タビ來リ戰フ矣」と注す。中國の藝文志類には見當らぬが、見在書目雜家類に王府新書五十（巻）が著録されている。この雜家類には、藝文類聚や初學記等類書類が著録されており、この書もわずか一例に過ぎぬが類書の性質を帯びた引用形式を持っているので類書と考えてよかろう。ちなみに、荘子のこの文は則陽篇に見えるもの。

藝文志類には同一書名のものはないが、魏の王基の撰になる王氏新書の佚文が玉函山房子編儒家類に輯めてある。あるいは王府新書と關係があるかも知れぬが、私注所引のものは見當らない。もう一つ困るのは儒家類の書に道家系統の書が、このような形で引かれるかということである。王基は三國魏志にその傳があり、封は東平侯に至っているので王府と呼ばれてもおかしくはない。

(5) 河圖

775に「霞光ハ曙ニ後殿ニ於火」の私注に「河圖ニ云、崑崙山ニ有リ五水、赤水之氣上リテ蒸シテ爲ル霞ト而赤シト云云」とここに引かれる河圖は見在書目異説家に河圖一巻とあるのがこれで、現在の目録學では經部易類易緯に分類される。秦、漢の間で盛んに行われた緯書類である。類書類や古注等に多く引かれ、中村璋八、安居香山氏の手で緯書集成（明德出版）が編まれ、佚文の集大成がなされている。私注に引かれた本文は白居易の白氏六帖ノ霞14赤水之氣に「河圖、崑崙山ニ有リ五色水、赤水

之氣上蒸爲霞陰而蘇之(之字淵鑑類函[注14]霞部所引河圖作然)となっている。初學記、藝文類聚はこれを引かない。六帖に據ったと思える。

(6)廻文詩

朗詠の241に「織錦機中已辨相思之字」の句があり、私注はこれに「秦嘉八ム行遠方使不久來其妻爲竇氏作回文詩織成錦文寄于夫」と注す。この故事は晋書列女傳竇滔妻蘇氏に見える。ここに引いておこう。

竇滔妻蘇氏始平人也。名蕙、字若蘭。善屬文。滔苻堅時爲秦州刺史、被徙流沙。蘇氏思之、織錦爲廻文旋圖詩以贈滔。宛轉循環以讀之詞甚悽惋。凡八百四十字。文多不錄

この廻文詩は廻文錦字詩として知られている。この蘇若蘭の璇璣圖詩は全晋詩[注15]に讀み方をも示して詳細に説かれているので紹介しておこう。

蘇若蘭

璇璣圖詩

前秦苻堅時。秦州刺史扶風竇滔妻蘇氏。陳留令武功蘇道質第三女也。名蕙。字若蘭。智識精明。儀容妙麗。謙默自守。不求顯揚。年十六。歸於竇氏。滔甚敬之。然蘇氏性近於急。頗傷嫉妬。滔字連波。右將軍于爽之孫。朗之第二子也。神風偉秀。該通經史。允文允武。時論高之。苻堅委以心膂之任。備歷顯職。皆有政聞。遷秦州刺史。以忤旨謫戍燉煌。會堅寇晉。襄陽慮有危偪。藉滔才略。詔拜安南將軍。留鎭襄陽。初滔有寵姬趙陽臺。歌舞之妙。無出其右。滔置之別所。蘇氏知之。求而獲焉。苦加捶辱。滔深以爲憾。陽臺又專伺蘇氏之短。讒毀交至。滔益忿蘇氏。蘇氏時年二十三。及滔將鎭襄陽。邀蘇氏同往。蘇氏忿之。不與偕行。滔遂攜陽臺之任。絕蘇氏音問。蘇氏悔恨自傷。因織錦爲廻文。五綵相宣。瑩心耀目。縱廣八寸。題詩二百餘首。計八百餘言。縱橫反覆。皆爲文章。其文

如意元年は周(則天武后)の年號、唐の中宗の嗣聖九年(六九二)に當る。

點畫無缺。才情之妙。超今邁古。名曰璇璣圖。然讀者不能悉通。蘇氏笑曰。徘徊宛轉。自爲語言。非我家人。莫能解之。遂發蒼頭。齎至襄陽。滔覽之。感其妙絕。因送陽臺之關中。而具車從。禮迎蘇氏。歸于漢南。恩好愈重。蘇氏所著文詞五千餘言。屬隋季喪亂。文字散落。追求勿獲。而錦字回文。盛傳于世。朕聽政之暇。留心墳典。散帙之次。偶見斯圖。因述若蘭之多才。復美連波之悔過。遂製此文。聊示將來。如意元年五月一日。大周天冊金輪皇帝製。

琴清流楚激弦商秦曲發聲悲摧藏音和詠思惟空堂心憂增慕懷慘傷仁

芳廊東步階西遊王姿淑窕窈伯邵南周風興自后妃荒經離所懷歎嗟智

蘭休桃林陰翳桑懷歸思廣河女衛鄭楚樊厲節中闈淫遐曠路傷中情懷

凋翔飛燕巢雙鳩土迤逶路遐志詠歌長歎不能奮飛妄清幃房君無家德

茂流泉清水激揚眷頎其人碩興齊商雙發歌我袞衣想華飾容朗鏡明聖

熙長君思悲好仇舊蕤葳粲翠榮曜流華觀冶容爲誰感英曜珠光紛葩虞

陽愁歎發容摧傷鄉悲情我感傷情徵宮羽同聲相追所多思感誰爲榮唐

春方殊離仁君榮身苦惟艱生患多殷憂纏情將如何欽蒼穹誓終篤志貞

牆禽心濱均深身加懷憂是嬰藻文繁虎龍寧顏感思岑形熒城榮明庭妙

面伯改漢物日我兼思何漫漫榮曜華雕旂孜孜傷情幽未猶傾苟難闈顯

殊在者之品潤乎愁苦艱是丁麗壯觀飾容側君在時巖在炎在不受亂華

意誠惑步育浸集悴我生何冤充顏曜繡衣夢想勞形峻謹盛戒義消作重

感故昵飄生從殃少章時桑詩端無終始詩仁顏貞寒嵯深興后姬源人雲

故遺親飄施思愆精徵盛醫風比平始璇情賢喪物歲峨慮漸孽班禍讒章

新舊聞離天罪辜神恨昭感興作蘇心璣明別改知識深微至嬖女因奸臣

霜廢遠微地積何遐微業孟鹿麗氏詩圖顯行華終凋淵察大趙婕所佞賢

冰故離隔德怨因幽玄傾宣鳴辭理興義怨士容始松重遠伐氏好恃凶惟

齊君殊喬貴其備曠悼思傷懷日往感年衰念是咎愆涯禍用飛辭恣害聖

潔子我木平根嘗遠歎永感悲思憂遠勞情誰與獨居經在昭燕輦極我配

志惟同誰均難苦離戚戚情哀慕歲殊歎時賤女懷歎網防青實漢驕忠英

清新衾陰勻尋辛鳳知我者誰世異浮奇傾鄙賤何如羅萌青生成盈貞皇

純貞志一專所當麟沙流頹逝異浮沈華英翳曜潛陽林西昭景薄榆桑倫

望微精感通明神龍馳若然倏逝惟時年殊白日西移光滋愚讒漫頑凶匹

誰雲浮寄身輕飛昭虧不盈無衰必盛有衰無日不陂流蒙謙退休孝慈離

思輝光飭粲殊文德離中闈一遠心意志殊憤激何施電疑危遠家和雍飄

想群離散妾孤遺懷儀容仰俯榮華麗飾身將與誰爲逝容節敦貞淑思浮

懷悲哀聲殊乖分聖貲何情憂感惟哀志節上通神祇推持所貞記自恭江

所春傷應翔雁歸皇辭成者作體下遺葑菲采者無差生從是敬孝爲基湘

親剛柔有女爲賤人房幽處己憫微身長路悲曠感生民梁山殊塞隔河津

讀圖內詩括例

依五色所分章次讀之。

仁智至慘傷。　倫匹至榛桑。　人賤至聖皇。　春陽至殊方。　欽岑至如何。

已上七言四十句。每句爲一首。每首反讀之計八十首。

詩風至微玄。　仁賢至凋松。　充顏至虎龍。　日往至寄傾。

已上五言十六句。以每句反讀之成三十二首。

周南至相追。　年時至無差。　讒佞至未形。　牽辜至伯禽。

已上四言二十四首。作兩句分讀。就成一篇。

嫪顏至勞形。　懷憂至何寃。　念是至如何。　悼思至者誰。　詩情至終始。

已上四言。前四首每句反讀。後一首每句反讀。成十首。

嗟歎至爲榮。　凶頑至爲基。　遊西至摧傷。　神明至鳳歸。

已上三言十二首。反讀成二十四首。

佞因至舊新。　南鄰至遺身。　舊聞至佞臣。　遺哀至南音。

已上七言。凡起頭退一字反讀之成四首。

廂桃至甚泮。　嗟中至春親。　春哀至嗟仁。　甚自至廂琴。

已上七言。自角退一字斜讀之成四首。

再敘

回文詩圖。古無悉通者。予因究璇璣之義。如日星之左右行天。故布爲經緯。由中旋外。以旁循四旁。於其交會。皆契韻句。巡還反復。窈窕縱横。各能妙暢。又原五采相宣之說。傳色以開其篇章。其在經緯者。始於璣蘇詩始四字。其在節會者。右旋而出。隨其所至。各成章什。外經則始於仁眞。至於音深。中經自欽深至于身殷。內經自詩情至于終始。皆循方回文者也。四角之方。如仁眞欽心。四韻成章。而回文者也。至其經緯之交者。隨色自分。則外之四角。窈窕成文。而文皆六言也。四旁者相對成文。而文皆六言也。及交手成文。而文皆四言也。在中之四角者。一例横讀。而四言在中之四旁者。隨向横讀。而五言惟璇圖平氏四字不入章句。觀其宛轉反復。皆才思精深。融徹如契自然。蓋騷人才子所難。豈必女工之尤哉。詩編載馳。史美班扇。才女專靜。用志不分。雖皆擅名。此爲精贍者也。聊隨分篇。掇其一隅以爲三隅之反。代久傳訛。頗有誤字。亦輙證改一二。其他闕謬。不欲以意足之。雖未能盡達玄思。抑庶幾不爲滞塞云。

廻文詩とは字の通り、詩句を碁盤の目のように排列し、始から讀み下しても、終から逆に讀み返しても、又、中央から旋回して讀んでも平仄も韻も相かなうように作ったもの（大漢和辭典による）文選の江淹の別賦にも「織錦曲兮泣已盡、廻文詩兮影獨傷」と見える。私注は竇滔妻蘇氏の故事の意を取り書いたものである。本朝文粋には橘在列の廻文詩があり、また、大江以言は暮春於文章院餞諸故人赴任同賦別路花飛白と題する詩序に「袖織廻文之霞」という文を書いている。これは、竇滔の故事を踏んだものである。和歌に廻文歌があり、廻文詩の影響が考えられる。

(7) 會稽録

425の句に「十八公榮……」とあり、私注は「會稽録曰、丁固為嘗夢松生其腹上、謂人曰、松字十八公也、十八歳予其公乎、卒如夢焉」と注す。古注蒙求の「丁固生松」には會稽録を引く。また蒙求和歌もこの故事を引く。この會稽録がどのような書かはっきりしないが、晉の虞預に會稽典録があり、これではないかと考えられる。藝文類聚88松には晉の張勃の呉録を引き、ほぼ同文である。

次に古注蒙求（書陵部藏）を引いておく。

丁固生松……會稽録、丁固為尚書、夢松出其腹上、謂人曰、松字十八公也、十八歳予其公乎、卒如夢焉矣（聲點は本文にもあるが省略）

(8) 外論

758の句の「昇殿是象外之選也」に私注は「外論曰、夫佐君道契環中與虚空、而不量神超象外随變化而無窮」と注す。象外の説明に外論を引いたの

であるが、外論が如何なる書かはっきりしない。象外とは心が形の外に超然としているのをいう（大漢和辭典）。環中とは莊子齊物論に「彼是莫得其偶、謂之道樞、樞始得其環中、以應無窮」という文が見える。扉の樞を受けとめる環にぴったりはまりこむこと。

(9) 月令

月令と稱する書は禮記の月令をはじめ、後漢の蔡邕（133〜192）の月令章句、後漢の崔寔の四民月令等がある。月令とは一年十二箇月の時節に應じて布く政令。これを記録したものが月令の書。私注は多くを初學記、白氏六帖等[注7]に依據している。

2（私注）月令曰、春來東風解氷、
（初學記春）禮記月令曰、孟春之月…東風解凍
（白氏六帖春）立春日東風解凍（出典を示していない）
これは原典の意をくだいて書いた例。

186（私注）月令曰、季夏之月、腐草化爲螢。
（初學記夏）月令曰、季夏之月、…腐草化爲螢。
これは原典の必要な部分を抄出した例。

55（私注）月令之章句云、關在城、所以察出御入也。
（初學記關）月令章句云、關在境、所以察出御入也。
（藝文類聚關）蔡邕月令章句曰、關在境、所以察出御入。
城（境）、人（入）等字の異同はあるが、ほぼ原典のままである。

(10) 漢記

漢記と稱して私注は三例引用している。見在書目には、漢紀卅巻 魏秘書監荀悦撰と東觀漢記百卅三巻 起光武訖靈帝長水校尉劉珍等撰の二書が、漢記(紀)と稱されるものであろう。ただし、荀悦の漢紀は本紀のみである。

私注引く漢記の二例は、188は蒙求でもよく知られる(車胤聚螢)晉の車胤の故事。版本漢書とす。413は「鶴鳴九皐聲聞於九皐」と注するが、白氏六帖 天 の「鶴鳴九皐聲聞于天」に「張重答漢昭帝」と注す。この文は漢書東方朔傳にも見られる。468は司馬相如と卓文君との逸事を述べたもので、漢書の司馬相如傳や蒙求の文君當壚に見られる。

(11) 漢書

後漢の班固の漢書は日本でもよく讀まれ、學者の間では史記以上に重用されたものである。私注にも漢書からの引用が多い。注目すべきは、人物中心の引用がなされていることである。出典一覧に蒙求との關係を示しておいたが、多くは琱玉集や蒙求等の人物中心の類書や初學記等からの引用がなされたものと考えてよかろう。

(12) 關中記

見在書目には著錄されていない。このことは同時に類書からの引用を予想させる。潘岳の撰になるこの書は佚書となり、類書及び輯本にその一部を傳えるのみ。

454(私注)關中記曰、二峽山者漢城之東山也、獼猴多、報任吏送迎者、皆俱留於此山相飲、言離別、獼猴集來而集俱飲鳴泣其聲甚似哀也、故爲琴曲名猿渡曲、亦曰二峽山曲云云。

547（私注）關中記曰、嵩山石室十餘所、有石床、道士多遊之。
（初學記嵩高山、石牀）潘岳關中記曰、嵩高山石室十餘孔、有石牀、池水、食飲之具、道士多遊之、可以避世。

(13) 九經略

九經には數え方に諸説があり、一定しないが、後漢の班固の漢書藝文志に六藝略があり、この分類中には經書類が著録されている。この六藝略の最後に「序六藝為九種」という文が見える。この九種とは、易・書・詩・禮・樂・春秋・論語・孝經・小學をいう。略は道という意であろう。この九經略が書名であるのか否か、見在書目、藝文志類は教えてくれない。引用は一例のみ。

686（私注）九經略云、學者如牛毛、成者如麟角。
（太平御覧496人事、諺下）蔣子萬機論曰、學者如牛毛、成者如麟角。

萬機論の撰者は魏の蔣濟で、三國魏志にその傳あり。萬機論と九經略との因果關係はわからぬが、解明は後日を期したい。

(14) 翹林文苑

この書が如何なる書かはっきりしないが、輯佚資料續の史部雜傳類に二例引かれている。その引用原典は三教指歸覺明注一例と和漢朗詠注略抄二例である。私注には六例の引用が見られる。（翹才文苑としている。）

42（私注）翹林文苑云、以越王鳥為酒盃。

69（私注）翹林文苑云、燕姫注曰、燕趙國名、燕姫、趙女、摠名也。

264(私注)翹林文苑曰、南陽酈縣有甘谷、水太甘美。其山上有菊水、流下
矣。谷中三十餘家人不復穿井、仰山上飲此水之者壽。留仙等。
289(私注)翹林文苑曰、楚客、謂屈原也。(離騒曰、紉秋蘭為佩)今按翹林
文苑、文今義不叶矣。
303(私注)翹林文苑曰、馬融、後漢代才人也。(同和漢朗詠注略抄)
633(私注)翹林文苑曰、鄭玄為都門守、赴任時飲酒三百餘盃、遂以不酔
也。

右のほかに和漢朗詠注略抄には次の文を引く。

288(翹林文苑)鮫人一名泉客、寄宿人家、去流而珠盈盤、以與主人曰、泉客慷
慨泣珠。

(15) 兼名苑

この書は見在書目雑家に兼名苑十五、今案廿巻が著録されている。源順は和名
抄にしばしば引用している。舊唐志には兼名苑十巻釋遠年撰、唐志には僧遠年
兼名苑十巻が著録されている。今は佚書となり、それらは和名抄、私注等に傳えている。
唐志は名家類に著録。輯佚資料續子部名家類に倭(和)名抄、二教指歸
覺明注、慧琳音義、醫心方、塵袋等からの輯佚が見られる。

767(私注)兼名苑曰、一夜水出一郡併作大湖。時人以錢買沙石、天下相
舉負沙石來集。此人不買、來客棄沙石歸。仍築塘得禦水。故曰錢塘
也。

この文は輯佚資料にも引かれていない。

(16) 坤元録

坤元録は魏の王泰の撰とされる。見在書目土地家に、同じ撰者の括地志とともに、坤元録百巻が著録されている。平安時代に坤元録詩や坤元録屏風があったことは川口久雄平安朝漢文學史の研究に詳しい。これら詩や屏風が朗詠集に影響していることは明かにされている。枕草子にも「坤元録の御屏風こそをかしうおぼゆれ。漢書の屏風は雄々しくぞ聞えたる。月次の御屏風もをかし」といい、江談抄にも、この書に論及している。今、参考までに引用しておこう。群書類聚本による。

(江談抄三) 諸御屏風等有其員事。……所謂漢書、打毬、坤元録、變相圖、賢聖、山水等御屏風之類是也。随時立之。

(江談抄四 cf. 私注91〜92) 五嶺蒼々雲往来、但憐大庾萬株梅 天暦十年内裏御屏風詩 菅三品　廣州山中嶺有五、其一在大庾、嶺上多梅樹、南枝先花開、此御屏風詩題目者、左大弁大江朝綱奉勅自坤元録中撰進、三人作詩。即朝綱、文章博士橘直幹、大内記菅原文時也。参議大江維時蒙詔評定。采女正巨勢公忠畫。左衛門佐小野道風書。並當時秀才也。惣八帖廿首。三人作六十首、撰定江十首、橘二首、菅八首。作者瀝思不如此詩。或人云、紀在昌不入作内心竊為歎云々。

(江談抄四) 青草舊名遺岸色、黄軒古樂寄湖聲。……　又故大府卿江匡衡云、坤元録屏風洞庭詩云、黄軒古樂之句。……

（江談抄四）欲識滔々流出處、南陽平氏是清涼　賦置酒如淮　江相公　北堂感讃州平刺史贈物作也。此詩注云、坤元錄云、淮水出南陽平氏縣、

（江談抄五）粟田障子、坤元錄詩撰者事。　又被申者（云永言）粟田障子詩輔正卿撰之。坤元錄詩維時卿（撰永言）。…粟田詩以言（大江）以帥殿（伊周）方人不被入之。怨言云、雖坤元錄（詩永言ナレド）絶句一首者、何不罷入哉云云。…

（江談抄六）在昌一万八千年之聲塵事。…在昌（永言）漏坤元錄屏風詩、愁歎（永言）難之間、既以病惱死去云（永言）々。

（江談抄六）文選三都賦事。…而坤元錄云、甘泉宮有玉樹、揚雄所賦是也。

古本系の江談抄には五例であるが、類従系本には七例（見落しがあるかも知れぬ）の引用が見られた。輯佚資料續子部地理類には弘決外典抄[注18]所引のものが見られる。弘決外典抄は具平親王（964～1009）の撰になるもの。

私注には六例の引用が見られる。

77（私注）坤元錄曰、大庾嶺梅、其花南枝先開、故先置南枝、…

91～92（私注）坤元錄屏風詩注云、五嶺之中、庾嶺有梅、云云（江談抄四参照）

108（私注）坤元錄曰、陸惠曉隣有池、池有柳。…（572参照）

257（私注）坤元錄曰、黄河千里周方一曲、…

512（私注）坤元錄曰、洞庭湖舊名青草湖、黄帝昔於此處誅蚩尤云云。（江談抄四）参照

572（私注）坤元錄曰、陸惠曉與張融卜隣、其間有池、池上有柳云云。（108参照）

江談抄と私注所引の坤元録と輯佚資料の坤元録と重複するものはない。これらの佚文の價値は高い。

(17) 混天圖

混天帝王五運圖古今須知、混天星圖(以上宋志)、混天鈔(秘書省續四庫書目)等混天を冠する書はあるが、混天圖と題する書は見在書目や藝文志類には見當らない。宋志 地理類に混一圖が著録されるが、書名としては難點がある。輯佚資料(地理類)續に收めるものは李嶠雜詠の注に引かれたもの。私注に引かれたものは四例、琨、昆、混と字を異にするが同一のものと考えてよかろう。

24(私注) 筆者、混天圖ニ曰、女媧氏所作ル也。

199(私注) 昆天圖曰、女媧氏造扇ヲ

245(私注) 金波、者、昆天圖ニ云、月ノ名也。

287(私注) 混天圖ニ曰、扶桑ハ日ノ名也。

輯佚資料に引かれているものと同じものはない。

(18) 史記

司馬遷の史記は漢書とともに多用されているが、漢書とともに類書に引かれたものを利用する傾向がつよい。この度は検討を避け別の機會に譲りたい。

(19) 時務策注

見在書目には著録せず。唐志に魏徵時務策五巻、(別集類)。宋志に魏徵時務策一巻(雜家類)同魏文正公時務策五巻(別集類)。中興館書目に時務策一

巻（玉海六一）が著録されている。時物策が時務策と同一物であったか否かはっきりしないので、論外とし、玉海が編まれた宋末には一巻に減少していることに注目すべきであろう。群書治要巻四八に楊偉の時務論が収められているが、これは別物。魏徴は唐初の功臣。日本漢學年表（大修館）によると、後二條師通記の寛治六年（一〇九二）十二月二十九日の記事に、師通が儀禮注とともに時務策を内より受領している。

90（私注）時務策注曰、陶潜字淵明、隠彭澤、門下植五株柳、會飲於其下、時人號曰五柳先生。

108（私注）時務策注云、嵆康字叔夜、家植株柳。

552（私注）時務策注曰、陶潜賢人也、隠彭澤、門植五柳、遊飲其下、時人曰五柳先生也。

魏徴の文は全唐文一三九―一四一に収められているが、藝文志の別集類に著録されている本書は當然收めらるべきであるが、すでに佚書となっている現在わずか二種二例の引用は貴重である。

(20) 初學記

唐の徐堅等の撰になる初學記三十巻は玄宗の時、皇子達の為に作られた官撰の類書で、初唐に歐陽詢等の手になった藝文類聚百巻に量の點では譲るものがあるが、正確で適正な資料の選擇と使い良さで一歩優っている。平安期になると、藝文類聚にとって替って注釋に多用されるようになった。見在書目雑家には著録されている。私注の注釋には文選、白氏文集、李嶠百廿詠等とともに最もよく使われてお

り、座右の書となっていたと考えられる。初學記を出典として示していない諸書も調査し
てみると多くは初學記によって書かれたものがある。今、例を示そう。
636(私注)漢武内傳曰、西王母來時有九光燈云云。
(初學記25燈 九光)漢武内傳曰、西王母遣使謂帝曰、七月七日、我當暫來
帝至日掃除宮内、然九光之燈
138(私注)荊楚記曰、去冬節一百五日、即有疾風甚雨、謂之寒食。琴
操曰、晉文公與介子推俱亡、子推割股以進文公、文公復國、子推獨
無所得、子推作龍蛇之歌而隱、文公求之不肯出、乃燒山左右、子推
抱木死、文公哀之、令人三月十五日不得舉火。
(初學記4寒食)荊楚歳時記曰、去冬節一百五日、即有疾風甚雨、謂之
寒食、……禁火三日。(注)琴操曰、晉文公與介子綏俱亡、子綏割腕股以
啖文公、文公復國、子綏獨無所得、子綏作龍蛇之歌而隱、文公求之、
不肯出、乃燔左右木、子綏抱木死、文公哀之、令人五月五日不得舉
火、……琴操所云子綏、綏即推也、又云五月五日、與今有異、皆因流俗
所傳。
406(私注)呉録云、五湖者大湖之別名、以其周行五百餘里、故以五湖為
名、又曰、大湖有五道、別謂之五湖。
(初學記7湖)張勃呉録、五湖者太湖之別名、以其周行五百餘里、故以
五湖為名、(注)虞翻又云、太湖有五道、別謂之五湖。

(491)(私注)(山) 國語云、山者土之聚也、爾雅曰土高有石曰山、釋名曰、山産也、言産生萬物也。

(初學記5總載山) 國語云、山者土之聚也。爾雅云、土高有石曰山。釋名曰、山産也。言産生萬物。

4~5(私注) 説文曰、池者波也。風俗通曰、孫子有金城湯池之説、後人因此開地為池、以養魚鼈。漢書、西京雜記曰、漢武帝元狩二年穿池為昆明池。

(初學記7昆明池) 説文云、池者陂也、從水它聲。風俗通云、孫子有金城湯池之説、後人因此開地為池、以養魚鼈。按漢書及西京雜記、昆明池、漢武帝元狩二年所穿也……象滇河作昆明池。

右はわずかに數例であるが、歳時記、地名その他宮殿、苑池等に注する時に多く使われている。初學記には敍事の部と事對の部があり、特に事對の部は百科語彙の注をするのに極めて便利になっている。例えば、美婦人の部に巫峽と洛川を對にして、その出典を示すわけである。朗詠集の分類が類書や、分類詩の形をとる李嶠百廿詠（雜詠ともいう）の注等に近いので、注をするにもこれらの書が便利なのである。初學記とはっきり明示しているものは、ここでは省略するが、私注の注が作られるにあたり、常に初學記が座右に置かれていたことを想像すると興が湧くのである。

(21) 紹運圖

見在書目には著録されず。宋志の編年類に諸葛深紹運圖一巻、中興館書

目編年類にも紹運圖一巻　諸葛深撰（玉海五六）が著録されている。今は佚書となり傳えられていないかに見える。私注に一例引かれるのみ。

39（私注）紹運圖云、魏文帝、名丕、字子櫳、乃太祖曹操子也、八歳屬文、有逸才、博貫古今。

曹丕の字は子桓、あるいは文帝曹丕の弟曹植のことか。ただし、字は子建。陳思王と稱され、十歳にして善く文を屬し、筆を執ればたちどころに成ったという。蒙求にも「陳思七歩」と題す。文帝丕も文人としてすぐれ、典論を著わしている。私注の引用に誤りがあるかに見受けられる。

(22)　千金翼方

唐の孫思邈の撰になる千金翼方は中國古代醫學の書である。撰述當時そのままのものとは思えぬ節もあるが、版本あるいは影印本として容易に見ることができる。（一九五五錦章書局影印本。一九五五人民衛生出版社版等）。見在書目にも千金方卅一孫思邈撰、千金方抄一（巻）が著録されている。私注には一例見られる。

(137)（私注）千金翼方曰、羊食山榴躑躅而死、故號山榴曰羊躑躅。

ここに羊躑躅（ようてきちょく）という植物は、キツツジまたはレンゲツツジの異名をもつ。學名を（Rhododendron Sinense）といい、石南科の落葉灌木。和名抄20に「羊躑躅、陶隱居本草注云、羊躑躅……（注）和名以波豆豆之。一云毛知豆豆之。羊誤食之、躑躅（あしずり）而死、故以名之。」といい、名義抄法上七五に「イハツヽジ　一云モチツヽジ…」という。今本の千金翼方3．本草中、草部下品之上に羊躑躅についての記述が見えるが、私注所引のもの

は見えない。本草綱目 草部毒草類 羊躑躅に黄躑躅、黄杜鵑、羊不食草、鬧羊花、驚羊花、老虎花、玉枝の異名が見える。綱目所引の別録に陶弘景曰、羊食其葉、躑躅而死。故名。鬧當作惱。惱、亂也。」と見える。なお、紅躑躅、山躑躅と称するものは毒性がない。私注の本文は陶弘景(隠居)の本草注を誤って引いたか、原千金翼方にそのような本文があったかのいずれかであるが、定めかねる。

(23) 千字文

見在書目に千字文一巻 周興嗣次韻撰。千字文一巻 李暹注。千字文一巻 梁國子祭酒蕭子雲注。千字文一巻東駝同撰。千字文一巻宋智達撰。千字文一(巻)丁覘注の六種が著録されている。千字文が古事記の應神記に論語十巻とともに和邇吉師の手で将来されたことは有名である。今ではこの説には疑問が持たれ、周興嗣(?～五二一)が次韻(押韻して並べる)した千字文が傳來したのは六世紀末を上限とする(小島憲之 上代日本文學と中國文學上 漢籍の傳來)考えにとりあえず従っておこう。ここでは何時傳來したかは問うまい。私注に引かれた七例が當面の問題となる。千字文は初學の書として蒙求とともに入門書として盛んに使われた。そのため、注に用いるに必ずしも書名を示さずに潜在的に使われていることが十分に考えられる。

(59)(私注) 千字文曰、閏餘成歳

(千字文)上2b 閏餘成歳(以下 江戸無刊記 周興嗣 次韻、李暹注 纂圖附音増廣古注千字文)

786(私注) 千字文注曰、辰、北極、五星也 云云。

(千字文)上2a 辰宿列張(注)北辰ニ有ニ五星

385（私注）千字文曰、露結為霜。
（千字文）上3a 露結為霜
433（私注）千字文注云、昔伶倫氏、黄帝之臣也。於大夏之西、崑崙之陰、取竹為黄鐘之管、製十二孔、以像鳳凰雌雄之聲、即定律呂、分星次也。（弘決外典鈔に説苑を引いている。）
（千字文）上10b 鳴鳳在竹（注）？、
466（私注）千字文注曰、伶倫伐竹造管吹之、因号楽人曰伶人。
（千字文）cf 433
632（私注）雁山者在益州。見于千字文注云云。
（千字文）下17b 鴈門紫塞 代山山高峻、鳥飛不越。惟有一缺門、雁来往向此缺中過。人號曰鴈門山、…？
633（私注）千字文曰、尺璧非寶、寸陰是競。又曰、甯越十五年為晝夜嗜學云云
（千字文）上20a 尺璧非寶、寸陰是競（注）…呂氏春秋曰、甯越少時苦耕、友人謂曰、君學三十年、可免貧賤。越曰、他食吾不食、吾不食他寢吾不寢、以晝繼夜、如此十五年、豈不免哉。遂勤學十五年、明達經史…
七例の引用のうち李暹（五代梁の人）の注にぴったり一致するものはない。別の注を用いていることには疑いない。私注の注に略解を加えておこう。
186の辰は、初學記、星、紫極に「荊州占曰、北辰一名天關、一名北極、…」といい、

晋書天文志に、「北極五星」の語が見える。五星とは太子、帝星、庶子、后宮、天樞の五星をいう。433、466の伶倫云云は太平御覧565楽部、律呂に「呂氏春秋（古楽）曰、黄帝詔伶倫作為音律。伶倫自大夏之西、乃之崑崙之陰、取竹於嶰谷、以生竅厚薄均者、断両節間、其長九寸而吹之、以為黄鐘之宮、日含少、次制十二管、以崑崙之下、聽鳳之鳴、以別十二律、其雄鳴為六、雌鳴亦六、此黄鐘之宮、適合。……」と、また、説苑脩文に「黄帝詔伶倫、作為音律。伶倫自大夏之西、乃之崑崙之陰、取竹於嶰谷、以生竅厚薄均者、断両節間、其長九寸、而吹之以為黄鐘之宮、日含少、次制十二管、以崑崙之下聽鳳之鳴、以別十二律、其雄鳴為六、雌鳴亦六。以比黄鐘之宮、適合黄鐘之宮」と見え、太平御覧所引の呂氏春秋（傍に附したものは今本の本文による）が、説苑によって注されたものと考えられる。星次の語は唐書天文志に見えるが、星宿における星の配列については史記天官書にも詳しく述べられているので歴史は漢以前に遡ることができる。632の雁山云々は出處があやしいが、ここに見える益州は今の四川省の地（漢代）をいい、雁山は同地にある雁門山を指すか。ただし、千字文注の岱山は五嶽の一の泰山を指すと考えられるが、書かれているような傳説が何に據ったのかわからない。考證は文選の別賦及びその注所引の水經注に見える雁山とする。ただ、益州にある山でないので、千字文注とは一致しない。なお、岱山は山東省にある。この地に益都（北齊より今に至る、漢代の益縣）があり、この地に泰山があるので、千字文注はこの泰山を雁（門）山と注したかに見える。この支峰に回雁峰（雁飛嶺、岱史）がある。千字文の雁門紫

塞の紫塞は秦の始皇の作った萬里長城の別稱（古今注佚文 都邑）、鮑照の蕪城賦に「北走紫塞雁門」とあるのがこれである。從って、雁門とは雁門關を指すのであって、代山山でないことになる。朗詠集に於て、この雁門關の由來のある雁門山を雁山といったと考えるか、山東省の泰山の支峰であるか定めかねるのである。633は私注と千字文注の内容が一致するが、これも全く兩者が一致するわけではない。

私注に引かれる千字文注は李暹注ではなく、別の千字文注であると考えてよかろう。

(24) 琱玉集

見在書目 雜傳家に琱玉集十五卷が著錄されている。現在卷十二と十四が眞福寺に藏され、影印本も出ている。卷末に天平十九年歲在丁亥秋七月 日に書寫した旨が記されている。天平十九年は西紀七四七年である。私注に引用されたもので、書名を明示したものは一例に過ぎぬが、蒙求と同じく、人物を中心に作られた類書であるので、潜在的に利用された可能性がある。幸いこの一例は卷十二感應篇に殘存している。

762（私注） 琱玉集曰、伯夷殷時遼東孤竹之君子也。父薨、伯夷長子當立而讓位於異母弟、與親弟叔齊、來歸於周。周武王欲伐殷紂。伯夷叔齊諫曰、居父喪伐其君不可也。武王大怒、欲殺之。太公望諫而止。兄弟遂隱於首陽山、以武王之不義、乃不食周粟、唯食薇蕨延命。于時、王麻子入山、見二子曰、君等何賢人、獨愛山淺。伯夷等對曰、吾等遼東君之子、父薨後、奔周、以武王之不義、隱於此山、不食周粟、以菓薇為

食麻子、曰、普天之下、莫不王土、率土之民、莫非王臣、雖不食周粟、然食周粟異哉、於此、伯夷叔齊不食七日、倶死云云。

(琱玉集) 伯夷、殷時遼東孤竹君之子也。與弟叔齊倶讓其位、而歸於國、見武王伐紂、以為不義、遂隱於首陽之山、不食周粟、以微菜為粮、時有王糜子、往難之曰、雖不食我周粟、而食我周木、何也、伯夷兄弟遂絶食七日、天遣白鹿乳之、逕由數日、叔齊腹中私曰、得此鹿完噉之、豈不快哉、於是鹿知其心、不復來下、伯夷兄弟倶餓死也。出列士傳

琱玉集と私注所引琱玉集との間に本文の異同がある。琱玉集になくて、私注所引本に見える語があり、また、書き方の相異が見られる。このことは、私注の使った琱玉集と眞福寺本琱玉集とが、それぞれ別の本文を持っていたと考えられることである。眞福寺本も奥書の示す如く轉寫本であり、原本ではないことである。もう一つは、私注の撰者が意改を加えたという考え方である。この考え方も私注の原典引用の態度からすればありうるわけであるが、兩テキストの異同が、前者の考え方を支持せざるを得ない。そこで興味を引くのが輯佚資料 續 雜傳類所收の琱玉集本文である。私注本文とほぼ一致するものが、三教指歸覺明注に見られることである。今引いておこう。

(覺明注) 伯夷、殷時遼東孤竹君之子也、父薨、伯夷長子當立、乃讓位與異母弟、而與親弟叔齊、求歸於周、而諫武王、不令伐紂、武王大怒、即欲殺之、大公望諫、方得免命、兄弟遂隱於首陽山、以諫武王、不忠、乃不食周粟、唯食薇延命而已、于時王麻子入山見之曰、君等何賢人

獨愛山溪、伯夷等曰、吾等遼東君之子、父薨之後、奔周、當武王不義、隱於此山、不食周粟、以菜薇爲食、麻子曰普天之下、莫非王土、率土之民、莫非王臣、雖不食我周粟、然食我周菜、何異哉、於是伯夷叔齊不食七日倶餓死也。

覺明注の方が、私注よりやや詳しく理解しやすいが、兩引用文が同根であると言って、支障なかろう。覺明と私注の撰者が同一人物か類系の人物か論ぜられる由縁である。

(25) 白氏文集

白氏文集の平安時代に於ける流行は枕草子の「書は文集 文選 新賦 史記 五帝本紀……」を借りるまでもなく、源氏物語その他の諸書に引かれ、平安時代の文集寫本を多く傳えていることからもうかがえる。

朗詠集には川口久雄博士の調査では中國人の詩句一九五のうち白氏一三五首、次いで元稹の十一首が續き、二十六人で分ちあう狀態である。私注に引かれた注としての白氏も五十一例を數える。これは文選とともに私注の注釋の骨格をなすものである。極端な言い方をすれば、初學記と文選、白氏文集があれば注釋が成立したとも言える。

白氏文集に於ける詩の分類として、諷諭、閑適、感傷の内容によるものと、律詩、格詩歌行雜體・半格詩等の詩體による分類が並存する。ここで最も問題にすべきはどのような系統の白氏文集の本文が使われているかということである。白氏文集の諸本については花房英樹「白氏文集の批判的研究」(昭和三十五年 彙文堂)に詳細を

極めているし、同時にこの小稿に論ずるには無理があるので別稿に譲り、多くは語らない。

今、見ることのできる白氏文集は古鈔本系と舊刊本及び江戸刊本類である。古鈔本としては白氏生存中に書寫し將來されたといわれている系統の金澤文庫本（轉写本＝天理圖書館、大東急記念文庫藏）、神田本、管見抄等があり、書影は小松茂美氏の平安朝傳來の白氏文集と三蹟の研究に見られる。舊刊本として紹興刊本があり、江戸刊本には朝鮮本の系統の本として那波道圓木活本がある。江戸時代には明の馬元調校本を底本とする白氏長慶集（影印本＝汲古書院）その他があるが、ここでは論じない。比較の對象となる本文は金澤文庫本管見抄等の古鈔本であるが、完本なく、諸本を比較對照しなくてはならない。古鈔本類と紹興刊本を對照したものとして、那波本を底本とした、平岡武夫、今井清校定の白氏文集（京都大學人文科學研究所刊）があるが一部二冊に止った。非常に有益な書であるが、日本の古鈔本の聲點、傍訓が傳えられていないのが惜しい。これは無い物ねだりではある。なお、那波本は文集の完全な鈔本のない今、舊刊本を研究するには貴重であり、四部叢刊本で容易に見ることができる。また、中華書局刊の白居易集（一九七九）は紹興刊本（影印本あり）を底本としている。

私注引用の文集は上陽白髮人、長恨歌、琵琶引等重複して用いられるものも多いが、この度は白氏文集に於ける所在を示すに止める。底本は既に述べた中華書局版白居易集である。

（巻一、諷諭　古調詩）夢仙。（巻二　同上）重賦。（巻三　同上、新樂府）法曲歌、

上[4]陽白髮人、新[5]豐折臂翁、太[6]行路、昆[7]明春水滿、五[8]絃彈。（巻四 同上）百[9]鍊鏡、牡[10]丹芳、繚[11]綾、李[12]夫人、陵[13]園妾、井[14]底引銀瓶、古[15]塚狐、天[16]可度、秦[17]吉了、采[18]詩官。（巻七 閑適 古調詩）達[19]理。（巻十一 感傷 古體詩）過[20]昭君村。（巻十二 同上 歌行曲引雜言）長[21]恨歌、琵[22]琶引。（巻十三 律詩）代[23]書詩一百韻寄微之、歎[24]髮落。（巻十五 同上）燕[25]子樓。（巻十七 同上）尋[26]郭道士不遇。（巻二十六 同上）和[27]春深。（巻二十七、同上）過[28]元家履信宅。（巻三十一 同上）早[29]春招張賓客。（巻三十三 同上）尋[30]春題諸家園林。の三十首。内諷諭詩十八首、閑適詩一首、感傷二首、律詩八首である。

(26) 白氏六帖

白居易の著わした類書。白氏事類集要と言ったが、白氏六帖ないしは六帖と通稱。三十巻から成る。宋の孔傳の孔氏六帖と合わせ白孔六帖百巻が作られた。いずれも影印本がある。私注には七例の引用が見られる。初學記ほど利用されなかったのは出典を明確にせず、科擧の試驗や作文のための實用書として編まれたものだからであろう。書名は示さぬものの他にも引用が認められる。

69（私注）六帖ニ鄭文公賤妾ヲ名テ曰燕姫ト

（六帖30蘭）國香（注）傳鄭文公賤妾曰燕姞、……（台灣新興書局版 注17參照）

118（私注）白氏ガ六帖ニ云、蜀成都ニ有濯錦之江、

（六帖2錦）蜀錦（注）成都有錦城、… 濯（注）蜀有濯錦江、

六帖の形式は右の如くである。典據を明確にする注釋にはやや不滿であったであろう。

(27) 百詠

初唐の李嶠(六四四―七一三)の詠物詩に李嶠百廿詠がある。[注19] 又雑詠詩、單題詩とも言う。張庭芳が注を附して世に行われた。この注が私注でも用いられたと考えられる。源光行(一一六三―一二四四)が、この張注百廿詠を用いて百詠和歌を作った。光行の三部作と言われる蒙求和歌、百詠和歌、新樂府和歌(この書のみ散佚)が示すように、蒙求、百詠、白居易の新樂府が當時如何に流行していたかがうかがえる。百詠和歌については百詠和歌注(汲古書院)を参照されたい。張注百廿詠は神田本、天理本、慶大本、尊經閣本等があるが、この度は論じない。

百廿詠は百詠と略稱されるが、この詩の注が私注に多用されたのは詠物詩と類書の性格を兼ねていたからで、朗詠集そのものが、類似した性質を持っていたからである。

126(私注) 百詠注云、桃李不言下自成蹊

この注は百廿詠の桃、「獨有成蹊」の注である。この故事は蒙求に「李廣成蹊」と見え、蒙求和歌にも引かれている。

147(私注) 百詠注ニ曰、宜城出竹葉酒

百廿詠 酒「臨風竹葉満」の注。張華の輕薄篇に「蒼梧竹葉酒、宜城九醞醝」とあるもの。

この度は百廿詠が私注に重要な役割を果していることを指摘するに止める。私注に於ける引用は二十三例。

(28) 蒙求

唐の李翰の撰になる蒙求は千字文とともに童蒙の入門書として知られる。五山版はすでに千字文、胡曾詩とともに上梓されている。後にはこの二本が合刻(慶長、元和間)されている。この書は平安朝にすでに傳來し、陽成天皇の元慶二年(八七八)八月二十五日に皇弟の貞保親王が初めて蒙求を讀み、橘廣相が侍讀を勤めている。後、都良香は詩宴に加わり詩を賦している。(文粹、扶桑集等)。平安・鎌倉の寫本に無注本と注本があり、無注本は長承本が古く、注本は書陵部本の親本で楊守敬舊藏本が台灣故宮博物館に藏されている。書陵部本は寛政六年(一七九四)の轉寫本とは言え貴重である。また、眞福寺には鎌倉期の書寫本が存す。書陵部本は上巻のみ、眞福寺本は下巻の一部を存す。書陵部本は五九六のうち一から三〇二句まで、眞福寺本が四〇七から五七六句まで。今問題になるものは古注本のみである。

437(私注) 蒙求注曰、顔淵名回、賢人、孔子弟子也、家貧不過一簞食一瓢飲。

(附音増廣古注蒙求)435 顔回簞瓢 論語一簞食一瓢飲在陋巷、人不堪其憂、回也不改其樂、賢哉回也。(内閣文庫本。徐注本「顔回簞瓢」とす)

(蒙求和歌) 顔回瓢簞……(國會圖書館藏鎌倉期寫本)

745(私注) 蒙求注曰、石崇字季倫、金谷苑植花樹。

(古注蒙求)279 緑珠墜樓 晉書緑珠、石崇之美妓、善吹笛、孫秀使人索之、崇時在金谷別館、方登清涼臺……(書陵部本)

(附音増廣古注蒙求)347 季倫錦障　晉石崇字季倫、性豪華…帝賜愷珊瑚樹、高二尺許、愷以示崇、崇以鐵如意碎之、愷怒、崇乃命左右悉取其家珊瑚(樹)、高三四尺者六七株…

(蒙求和歌)緑珠墜樓…

(同)季倫錦障…

460(私注)蒙求注曰、周時魯般善造雲梯

(古注蒙求)162 魯般雲梯　博物志　周時、魯般爲楚善爲雲(梯)、將攻宋城矣。

634(私注)蒙求注曰、楊朱見岐路而哭之、其可以南爲其、以可北

(古注蒙求)34 楊朱泣岐　(淮南子)楊朱見岐路而哭之、爲其可以南可以北…

(蒙求和歌)楊朱泣岐…

右の附音増廣古注蒙求[注20]は徐注本へ移行する室町期に流行した本文で寫本のみが存する。すでに徐注本の書き入れが見られるが、古注の姿を傳えている。蒙求和歌は古注蒙求によって書かれたと言われる。私注所引蒙求注と現存蒙求注諸本と對比してみるに、一致しないものがあり、古注蒙求(書陵部本)とは別種の古注蒙求の存在を匂わせる。また、蒙求の名を示さず蒙求を用いて注したものの存在も考えられ、私注出典一覧に表示しておいたので參照されたい。

(29) 靈鬼志

靈鬼志と稱する書は晉の荀氏の撰になるものと、唐の常沂のものとがある。いずれも今傳

わるものは輯佚書で、作の全貌を傳えるものではない。荀氏のものは隋志、舊唐志、唐志に著録され、魯迅の古小説鉤沈に収められている。常沂のものは唐代叢書、龍威秘書等に録されている。今の目録學では何れも小説類に著録されている。見在書目には靈異記十巻が著録されているが、如何なる書かわからない。ここに私注引く靈鬼志は一例に過ぎぬが興味ある例と言えよう。私注引用のものは荀氏、常沂いずれの書にも見當らない。ただ、壒嚢鈔の「女郎花ト云事」に見える記事が參考になる。

(279)(私注 女郎花) 釋信阿靈鬼志曰、何文者漢人也、有一女子、容貌美、卒死、葬明日見其塚盡成菊花、故名菊花女、亦名女郎花、今案所稱之花ハ其狀異菊花也。

(壒嚢鈔) 女郎花ト云ハ、ヲミナヘシト云物歟、他ノ花歟、源順俗呼為女郎ト云ヘルハ、慥ノ説ナキ心歟、菊ヲ女郎花ト云事ハ大概分明ナル歟。靈鬼志曰、何文漢人也。有一女子容貌美、卒死、葬明日見其塚盡成菊花、故名菊花女、亦名女郎花ト云ヘリ。順カ花色如蒸粟ト云ヘルハ常ノ女郎花ヲ云ヘルニヤ、付之又有説、如蒸栗ト云ベキヲ、栗字ヲ誤テ粟ト書ケリ。蒸粟ムセル栗ニハ非ズ、蒸栗ト云木名也ト、江師云ヘリ、魏文帝ノ鍾大理與書ニ云、赤擬雞冠、黄侔蒸栗ト云ヘリ。是玉ノ色ヲ云也。王逸 正部論 云赤如雞冠、黄如蒸栗、白如猪肪、黒如純漆ト云ヘリ、是猪肪ト云ヘルハ、ヰノシシノ腰ホトナル脂也ト云ヘリ、色シロキ物ニヤ

ここで問題になるのが「信阿靈鬼志」である。「信阿の靈鬼志」と考えるか、「信阿曰く靈

鬼志曰く」とするかであるが、塵袋鈔に信阿の語が見えず、これは中國の話でもあり、後者とすべきではなかろうか。次に女郎花の解釋である。江談抄に「花色如蒸粟、俗呼為女郎」順、詠女郎花 或云、近日以粟為粟可咲之、擬文選注木名也云云」と言う。白氏文集[31]に「題令狐家木蘭花」と言う詩がある。「膩如玉指塗朱粉、光似金刀剪紫霞。從此時時春夢裏、應添一樹女郎花」と。このもくれんと女郎花が同一物と考えてよかろうか、勿論ムラサキモクレン（紫木蘭）である。一方、菊は本草綱目によると、節華・女節・女華・女茎、陰成等の別名がある。崔寔の月令によると女節・女華は菊華の名といい、黄菊を指すらしい。女郎は木蘭辭に見る如く少女をいい、女郎花すなわち女華であって菊花と同義に使われたかに見える。なお、女郎花は辛夷（こぶし）の別名でもある。日本で女郎花と言っているのは學名をPatrinia scabiosaefolia Fisch（中國名 黄花敗醤）と稱するもの。白花のもあるが、ここでは黄花である。この敗醤は本草綱目では苦菜、苦蘵、澤敗、鹿腸、鹿首、馬草の別名はあっても女郎花とは言わない。從って靈鬼志の女郎花は說かれる如く菊花であってオミナエシではなく、靈鬼志も中國の書物と考えた方が妥當である。

(30) 老子述義

見在書目 道家に 老子述義十（巻）賈大隱撰を著録する。舊唐志、唐志に著録。輯佚資料續 道家類に二敎指歸覺明注、弘決外典鈔等に引かれたものを収める。

63（私注）老子述義ニ云、忠ヲ施於君ニ、孝ヲ施ス於親ニ、蓋為リ諸行之首ト、

（三教指帰覚明注）忠孝十八章、忠施於君、孝施於親、蓋為諸行之首、

ここでも覚明注と信阿の私注との関係を論ずるに良い資料である。

(31) 文選

見在書目 惣集家 に文選卅 昭明太子撰、文選六十巻 李善注、文選鈔六十九 公孫羅撰、文選音義十 李善撰、文選音決十 公孫羅撰、文選音義十 釋道淹撰、文選音義十三 曹憲撰、文選抄韻一 等が著録されている。両唐志には著録されないが五臣注文選三十巻は宋志 総集類に著録されている。

現存する文選で注目すべきものは李善注文選と五臣注文選及び文選集注で、これらは平安時代には何れも存在していたと考えられる。李善と五臣を并せた六臣注文選は宋の真宗大中祥符九年（一〇一六）に成立したもので、これは私注には利用されなかったであろう。

文選の傳來は古く、十七條憲法（六〇四）に影響を與えたとされるが、これは無注であったと考えていい。日本書紀（七二〇）や万葉集（七七五前後）には李善注も用いられていたと考えられる。平安時代には文選竟宴が盛んに行われ、菅家や江家といった博士家では必讀の教科書となった。藤原道長の御堂關白記の寛弘元年（一〇〇四）には、集注文選、寛弘三年（一〇〇六）には五臣注文選の名が見える。

私注に引用された文選注は李善注 五臣注、文選集注の二種である。個々の注と、その使用例を分類して述べよう。

(イ) 李善注

蕭統昭明太子(五〇一―五三一)の文選三十巻は推古朝に傳來したといわれるが、日本人にとっては難解な書であった。江談抄3「吉備入唐間事」に「鬼來テ云、此國ニ議事アリ、日本使才能奇異也、令讀書テ欲笑其誤云々。吉備云、何書乎、鬼云、此朝極難讀古書也、號文選、一部卅巻、諸家集ノ神妙ノ物ヲ所撰集也ト云々」と見えるように難解な文選であり、これを讀み解いた吉備真備(六九三―七七五)の逸話が書かれている。

現在、李善注の最古本は南宋の淳熙八年(一一八一)に尤袤の刊行した尤本と言われる版本で、北京圖書館藏本が中華書局から影印出版(一九七四)されている。現行の諸版本はこの本を祖本としていると言われている。詳しくは斯波六郎博士の、文選諸本の研究(昭和三十二年 文選索引に附す、京都大學人文科學研究所刊)を參照されたい。ただ、この李善注も、唐の顯慶三年(六五八)成立當時のものではない。ただ、斯波博士の六臣注から李善注の本文と注を拾い集めて作った本文であるという考え方は現存の六臣注と李善注を比較してみれば誤りであることがわかる。

私注に引かれた文選と現文選本文の比較の際李善注を基本にしたので、ことわらないかぎり六十巻本の李善注の巻をアラビア數字を以て示し、必要に應じて五臣注の巻數も示した。平安時代には五臣注も傳わり、その主流にもなったが、それは李善注が出典考證に力を入れ、語釋は必要最低限に止めたのに比し、五臣注が語釋を第一にし、利用者に歡迎されたからであった。その事情は尤袤の自序にも述べられ、五臣注のみが世に流布していたという。従って五臣注の方が李善注より先んじて上梓され

たという。先ず、李善注が使われたという確たる證據を後の資料から見よう。出典を示したものは、ほぼ李善注と考えてよい。68、188、208、252、287、289、374、398$_{2}$、419、462、533、591、655、687、735、794等が李善注でないと書けない例である。

六臣注文選には注の配列により李善を先に五臣を後にした李善五臣注本とその逆の五臣李善注本があり、前者は四部叢刊に收める涵芬樓宋刊本があり、李善注の本文と注を底本に五臣注を加えている。この本文が單注本李善注を考えるに重要である。慶安刊本もこの系統のもの。後者は明州刊本と稱される系統の本文で、足利文庫傳來の南宋紹興刊本(影印本＝汲古書院)があり、こちらは五臣注の本文と注を底本として李善注が加えられている。従っていくぶん注の性格を異にしている。

さて、李善注を使ったと考えられるもので、特に注目すべきものは、208の如く私注で「李善曰」と言っているものである。ただし、今本李善注にぴたりと一致しないところがあり、私注當時の李善注がそうであったのか、誤記であったのか斷定しにくい所がある。655は本文が李善注と五臣注と異っていて、五臣の本文であってはならぬ例である。六臣注には兩者の本文の異同が注記されている。735も同じ例である。私注は注を作るに當り、李善注を主として用い、五臣注を并せ用いたと考えられる。

(ロ) 五臣注

五臣注は李善注より後れること六十年、唐の玄宗開元六年(七一八)に成った。この注は語釋を中心にしていたので、難解な文選を讀むに便利であったことは既に述べた。

そのために李善廢れ、五臣が榮えた。この狀態は宋の眞宗の大中祥符九年(一〇一六)六臣注が合刻されるまで續いた。五臣注が廢れたのは合刻によってその使命が終ったためである。一方李善注はその出典考證の正確さが再認識され、再び版を重ねるに至った。五臣注本は呂延祚が呂延濟、劉良、張銑、呂向、李周翰の五臣の注をまとめて奉ったもので、上表文には五臣集注文選と稱している。藤原道長の御堂關白記の寛弘三年十月廿日(一〇〇六)の記事に五臣注文選の名が見えることは既に述べた通りであるが、これ以前に傳來していたはずである。平安時代は李善注以上に利用されていたと考えていい。

五臣注の傳本は極めて稀で台灣中央圖書館藏南宋紹興三十一年(一一六一)刊本と東京大學東洋文化研究所藏の正德四年(一五〇九)朝鮮刊本及び、斷卷であるが平安中期鈔本が天理圖書館に傳えられ(天理圖書館善本叢書)ており、私注當時の五臣注の原型を知るに貴重である。台灣本も貴重であるが、補寫部分が多いようである。今回は東大本と足利本を參考にした。東大本の五臣注は六臣注で意識的に缺落させた部分も補うことができて貴重である。次に特徴ある例を見よう。41・68・189・222・274・363・398・403・418・477_2・521・580・582・606・619・654・660・685・694・729・747等が五臣注でないと書けない例である。398は「文選十四」といい、これは三十卷本である五臣注の卷數で、李善注では卷二十七である。五臣、李善兩書の間での本文の異同も認められる。同じように五臣の卷を示すものとして521・580・660に例が求められる。477_2は「文選五臣注曰」の如く、五臣注であることを明確にしたものがある。654・685・747がこの例である。やや面白いのが、

729で、李善、五臣の兩本の異同を論じた例である。當時兩本が同時に使われていたことのよい證明になる。

ここで問題になるのが、それでは六臣注が既に用いられていたのではないかという疑問である。これは、六臣注が六十巻本であって、五臣注の巻の編成三十巻と異るので、そのようなことは有り得ないということである。私注は李善、五臣を座右に置いて使い分けていたことが理解できる。

(ハ) 文選集注

百二十巻に膨張した文選集注は、李善注を底本に鈔、音決、五家、陸善經等の諸注を集成したものである。今殘巻が二十四巻程その姿を止めるに過ぎない。それらは羅振玉が宣統十年(一九三一)に金澤文庫本を中心に集めた唐寫文選集注殘本と京都帝國大學文學部景印舊鈔本三集―九集に收められた文選集注で、金澤文庫本は重り合うものもあるが、後から出たものでもあり、羅振玉本に收められなかったのも含まれ便利である。私注には476一例に過ぎぬが、李善注、五臣注いずれにも屬さない文選注が私注に見られるので、それとの何らかの係りも考えられ、注目すべきである。文選集注は中國の藝文志にも著録されず、撰者も不明であるが唐代の鈔本であることは疑いない。集注はわずかになするのみであるが、李善注の復元にも貴重であり、私注に引かれた一例だけでも種々の問題點を指摘できるのである。私注所引の本文は今は傳えない、あるいは私注所引のものが五臣集注文選に誤った可能性もあるが、これはどうとも論じようが無い。

39（私注）文選曰、昔成康没頌聲寢、王澤竭詩不作。
。文選班固兩都賦序 昔成康没而頌聲寢、王澤竭而詩不作。

41（私注）文選注曰、置鳥羽於杯以急飲。
。文選陸機擬古詩擬今日良宴會 30 羽觴不可算（五臣注）濟曰、羽觴、置鳥羽於杯以急飲也。（五臣本76によった）

43（私注）文選曰、南國有佳人容顏如桃李。注云越南國也。西施本越女、後為呉王后。
。文選曹植雜詩 29 南國有佳人容華若桃李（李善注）楚辭曰、受命不遷生南國。謂江南也。佳人已見上文。毛詩曰、何彼穠矣華如桃李。（五臣注）翰曰、以佳人喩賢人不見重於時。

47（私注）文選曰、時無重至花不再陽。
。文選陸機短歌行 28 時無重至華不再陽

68_1（私注）文選注曰、大曰鴻、小曰雁
。文選班固西都賦 1 ……鴻雁朝發河海夕宿江漢（李善注）……毛萇詩傳曰、大曰鴻、小曰雁。

68_2（私注）（文選注）琴有離鴻去雁曲。
。文選嵇康琴賦 18 嚶若離鵾鳴清池（五臣注）翰曰……琴有鵾雞鴻雁之曲。（五臣注9によった）

68_3（私注）（文選注）又有春鶯曲。又曰鶯與龍魚雖為異氣類共韻管絃。（為異氣類、共韻管絃（版本））

○出處未詳

68 (私注) 文選注引鄴中記文曰、馬融字季長扶風人也。曉天行、提上龍鳴水中二聲。登天其聲奇妙也。後攜巧木吹、不似亦鐫竹吹之其聲相似。笛自此始也。

○文選 馬融 長笛賦 18 馬季長(李善注)范曄後漢書曰、馬融字季長、扶風茂陵人也。將作大匠嚴之子、爲人美容貌、有俊才、好吹笛。 近世雙笛從羌起。羌人伐竹未及已(李善注) 風俗通曰、笛、元羌出。又有羌笛。然羌笛與笛、二器不同。長於古笛有二孔、大小異。故謂之雙笛。 龍鳴水中不見。已截竹吹之聲相似。(五臣注)銑曰、羌西戎也。起謂首作也。其人伐竹未畢之間、有龍鳴水中、不見其身。羌人旋即截竹吹之、聲與龍相似也。(五臣翰注にも范曄後漢書の馬融傳を引く)

(參考) 古今樂録曰、龍笛曲、和云、江南音、一唱値千金。馬融長笛賦曰、近世雙笛……截竹吹之聲相似。然則龍笛曲、蓋因聲如龍鳴而名曲。(樂府詩集)

○初學記16笛 敍事 風俗通曰、笛、漢武帝時丘仲所作也。(注)又按宋玉有笛賦。玉在漢前、恐此說非也。又馬融長笛賦云、近代雙笛從羌起。

80 (私注) 秋興賦序曰、晉十有四年余春秋三十有二、初見二毛。

○文選 潘岳 秋興賦并序 13 晉十有四年、余春秋三十有二、始見二毛。

104 (私注) 文選注云、昔楚莊王寢雲夢之臺、王夢有一神女來曰、我在巫山

之陽朝為行雲暮為行雨仍夢覺望其處果朝雲深暮雨降乃至山下立廟祭神女謂之巫女廟

。文選宋玉高唐賦并序[19] 昔者楚襄王與宋玉遊於雲夢之臺……昔者先王嘗遊高唐怠而晝寢夢見一婦人曰妾巫山之女也為高唐之客聞君遊高唐願薦枕席王因幸之去而辭曰妾在巫山之陽高丘之阻旦為朝雲暮為行雨朝朝暮暮陽臺之下旦朝視之如言故為立廟號曰朝雲 (李善注)襄陽耆舊傳曰赤帝女曰姚姬未行而卒葬於巫山之陽故曰巫山之女楚懷王遊於高唐晝寢夢見與神遇自稱是巫山之女王因幸之遂為置觀於巫山之南號為朝雲後至襄王時復遊高唐(五臣注)濟曰高唐觀名懷王時遊雲夢夢見神女自稱巫山神女乃於山下置此觀焉

119 (私注)文選曰密雨散絲

。文選張協雜詩十首之三[29] 騰雲似涌煙密雨如散絲

122 (私注)文選注云秦女善奏箏

。文選潘岳笙賦[18] 晉野悚而投琴況齊瑟與秦箏 (五臣注)翰曰齊國出善鼓瑟人秦多善箏者 (晉野は師曠を言う)

。文選陸機擬今日良宴[30] 齊僮梁甫吟秦娥張女彈 (五臣注)翰曰齊僮秦娥皆古善歌者梁甫吟張女彈皆樂府曲名 (五臣注15)

137 (私注)文選注云躑躅不安皃也

◦文選江淹別賦16　知離夢之躑躅意別魂之飛揚（五臣注）良曰居人既涕
泣相思則意知行子離夢躑躅不進別魂飛揚不安
150（私注）秋興賦云槁葉夕零又云月光似霜雪也
◦文選潘岳秋興賦13　游氛朝興槁葉夕殞
◦文選謝莊月賦13　柔祇雪凝圓靈水鏡連觀霜縞周除冰淨（五臣注）銑
曰柔祇地也圓靈天也言月之光彩照地如凝雪照天如水鏡觀宇庭
除皆如霜冰之潔也縞白也（五臣注之）
160（私注）文選云珍簟清夏室班扇動涼颸
◦文選謝朓在郡臥病呈沈尚書26　珍簟清夏室輕扇動涼颸
160（私注）文選風賦云楚襄王遊蘭臺之宮宋玉景差侍有風颯然臻王乃
被襟當之曰快哉此風寡人與庶人所共着耶
◦文選宋玉風賦13　楚襄王遊於蘭臺之宮宋玉景差侍有風颯然而至
王乃披襟而當之曰快哉此風寡人所與庶人共者邪
172（私注）　文選注云麝食柏實臍落謂之麝香其色薄紫也
◦文選嵇康養生論53　麝食柏而香（李善注）本草名醫云麝香形似麞常
食柏葉五月得香又夏月食蛇多至寒香滿入春患急痛以脚剔去著
失溺中覆之皆有常處人有遇得乃勝殺取
◦臍とあるのは麝臍香をいう。陶弘景の名醫別錄（本草名醫と同一の書か）に「麝
形似麞而小黑色常食柏葉又噉蛇其香正在陰莖前皮內別有膜袋

裛之。五月得香。往往有蛇皮骨。今人以蛇蛻皮裛香。云彌香。是相使也。麝夏月食蛇蟲多。至寒則香滿。入春臍内急痛。自以爪剔出。著屎溺中覆之。常在一處不移。曽有遇得。乃至一斗五升者。此香絶勝殺取者。（本草綱目所引）と見え、また、蘇頌の圖經本草（本草綱目所引）にも臍香が見える。

薄紫の麝香とは佩文韻府八十一に紫麝が見え、蘇軾の虎兒詩を引く、「丹砂紫麝不用塗。眼光百歩走妖狐（注）世之小兒必塗丹砂紫麝以辟不祥」（私注引く文選注は原李善注の本草名醫の注であったと考えられる。柿村重松の考證には藤原敦光の詩（無題詩所収）の紫麝の語が引かれている。

175（私注）文選曰蕭條衆芳

○文選 宋玉 風賦13 蕭條衆芳

188（私注）文選注曰。文士生月夜居屋上讀書

○出處未詳。柿村重松の考證は次を引く、「南齊書 孝義 江泌傳 少貧晝斫屧夜讀書。隨月光握卷升屋。」

○南齊春秋 江泌字士清。少貧。晝日斫屧夜讀書隨月光握卷升堂。（太平御覽611勤學）呉均の齊春秋は李善注に多く引用されているが、この文の引用は見られない。

188（私注）孫子世錄曰孫康家貧無油常映雪讀書

○文選 任昉 爲蕭揚州作薦士表38 至乃集螢映雪（李善注）孫氏世錄曰孫康家貧常映雪讀書清介交遊不雜。

189（私注）文選曰、陶淵明讀山海經注云、山海經者記衆山百川草木禽獸之書也。潛讀（讀放歟）之因而放詠也。

○文選陶潛讀山海經30（五臣注）翰曰、山海經者所記衆山百川草木禽獸之書、潛讀之因而發詠（五臣注15）

189（私注）海賦者木玄虛所作也。在文選矣。

○文選木華（字玄虛）海賦12

195（私注）潘安仁秋興賦云悲哉爲秋來

○文選潘岳（字安仁）秋興賦13　善曰、宋玉之言曰悲哉秋之爲氣也。蕭瑟兮草木搖落而變衰。

208（私注）秋興賦序曰、晉十有四季余春秋三十有二初見二毛。李善曰、潘岳字安仁、美丈夫也。三十二初見二毛白髮

○文選潘岳秋興賦13　晉十有四年余春秋三十有二始見二毛（李善注）十四年晉武帝太始十四年也。左氏傳宋襄公曰、不禽二毛。杜預曰、二毛頭白有二毛也。

（參考）初學記19 美丈夫　潘安仁至美、毎行於道群嫗以果擲之。（夏潘連璧）郭子曰、潘安仁夏侯湛並有美容貌常同行人謂之連璧。

222（私注）文選云、素質遊商聲凄愴傷我心注云商聲秋之聲也。草木凋落猶商聲如又注云樂有五音宮商角徵羽也

○文選阮籍詠懷詩十七首之九23　素質遊（曲善）商聲凄愴傷我心（五臣注）翰

曰商聲秋之聲也草木凋衰商聲用事國家衰弱猶姦臣執政是用傷我心矣

○文選屈原九歌東皇太一 32　五音紛兮繁會（五臣注）聲五音宮商角徵羽也（五臣注による）

236（私注）江文通恨賦云望平原蔓草縈骨拱木斂魄（試望〔版本〕）（魂〔版本〕）

○文選江淹恨賦 16　試望平原蔓草縈骨拱木斂魂

240（私注）文選西京賦曰離宮別館三十六所

○文選班固西都賦繚以周牆四百餘里離宮別館三十六所

252（私注）文選曰昔爲倡家女今爲蕩子婦（蕩子行〔版本〕）行不歸蕩子空床（三字版本なし）難獨守注曰列子曰有人歎月還去鄉土遊放（於〔版本〕）四方而不歸也謂之爲狂蕩之人又曰遊子出城外也云々（版本なし）

○文選古詩十九首之二 29　昔爲倡家女今爲蕩子婦蕩子行不歸空牀難獨守（李善注）列子曰有人去鄉土遊於四方而不歸者世謂之爲狂蕩之人也

257（私注）文選江賦（江征賦〔版本〕）云欲漁父之擢歌

○文選郭璞江賦 12　歎漁父之擢歌

269（私注）文選陶潛詩曰採菊東籬下

○文選陶潛雜詩二首之一 30　采菊東籬下悠然望南山

274（私注）文選注云秦王以函嶠二嶠（嶮〔版本〕）爲關云々

○文選班固西都賦 1 左據函谷二崤之阻（李善注）戰國策蘇秦曰、秦東有崤函之固（五臣注）良曰、函谷谷名、其谷似函、故曰函谷、二崤兩山名、在秦東、故曰左

274（私注）爽籟見文選注

○文選殷仲文南州桓公九井作 22 爽籟警（五臣驚）幽律（五臣注）良曰、爽清也、籟風激物之聲也。（五臣注 11）

287（私注）文選曰、浮雲蔽白日、注曰、浮雲之蔽白日以喩邪佞之毀忠良、或説曰、以日喩帝王

○文選十詩十九首之一 29 浮雲蔽白日（李善注）浮雲之蔽白日以喩邪佞之毀忠良（五臣注）良曰、白日喩君也、

289（私注）文選雪賦注云、琴有幽蘭曲…付曲驚之字可依文選注

○文選謝恵連雪賦 13 楚謡以幽蘭儷曲（李善注）宋玉諷賦曰、臣嘗行至主人、獨有一女、置臣蘭房之中、臣援琴而鼓之、為幽蘭白雪之曲、

304（私注）文選云、澗庭有松大十囲、

○文選左思詠史詩八首之二 21 鬱鬱澗底松、離離山上苗、

304（私注）文選注云、蜀有江水濯錦有光

○文選左思蜀都賦 4 貝錦斐成、濯色江波（李善注）貝錦錦文也、譙周益州志云、成都織錦既成、濯於江水、其文分明勝於初成、他水濯之不如江水也、（五臣注）濟曰、貝錦斐然成其文章、濯於江水益發其色、貝錦織

文也。
311（私注）文選曰。小隱隱陵藪。大隱隱朝市。伯夷隱首陽。老聃伏柱史。葛稚
仙練金丹為藥。
。文選 王康琚 反招隱詩22 小隱隱陵藪。大隱隱朝市。伯夷竄首陽。老聃
伏柱史。（葛稚仙以下別文であろう）
313（私注）文選注曰。舒姑死所化為泉。生時好琴。於此彈泉（彈琴（版本））為揚波。
。文選 劉孝標 重答劉秣陵沼書43 蓋山之泉。聞絃歌而赴節。（李善注）宣
城記曰。臨城縣南四十里。蓋山高百許丈。有舒姑泉。昔有舒氏。女與其
父析薪。此泉處坐牽挽不動。乃還告家。比還。唯見清泉湛然。女母曰。吾
女本好音樂。乃絃歌。泉涌洄流。有朱鯉一雙。今作樂嬉戲。泉固（故（六臣本））涌出也。
（五臣注）良曰。宣帝子封東平恆思長安。及死東平冢上樹盡皆向西而
靡。蓋山有舒姑泉者。昔有舒氏之女。伐薪於此。忽然坐地牽挽不動。其
伴還歸告其家。比來唯見清泉。母曰。吾女性好音樂。乃作絃歌於泉上。
忽有朱鯉一雙躍出而赴節。（五臣注22）
335（私注）文選 云。呦々鹿鳴食野萍之草。
。文選 魏武帝 短歌行27 呦呦鹿鳴食野之苹。（李善注）毛詩小雅文也。苹
萍也。鹿得萍草。呦呦然而鳴。相呼而食。以興喜樂賓客。相招以盛禮也。
（五臣注14略同）
341（私注）文選 云。風生於土囊口。起青蘋之末。

。文選 宋玉 風賦 73 宋玉對曰、夫風生於地、起於青蘋之末。

344 (私注) 文選謝恵連擣衣詩曰、霄月皓中閨、美人戒裳服、端飾相招携、簪玉出北房、鳴金歩南階、軒高砧響發、楹長杵聲哀、微芳起兩袖、軽汗染雙題、紈素(麗版本)既已成、君子行未歸、裁用笥中刀、縫爲萬里衣、盈篋自余手、幽緘俟君開、腰帯準疇昔、不知今是非。

。文選 謝恵連 擣衣 30 霄月皓中閨 美人戒裳服 端飾相招携 簪玉出北房 鳴金歩南階 櫩高砧響發 楹長杵聲哀 微芳起兩袖 軽汗染雙題 紈素既已成 君子行未歸 裁用笥中刀 縫爲萬里衣 盈篋自余手 幽緘候君開 腰帯準疇昔 不知今是非

346 (私注) 文選曰、南有箕北有斗

。文選 古詩十九首之七 29 南箕北有斗 牽牛不負軛

353 (私注) 文選云、冬之日、最凋也。

。出処未詳 367 四時冬日最凋年 によるのではなかろうか。さすれば出典は白氏文集である。

363 (私注) 文選曰、風光山際浮。注曰、風本無(死版本)光也。山上有光色、風吹連之、如風有光云々。

。文選 謝玄暉 和徐都曹 30 風光草際浮 (五臣注)翰曰、風本無光、草上有光色、風吹動之、如風之有光也。(五臣注75による)

374 (私注) 文選雪賦注 梁孝王雪朝引鄒生召枚叟遊兎園。

◦文選 謝惠連 雪賦13 梁王不悦、游於兔園。迺置旨酒、命賓友、召鄒生、延枚叟(李善注)漢書、梁孝王待士、雒陽從孝王游、又曰、枚乘爲弘農都尉去官、游梁。

380(私注) 文選注ニ云、琴ニ有廻雪曲

◦廻雪曲の出處未詳。白雪曲をいうか。

◦(參考)文選 鮑昭 翫月城西門廨中30 蜀琴抽白雪(李善注)相如工琴、而處蜀、故曰蜀琴…宋玉笛賦曰、師曠將爲白雪之曲也。◦文選 馬融 長笛賦并序18 中取度於白雪淥水(李善注)宋玉諷賦曰、臣援琴而鼓之、作幽蘭白雪之曲。◦文選 嵇康 琴賦并序18 揚白雪、發清角(李善注)淮南子曰、師曠奏白雪、而神禽下。白雪、五十弦琵琶樂曲、未詳。

388(私注) 文選注曰、雪時梁孝王引鄒生、招枚叟、遊于菟園。cf 374

(397)(私注) 文選云、夫風生於地、起於青蘋之末。cf 341

398(私注) 文選第十四 石季倫(崇之)王昭君辭序曰、王明君者、本爲王昭君以觸文帝諱改之。匈奴盛請婚於漢、元帝以漢宮良家子明君配焉。昔公主嫁烏孫國、王令琵琶馬上作樂、以慰其道路之思。其送明君亦爾也。其造新之曲、多哀怨之聲。(五臣注)曰、烏孫王使獻馬於漢、願尚娶公主。乃遣江都王女爲公主、以妻焉。

◦文選 石崇(字季倫) 王明君辭(五臣注14 李善注27) 王明君者、本爲王昭君以觸文帝諱改之。匈奴盛請婚於漢、元帝以後宮良家子明君配焉。昔

ハム主嫁烏孫令琵琶馬上作樂以慰其道路之思其送明君亦爾也（必爾（善本））其造新之曲多哀怨之聲（五臣注による）

398（私注）文選曰水中有琴曲師涓學其聲

。文選　王讃　雜詩29　師涓久不奏誰能宣我心（李善注）韓子曰衛靈公將之晉至濮水之上而宿夜分而聞有鼓新聲者而説之召師涓而告之曰有鼓新聲者其狀似鬼神子爲我聽而寫之師涓曰諾因端坐撫琴而寫之師涓明日報曰臣得之

403（私注）翰曰有簫史（史（底本））者善吹簫秦穆公有女曰弄玉々々好之公遂以妻教弄玉作鳳鳴鳳凰來止其屋爲作鳳臺夫妻止其上一朝隨鳳飛去故秦作鳳女祠其上毎有簫管之聲矣（矣（底本））

。文選　鮑照　樂府詩　升天行28　鳳臺無還駕簫管有遺聲（五臣注）翰曰有簫史者善吹簫秦穆公有女曰弄玉好之公遂以妻之教弄玉作鳳鳴鳳皇來止其屋爲作鳳臺夫妻上其上一朝隨鳳皇飛去故秦作鳳女祠其上毎有簫管之聲（五臣注74、六臣注所引の五臣注及び李善注は次の如し）

（五臣注）翰曰有簫史者善吹簫秦作鳳女詞其上毎有簫管之聲（李善注）列仙傳曰簫史者秦繆公時人也善吹簫繆公有女號弄玉好之公遂以妻之遂教弄玉作鳳鳴居數十年吹似鳳聲鳳皇來止其屋爲作鳳臺夫婦止其上不下數年一旦皆隨鳳皇飛去故秦氏作鳳女詞（祠（底本））有簫聲阮籍詠懷詩曰簫管有遺音梁王安在哉

406（私注）文選注曰、四賢遁秦、隱商洛山、及漢世出仕太子、鬢髮皆皓然。

。文選 楊雄解嘲并序45　四皓采榮於南山（六臣注引李善注）善曰、四皓、史記張良世家、高祖欲易太子、留侯曰、顧上有不能致者、天下有四人、逃匿山中、於是卑辭厚禮迎此四人、太子侍、四人從、年皆八十有餘、鬚眉皓白、衣冠甚偉、上怪之問、各言名姓、曰東園公、甪里先生、綺里季、夏黃公、（五臣注）向曰、四人皆老而有德、避秦亂、居於長安之南商洛山中、高祖時、呂后使求之不來、後乃來與太子游也、榮猶德也、言呂后采德於南山也、（五臣單注本23）向曰、四皓謂東園公、綺里季、夏黃公、甪里先生等四人（以下六臣注所引本と同じ）

416（私注）文選曰、殘月、晨明月也。

。出典未詳、殘月の用例は唐詩以前にみつけることができない。今、賈島以前の用例を引いておく。（詩のみ、全唐詩の配列による。）

1 宋之問　早發始興江口至虛氏一作靈長村作　宿雲鵬際落、殘月蚌中開。

2 李　嶠　早發苦竹館　早霞稍霏霏、殘月猶皎皎。

3 陳子昂　詩（佩文韻府95殘月所引）飛霜遥度海、殘月迥臨邊。

4 高　適　夜別韋司士得城字　高館張燈酒復清、夜鐘殘月雁歸聲。

5 杜　甫　大曆二年春、白帝城放船、出瞿唐峽、久居夔府、將適江陵、漂泊有詩凡四十韻　落霞沈綠綺、殘月壞金樞。

6 顧　況　聽角思歸　此夜斷腸人不見、起行殘月影徘徊。

7 王　建　李處士故居　一院落花無客酔、半窗残月有鶯啼、
8 韓　愈　東方半一作未明　東方半明大星没、獨有太白配残月、
9 白居易　客中月　曉随残月行、夕與新月宿、
10 劉郇伯　早行　一星深戌火、残月半橋霜、

本注では文選と白氏文集と、とり違えた例がいくつかあり、9の客中月の残月の注であった可能性が考えられる。今傳えられている白氏文集には注を欠くが、古本には注があって今本に缺落しているものがあるので調査を要する。

417（私注）文選曰胡笳關下、思羌笛隴頭鳴。　説曰胡笳巻葦葉吹之知時節。

○文選虞羲詠霍将軍北伐一首21　胡笳關下思、羌笛隴頭鳴。

○説以下の文は文選には見えない。ただし、李陵の答蘇武書に「側耳遠聽、胡笳互動、牧馬悲鳴」の李善注に「杜摯笳賦序曰、笳者李伯陽入西戎所作也。傅玄笳賦序曰、吹葉爲聲」説文作葭」という。また、太平御覧581樂部　笳に「晉先蠶儀注」を引いて「胡笳、漢舊録有其曲、不記所出本末。笳者故人巻蘆葉吹之、以作樂也。故謂曰胡笳」とある。

418（私注）文選云既通金閨籍後酌瓊筵醴。注云金閨者禁門也。瓊筵者謂天子宴群臣之序（慶安本）也。

○文選謝眺始出尚書省30　既通金閨籍、復酌瓊筵醴。（五臣注）銑曰、金閨、金門也。謂懸名於門、乃通出入。所謂禁門也。瓊筵謂天子宴群臣之席、

言贐者珍美言之醴酒也（五臣注15による）

419（私注）文選注云漏水者以銅爲之 云々

○文選陸倕新漏刻銘56 擊刁將次叢水乖方（李善注）孟康曰以銅作鐎受一斗晝炊飯食擊持行夜

○同銅史司刻金徒抱箭（李善注）張衡漏水轉渾天儀制曰蓋上又鑄金銅仙人居左壺爲胥徒居右壺皆以左手抱箭右手指刻以別天時早晩（五臣注）濟曰……渾儀制曰鑄金銅人爲胥徒居壺之左右以左手把箭右手指刻以別天時之早晩也（五臣注28）

424（私注）文選風賦曰廻穴錯迕云々

○文選宋玉風賦13 廻穴錯迕

438（私注）文選云布護訓云保呂狐流

1 文選には布濩の用例は次のごとし。傍訓は菅家點を移寫したという慶安本六臣注による。

2 張衡東京賦3 聲教布護（五臣作濩）（薛綜注）布護猶散被也（五臣注）翰曰濩散也言布散溢出區宇

3 張衡南都賦4 布濩漫汗

4 左思蜀都賦4 蘪蕪布濩於中阿

5 左思呉都賦4 布護皐澤（五臣注）翰曰布護草衆密貌（五臣注3）

6 司馬相如上林賦8 蔣芧青薠布濩閎澤

7 嵇康琴賦18 風駭雲亂牢落凌厲布濩半散（五臣注）銑曰布濩長多

貌。

8 潘岳笙賦 18　徘徊布濩（五臣作護）（五臣注）良曰、徘徊布護、聲迴旋不散貌。

9 揚雄劇秦美新 48　布濩流衍（五臣注）翰曰、布濩、分散貌、衍、廣也。

大漢和辭典には布擭、布濩、布護の例を引き、「分解する、あまねくゆきわたる。分散のさま、密生するさま」等の語釋を加えている。用例の上限は史記の司馬相如傳（上林賦）であるから、前漢のころから使われはじめた語らしい。新撰字鏡 /13a 𤢱に「許康反、平張也、脹也、又分脹也、波留又布止留、又久佐留、又保止去留」（天治本）といい、波留、布止留、保止去留の訓を示す。類聚名義抄には散に「ホトコル」（觀智院本）の訓を示す。時代別國語大辞典　上代編のほどころの項には日本書紀、遊仙窟陽明本、石山寺本大唐西域記長寬點、松田本四分律行事鈔古點、新撰字鏡の例を引くが、流、被、連延、延、散、漫、𤢱（𤢱）字に對する和訓であり、布護（濩）に附した和訓はみあたらない。小林芳規氏の平安鎌倉時代に於ける漢籍訓讀の國語史的研究には播（夏本紀鎌倉初期點）がみえるが、これもあたらない。文選の古本により、どこまで、さかのぼり得るか精査すべきであるが、この度は省略する。

ちなみに日本書紀には布護（濩）の用例はみあたらない。

438（私注）又曰綿蠻注曰文貌也（或曰文選註云、版本）（不叶今義、此説一（版本））

。文選何晏景福殿賦 77　緜蠻𪐴䵝徒感、對徒會。（李善注）韓詩曰、緜蠻黄鳥。薛君曰、緜蠻、文貌。（五臣注）向曰、緜蠻、文貌。

444 (私注)文選注(日版本)云屈原仕楚忽得讒説放湘南經年云々、

1 文選 屈原 離騷經 屈平32 (五臣注)銑曰、史記云、屈原字平仕楚為三閭大夫、上官靳尚妬其才能譖毀之王、乃流屈原於江南、不知所訴、乃作離騷經、離別、騷愁也。(昭明文選序 楚人屈原…遂放湘南)

2 同 漁父33 屈原既放、遊於江潭、行吟澤畔、

3 同 賈誼 弔屈原文一首60 誼為長沙王太傅、既以謫去…及渡湘水、為賦以弔屈原、屈原楚賢臣也、被讒放逐、作離騷賦

。明確な出処未詳。注者は右の文等を記憶していて書いたか、注を佚したかのいずれであろう。

449 (私注)謝玄暉敬亭山詩云、獨鶴方朝唳、饑鼯此夜啼、

。文選 謝朓 敬亭山27 獨鶴方朝唳、饑鼯此夜啼、

454 (私注)文選云北徼瑤臺女、南要湘川娥、

。文選 陸機 樂府 前緩聲歌28 北徼瑤臺女、南要湘川娥、

(462) (私注)文選注曰吹曰管、撫曰絃云々

出處未詳、文選における管絃の語の使用例次のごとし。

1 班固 東都賦7 管絃曄吁爓熠音育。(李善注)周禮曰、播之以八音…鄭玄曰、…絲、琴瑟也、…竹、管簫也。

2 左思 魏都賦6 而盛德形於管絃。

3 陸機 文賦17 流管絃而日新 (李善注)呉越春秋、樂師謂越王曰、君王德可刻之於金石、聲可託之於管絃。

4 王粲 公讌詩 20 管絃發微音
5 班固 答賓戲 45 若乃牙曠清耳於管絃（李善注）項岱曰、牙、伯牙也。曠、師
曠也。管、鍾律之管、絃、琴瑟之調也。
462 （私注）文選注云、黄帝取崑崙竹造管學鳳凰之鳴
○文選 潘岳 笙賦 18 基黄鍾（李善注）…漢書曰、黄帝使伶倫取竹斷兩節
間而吹之、以為黄鍾之宮。
同 摹鸞音以屬聲（李善注）…列仙傳曰、王子喬好吹笙作鳳鳴
（參考）風俗通聲音 昔皇帝（一本黄）使伶倫自大夏之西、崑崙之陰、取竹於嶰谷
生其竅厚均者、斷兩節間而吹之、以為黄鍾之管、制十二筩以聽鳳之鳴、
其雄鳴為六、雌鳴亦為六。
462 （私注）文選注云王子晉得仙去後、其國人得告七月七日祭候氏山
○文選 何劭 遊仙詩 21 羨昔王子喬、友道發伊洛、迢遞陵峻岳、連翩御飛
鶴（李善注）列仙傳曰、王喬者、周靈王太子晉也。好吹笙作鳳鳴、遊伊
洛之間、道人浮丘公接以上嵩高山。二十餘年後、求之於山上、見桓良
曰、告我家、七月七日待我於緱山頭。果乘白鶴駐山頭、望之不得到、舉
手謝時人、數日而去。立祠緱氏山下。
463 （私注）文集（選 版本）注云琴有別鶴曲 又曰有琴流水之曲也
1 文選 嵇康 琴賦 18 下逮謠俗、蔡氏五曲、王昭楚妃、千里別鶴（李善注）
俗傳蔡氏五曲、遊春、淥水、坐愁、秋思、幽居也。…蔡邕琴操曰、商陵牧子、

娶妻五年無子。父兄欲為改娶。牧子援琴鼓之。歎別鶴以舒其憤懣。故曰別鶴操。鶴一舉千里。故名千里別鶴也。　崔豹古今注曰。別鶴操。商陵牧子所作也。牧子娶妻五年無子。父母將為之改娶。妻聞之。中夜起聞鶴聲。倚戸而悲。牧子聞之。愴然歌曰。將乖比翼隔天端。山川悠遠路漫漫。攬衣不寢食。後人因以為樂章也。

2 同　馬融長笛賦 18　聽聲類形。狀似流水。（李善注）列子曰。伯牙鼓琴。志在流水。

3 同　中取度於白雪淥水。（李善注）淮南子曰。手會淥水之趣。高誘曰。淥水。古詩（五臣注）翰曰。白雪淥水。雅曲名。笛取其法度也。（五臣注9）

○琴に流水曲があったかどうかわからない。2の流水による連想か、1、3に見える淥水（清水の意）曲か、あるいは初學記琴に引く河間雑歌二十一章（琴歴）中の石上流泉を指すか確定し難い。なお、3の淥水も琴曲であって、その法度（形式）を笛曲に適用したことをいう。

466（私注）羅綺事在長恨歌傳。

○出處未詳。

（参考）文選　左思　魏都賦 6　羅綺朝歌（朝歌でとれる羅綺）

(470)（私注）文選序云。冬穴夏巣之時。茹毛飲血之世。世質民淳。斯文未作。逮于伏羲王天下。始畫八卦。造書契。以代結繩之政。

○梁昭明太子　文選序　式觀元始。眇覿玄風。冬穴夏巢之時。茹毛飲血

之世、世質民淳、斯文未作、逮乎伏羲氏之王天下也、始畫八卦、造書契、以代結繩之政、由是文籍生焉。

(470) (私注)文選注表曰、文有五義、一曰天文、々々者日月星辰也。

○文選序 觀乎人文(五臣注)翰曰、天文日月星辰、時變失常也。

476 (私注)文選集注云、馬相如造大人賦、帝見曰有凌雲氣

○文選 江淹 別賦 76 賦有凌雲之稱、辯有雕龍之聲(六臣注引李善注)漢書曰、司馬相如既奏大人賦、天子大悦、飄飄有凌雲之氣。(五臣注)向曰、司馬相如奏大人賦、天子大悦曰、飃飃有凌雲之氣。

○今流布の李善注本である南宋淳熙刊尤袤本には右の注は見えない。また百二十巻本の文選集注のこの部分は佚して見られない。五臣注は五臣集注文選と称したので、あるいは、この書を指して言ったものか。

477₁ (私注)文選注表曰、銘者表墓之文。

○出處未詳。ここに言う銘は墓誌銘を指す。次の文は注ではないが、参考になる。

○文選 蔡邕 郭有道碑文一首 58 樹碑表墓、昭銘景行。

477₂ (私注)文選五臣注曰、魯哀公時西狩獲紫麟、孔丘曰是聖人之瑞、而今無聖人乃造春秋、絶筆於獲麟之一句、時孔子年七十三卒。

○出處未詳。文選における獲麟の例を引いておこう。

1 文選 劉琨 重贈盧諶 25 宣尼悲獲麟、西狩涕孔丘(李善注)公羊傳曰、哀公十四年春、西狩獲麟、何以書、記異也、孔子曰、孰謂來哉、孰謂來哉、反袂

拭面涕泣、沾袍。（五臣注）銑曰、誰言聖達之人、知命無憂苦、則孔丘亦抱
麟而泣。麟瑞獸。魯哀時西狩獲之。狩獵也。宣、孔子謚。尼字。丘名也。
2同杜預春秋左氏傳序45 公羊經止獲麟（五臣注）翰曰、至獲麟之時、以
爲終篇也。…而左氏經終孔丘卒。… 絶筆於獲麟之一句者、所感而起、
固所以爲終也。

○紫麟は白居易の司徒令公分守東洛移鎭北都一心勤王三月成政。云
々詩に「通天白犀帶、照地紫麟袍」という例が見られる。後世のものであるが、宋の羅泌
の路史に「麟有蒼白黄紫斑蛛之異。白獲于孝武、蒼獲于石虎、蛛麟紫麟
出劉寘」ともいう。哀公十四年の獲鱗は紫鱗を得たことではなかろう。

487（私注）文選注に云入境問土風

○出處未詳。文選中の土風の用例は次のごとし。
1文選左思三都賦序4 班固曰、賦者古詩之流也。先王採焉以觀土風。
2同左思魏都賦6 蓋音有楚夏者、土風之乖也。（五臣注）向曰、音、人語音
也。夏、中國也。土、土壤。風、風俗。乖、別也。言在楚楚音、居夏夏音、居土壤風
俗之別也。
3同 陸機樂府呉趨行28 山澤多藏育、土風清且嘉。（李善注）左氏傳曰、
晉侯曰、鍾儀樂操土風、不忘本也。
4同 謝靈運樂府詩會吟行28 牽綴書土風、辭殫意未已。（李善注）左氏傳晉
侯曰、鍾儀樂操土風、不忘本也。

5 同張協雜詩29 土風安所習(李善注)左氏傳晋侯曰、鍾儀樂操土風。

491 (私注)文集(選(版本))注曰(云(版本))文君黛似遠山

○出處未詳。佩文韻府70 遠山黛に次の文が見える。また、西京雜記の文も參考になる。

1 飛燕外傳 女弟合德入宮爲薄眉、號遠山黛。

2 玉京記 卓文君眉不加黛、望如遠山。

3 西京雜記2 文君姣好、眉色如望遠山、臉際常若芙蓉。

491 (私注)又云蓋嶺有泉。

○文選 劉孝標重答劉秣陵沼書43 西麓蓋山之泉(李善注)……宣城記曰、臨城縣南四十里蓋山高百許丈、有舒姑泉……(五臣注)良曰……蓋山有舒姑泉者、

491 (私注)又曰、天台山東有蒼海云

○出處未詳。蒼海は滄海と同意で、あおうなばら。文選には蒼海の用例は見あたらないが、滄海の例は見られる。天台山については孫綽の遊天台山賦が見える。

1 文選 孫綽遊天台山賦11 天台山者、蓋山嶽之神秀也。涉海則有方丈蓬萊、登陸則有四明天台、皆玄聖之所遊化、靈仙之所窟宅。

2 同 班固西都賦1 前唐中而後太液、覽滄海之湯湯、揚波濤於碣石、激神岳之嶈嶈、濫瀛洲與方壺、蓬萊起乎中央。(五臣注)濟曰、碣石、海畔山。唐中、太液皆池名。以象滄海湯湯然若揚波濤於碣石之下。

3 同 揚雄甘泉賦7 東燭滄海、西耀流沙、

4 同成公綏嘯賦 18 將登箕山以抗節、浮滄海以游志（五臣注）向曰。箕山ハ山名。滄海ハ海名也。

5 同謝靈運過始寧墅 26 剖竹守滄海、枉帆過舊山（五臣注）濟曰。永嘉郡臨海。故云守滄海。

6 同曹植求自試表 37 東臨滄海、西望玉門、

同陳琳為袁紹檄豫州 42 若舉炎火以焫飛蓬、覆滄海以沃熛炭

7 同袁宏三國名臣序贊 47 滄海橫流、玉石同碎

8 同陸機辨亡論下 53 其財豐、東負滄海、西阻險塞

9 初學記海敍事 按東海之別有渤澥、故東海共稱渤海、又通謂之滄海。博物志云、滄海之中有蓬萊方丈瀛洲……十洲記曰、東海之別又有溟海員海。

○初學記の說によると、滄海は東海（東シナ海）とともに渤海、溟海、員海（圓海）を總稱したことになる。 天台山は李善注に「支遁天台山銘序曰。余覧內經山記云、剡縣東南有天台山」という。剡縣は浙江省嵊縣の西南にあった。天台山は浙江省天台縣にある山。東に東海があり、私注の蒼海が滄海（東海）であることが理解できる。

492（私注）文選云 仁者樂山、智者樂水（內閣寫本闕、天文寫本、版本により補う）

○出處未詳。 論語雍也篇に見える文。

493（私注）敬亭山詩云 獨鶴方朝唳、饑鼯此夜啼

495
○文選謝朓敬亭山27　獨鶴方朝唳、饑鼯此夜啼。
(私注)文選注曰、百籟者天地人籟等也。
○出處未詳。衆籟についての注であるが、文選にはその用例は見られない。ただ、私注の引く百籟は二例見られる。百籟とは風によって起る自然の種々の聲。衆籟も同義。
1 文選張協雜詩29　凄風爲我嘯、百籟坐自吟。(李善注)莊子、子游曰、地籟則衆竅是已。無故自吟曰坐也。(五臣注)良曰、百籟謂諸孔穴草木風所激而爲聲。
2 同張協七命35　尋竹竦莖、蔭其壑。百籟群鳴、籠其山。(李善注)莊子曰、地籟則衆竅是也。籠其山、謂衆聲既喧、山爲之籠也。(五臣注)百籟謂林木孔穴激風成聲者、及鳥獸之類群鳴、皆籠絡於山中也。
499
(私注)文選曰、秦始皇好客讓侯秦、而止之。李斯猶以勸之上書曰、地廣粟多、軍多士勇、今文其一也。
○文選李斯上書秦始皇39　李斯(李善注)史記、李斯者、楚上蔡人也。西説秦、秦拜斯爲客卿。會韓使鄭國來間秦、以作溉渠、已而覺。秦室大臣皆言秦王曰、諸侯人來秦者、秪爲其主游間於秦耳。請一切逐客。李斯議亦在逐中。斯乃上書、乃除逐客之令、復李斯官。後始皇帝以斯爲丞相。
云々　臣聞、地廣者粟多、國大者人衆、兵彊者則士勇。是以泰山不讓土壤、故能成其大。河海不擇細流、故能就其深。(李善注)管子曰、海不辭水、故能成其大。山不辭土石、故能成其高。

○「秦始皇好客……譲侯奏而止之云々」の文、文選に見えず。

505 (私注)文選注曰、韓康伯住山中採薬売人里。

○文選 江淹雜體詩 左記室詠史思 31 韓公論売薬、梅生隠市門。(李善注)范曄後漢書曰、韓康字伯林、一名恬休、京兆人也。常采名薬売於長安市口、不二價三十餘年。……(五臣注) 16 翰曰、韓伯休少立貞操、隠長安市売薬。

515 (私注)文選注云、仁者楽山、智者楽水。

○出處未詳。492参照。

521 (私注)文選第十五注曰、鳳池中書省也。

○文選 謝朓直中書省 30 茲言翔鳳池、鳴珮多清響。(五臣注) 15 翰曰、鳳池中書省也。

533 (私注)文選注云、王子喬仙人也、駕白鶴遊緱氏山。又曰仙人有雲衣云々(cf 462)

○文選 何劭遊仙詩 21 連翩御飛鶴。(李善注)列仙傳曰、王喬者周霊王太子子晋也。好吹笙、作鳳鳴。遊伊洛之間、道人浮丘公接以上嵩高山。三十餘年後、求之於山上、而見桓良曰、告我家、七月七日、待我於緱氏山頭。果乗白鶴、駐山頭、望之不得到。挙首謝時人、数日而去。立祠緱氏山下。

543 (私注)文選注曰、海中有三神仙、曰蓬莱方丈瀛洲、其山相去各七萬里、狀似壺、仙人居之、西王母爲之長。

○出處未詳。

1 文選班固西都賦 濫瀛洲與方壺、蓬萊起乎中央（李善注）漢書曰、建章宮其西、則有唐中數十里、其北沼太液池漸臺高二十餘丈、名曰太液。池中有蓬萊、方丈、瀛洲、壺梁、象海中仙山。……列子曰、渤海之中有大壑。其中有山、一曰岱輿、二曰員嶠、三曰方壺、四曰瀛洲、五曰蓬萊。

2 拾遺記高辛 三壺則海中三山也。一曰方壺、則方丈也。二曰蓬壺、則蓬萊也。三曰瀛壺、則瀛洲也。形如壺器。此三山上廣、中狹、下方、皆如工制、猶華山之似削成。

3 史記封禪書 自威、宣、燕昭、使人入海求蓬萊、方丈、瀛洲。此三神山者、其傳在渤海中。

543（私注）又曰崑崙山有五城十二樓五百仙女居之。西王母爲之長

○出處未詳。

1 太平御覽地崑崙山 河圖始闓圖曰、崑崙之墟、有五城十二樓、河水出四維多玉（史記孝武本紀にも見える）

2 同列仙傳曰、西王母者神人也。人面蓬頭髮、虎爪、豹尾、善嘯。空居、名西王母、在崑崙山下。（山海經に類話があるが、今の列仙傳には見えない）

549（私注）文選思玄賦注云、子喬吹笙來鳳遊緱氏山云云

○出處未詳。533参照

○文選張衡思玄賦 75 松喬高跱（六臣注引舊注）衡曰、松、赤松子、喬、王喬。

(五臣注)良曰、言仙人赤松子、王子喬、高立物外、誰能往而附之。

(私注)文選云、堯聘許由、爲九州長。由聞之、詣潁水洗耳。巣父因飲牛而見是、問曰、丈人洗者、洗何耳。答曰、堯聘我爲九州長。惡聞其聲。故洗耳。巣父曰、吾聞櫲樟之木生於深山之嶺上、無通車之路、下無渉險之塗。工匠雖工、不能得之。子欲避代、何不深藏而遊人間、苟求名利。吾欲飲牛。惡汚吾牛口。乃牽牛上流飲之歟。

1 文選 左思 詠史詩 21 高歩追許由。(李善注)皇甫謐高士傳曰、許由、武陽城槐里人。修道沖虚。學于齧缺。許由爲堯所讓、由是退隱遯逃於中嶽下。

2 同 郭璞 遊仙詩 21 翹迹企潁陽、臨河思洗耳。(李善注)呂氏春秋曰、昔堯朝許由於沛澤之中、請屬天下於夫子。許由遂之箕山之下、潁川之陽。琴操曰、堯大許由之志、禪爲天子。由以其言不善、乃臨河而洗其耳。

3 同 曹植 七啓 34 河濱無洗耳之士、喬岳無巣居之民。(李善注)洗耳、許由也。 琴操曰、堯大許由之志、禪以天子。由以其不善、乃臨河而洗耳。蹟山喬岳也。巣居、巣父也。皇甫謐逸士傳曰、巣父者堯時隱人。常山居、以樹爲巣而寢其上。時人號曰巣父也。

4 同 王融 三月三日曲水詩序 一首 46 引鏡皆明目、臨池無洗耳。(李善注)皇甫謐高士傳曰、堯致天下讓許由。巣父聞之、以爲汙。乃臨池水而洗耳。

。文選及び文選注においては私注の引用文は見えない。私注の文は高士傳許由（四部備要本等）に見える。

580（私注）閲水者文選第八曰川閲水云々。

。文選陸機歎逝賦16 川閲水以成川水滔滔而日度（李善注）高誘淮南子注曰閲惣也。（五臣注）濟曰滔滔水流貌惣衆水而成其川終日流去而後水相續（五臣注による）

582（私注）文選注云龍門之水魚上者則爲龍不得上曝鰓於水上云々。

。文選謝朓觀朝雨30 戢翼希驤首乘流畏曝鰓（李善注）三秦記曰河津一名龍門兩傍有山水陸不通龜魚莫能上江海大魚薄集龍門下上則爲龍不得上曝鰓水次也（五臣注）向曰龍門之水魚上者則爲龍不得上者曝鰓於水次曝露也。

591（私注）文選表曰導涓詣宗海

。李善上文選注表　孰可撮壤崇山導涓宗海

606（私注）文選云堂謂母室謂妻

。文選陸機赴洛詩26 感物戀堂室（五臣注）良曰堂謂母室謂妻

619（私注）文選注云任公子釣東海而獲大魚云々

。文選謝靈運七里瀬詩26 目覩嚴子瀬想屬任公釣（李善注）莊子曰任公子爲大鉤巨綸五十犗以爲餌蹲會稽投竿東海旦旦而釣朞年不得魚已而大魚食之牽巨鉤陷没而下騖揚而奮鬐白波若山任公子

得若魚、離而腊之、自淛河以東、蒼梧以北、莫不饜若魚也（五臣注）銑曰、世人傳云嚴子陵釣處、任公子有道者、以大鈎巨綸釣於東海、而獲大魚、離而腊之、自淛河以東蒼梧以北皆厭此魚

654
（私注）文選曰漢高祖歌一首并序七言、高祖還過沛、留置酒沛宮、悉召故人父老子弟佐酒、發沛中兒得百廿人、教之歌、酒酣、上擊筑自歌曰
大風起兮雲飛揚、威加海內兮歸故鄉、安得猛士兮守四方　五臣注曰
擊黥布還也、沛高祖之舊里、故以置宮、又曰佐酒飲酒也、又曰風喩能雲喩亂也、言已平亂而歸故鄉、思賢才共守之云々

○文選漢高祖歌一首 28 高祖還過沛、留置沛宮、召故人父老子弟佐酒、發沛中兒得百二十人、教之歌、酒酣、上擊筑自歌曰　大風起兮雲飛揚、威加海內兮歸故鄉、安得猛士兮守四方（五臣注）14 銑曰擊黥布還也、沛高祖之里、故以置宮…　銑曰佐酒助飲酒也…　翰曰風自喩雲喩亂也、言已平亂而歸故鄉、故思賢才共守之

655
（私注）文選曰天子有道則守在海水外、注曰東西戎南蠻北狄夷謂之海外、又曰四海云々

○文選張衡東京賦 3　且夫天子有道守（五臣作狩）在海外（五臣注）濟曰　至德及遠故可巡狩四海之外

659
（私注）文選注云周穆王遊瑤池西王母乘紫雲來會

1 文選鮑照舞鶴賦 74　夕飲乎瑤池（李善注）穆天子傳曰天子觴王母

于瑤池之上。

又同沈約早發定山27 置嶺白雲間（李善注）穆天子傳西王母謠曰、白雲在天、丘陵自出。

○私注の出處未詳、紫雲の語は漢武内傳や博物志に紫雲輦や紫雲車に乗って西王母が漢の武帝を訪う話があるので、これによる連想か。

660（私注）文選第八注云崑崙山閬鳳（風カ）城共仙人居也。

○文選張衡思玄賦15 登閬風之層城（五臣注）翰曰、閬風層城皆山名、崑崙山有不死樹、構之以爲林。衡曰、閬風崑崙山名也。（五臣注8による）

○文選鮑照舞鶴賦14 望崑閬而揚音（李善注）東方朔十洲記、崑崙山有三角、一角正北、名閬風巓、一角正東、名崑崙宮。（五臣注）向曰、蓬壺崑閬、皆仙山名。

666（私注）文選云才過万人曰英、過千人曰豪云々。

○文選班固西都賦1 英俊之域（李善注）文子曰智過萬人謂之英、千人謂之俊。……文子曰、智過百人謂之傑、十人謂之豪。

○六臣注文選同賦の「鄕曲豪擧遊俠之雄」李善注所引の文子（和刻本）の李善注は「文子曰、智過千人謂之豪。」とする。ただし、足利本、四部叢刊本六臣注本所引李善注及び、尤袤刻本李善注は、いずれも千人とせず、十人とする。文子（通玄眞經）巻十二上禮には「智過萬人者謂之英、千人者謂之儁、百人者謂之傑、十人者謂之豪」と見えるので、和刻本の千人は誤りであるが、

千人とした本文もあったことは使用テキストを解明するのに意味がある。

675
（私注）文選云、百里奚愚於虞而非智於秦、遇與不遇、和與不和也。

○文選劉琨答盧諶25　百里奚（五臣本非字）愚於虞而智於秦、遇與不遇也。今君遇之矣。勗之而已。（李善注）漢書韓信謂廣武君曰、僕聞百里奚居虞而虞亡、之秦而秦伯、非愚於虞而智於秦也、用與不用、聽與不聽耳。

676
（私注）文選云、殷武丁注、以傅說爲祖、乃語曰、渡巨川以汝爲舟檝也。

1 文選賈誼鵩鳥賦73　傅說胥靡兮、乃相武丁。（李善注）尚書曰、高宗夢得說、使百工營求諸野、得諸傅巖、爰立作相。孔安國曰、傅氏之巖通道所經、有澗水壞道、使胥靡刑人築護此道、說賢而隱、代胥靡築之。莊子曰、夫道傅說得之以相武丁。（五臣注）濟曰、胥靡、刑名。傅說代人爲刑也。武丁、殷王名、求之以爲相。

2 同屈原離騷經32　說操築於傅巖兮、武丁用而不疑。（李善注）逸曰、說、傅說也。傅巖、地名。武丁、殷之高宗也。言傅說抱懷道德而遇刑罰、操築作於傅巖。武丁思想賢者、夢得聖人、以其形像使求之、因得說、登以爲公、道用大興、爲殷高宗。（五臣注）銑曰、說、賢人、代胥靡刑人操築於傅氏之巖。武丁殷王名、夢得賢相、因使刻所夢之形、求得說於傅巖、委任之、不疑。

3 尚書說命上　高宗夢得說、使百工營求諸野、得諸傅巖……王庸作書以誥曰、以台正于四方、惟恐德弗類、茲故弗言、恭默思道、夢帝賚予良弼。

其代予言。乃審厥象、俾以形旁求于天下。説築傅巖之野、惟肖。爰立作相、王置諸其左右。命之曰、朝夕納誨、以輔台德。若金、用汝作礪。若濟巨川、用汝作舟楫。

。私注の引用文は武丁とその注であるが、注の引用原典は尚書説命によるものと考えられる。

685 (私注)文選五臣注曰、李蔡為輕將軍。

。文選鮑照東武吟28 後逐李輕車、追虜窮塞垣。(李善注)漢書曰、李廣從弟蔡為郎、事武帝。元朔中、為輕車將軍、擊右賢王、有功、卒封樂安侯。…(五臣注)銑曰、李廣為輕車將軍、從大將軍擊左賢王。塞垣、長城也。

687 (私注)文選注云、吳王使莫邪造劍。莫邪得王鐵、造二枚、獻王一枚、私之。王劍鳴。王問故。或臣曰、此劍雌劍也。必有雄劍。王誅莫邪云々

。出處未詳。

1 文選張協七命35 神器化成、陽文陰縵。(李善注)吳越春秋曰、干將者吳人、造劍二枚、一曰干將、二曰莫耶。莫耶者干將之妻名也。干將曰、吾師之作冶也、金鐵之類不銷、夫妻俱入冶爐之中。莫耶曰、先師親爍身以成物、妾何難也。於是干將夫妻乃斷髮揃爪、投之爐中、使童女三百人鼓橐裝炭、金鐵乃濡。遂以成劍。陽曰干將、而作龜文、陰曰莫耶、而漫理。干將匿其陽、出其陰、而獻之闔閭。闔閭甚重之。

2 吳地記 干將鑄成二劍、進雄劍于吳王、而藏雌劍。時時悲鳴、憶其雄也。

（佩文韻府88雄劍所引）
687（私注）又曰或人明秀有口弁時人稱曰口中雌黃云
○文選劉孝標廣絶交論55　雌黃出其脣吻朱紫由其月旦（李善注）孫盛
晉陽秋曰王衍字夷甫能言於意有不安者輙更易之時號口中雌黃
(694)（私注）王仲宣詠史注云覧詩史（版本）書詠其行事得失或自寄情焉
○文選詠史詩王仲宣（五臣注）向曰謂覧史書詠其行事得失或自寄情
焉
729（私注）文選云逝者如流水
○文選劉楨贈五官中郎將詩23　逝者如流水
729（私注）又曰野每春花草無朝遺露
文選陸機歎逝賦16　野每春其必華草無朝而遺露
729（私注）又曰時無重至花不再陽都（版本）或揚字也
○文選陸機樂府短歌行28　時無重至華不再陽　五臣作揚
735（私注）宋玉對問曰客有歌於郢中始國中屬而和者數千人是為陽春
白雪曲國中屬而和者不過數十人是其曲彌高而和彌寡
○文選宋玉對楚王問45　宋玉對曰唯然有之……客有歌於郢中者其始
曰下里巴人國中屬而和者數千人其為陽阿薤露國中屬而和者數
百人其為陽春白雪國中屬而和者善有不過數十人　五臣有而已引
商刻羽雜以流徵國中屬而和者不過數人而已是　五臣有以其曲彌

高其和彌寡

742 (私注)文選曰下有陳死人杳々即長夜潛寐黃泉下千載永不寤云々

○文選古詩十九首之十三29 白楊何蕭蕭松柏夾廣路下有陳死人杳杳即長暮潛寐黃泉下千載永不寤

745 (私注)文選注云庾(庾亮)亮字元規赴南樓翫月也

○出處未詳

晉書庾亮傳 亮鎮武昌諸佐吏殷浩之徒乘月登南樓不覺亮至將起避之亮曰諸君且住老子於此興復不淺(古今圖書集成、月所収)

晉書庾亮傳43 亮在武昌諸佐吏殷浩之徒乘秋夜往共登南樓俄而不覺亮至諸人將起避之亮徐曰諸君少住老子於此處興復不淺便據胡床與浩等談詠竟坐(世說新語容止篇)

參考 文選謝靈運南樓中望所遲客30 與我別所期期在三五夕(李善注)三五謂十五日也禮記曰月者三五而盈也

同鮑照翫月城西門廨(善作解)中30 始出(作見)西南樓纖纖如玉鉤

747 (私注)文選云年在桑楡間五臣注云人年衰老若日景在桑楡將沒

○文選曹植贈白馬王彪24 年在桑楡間影響不能追(五臣注)銑曰言人年衰老若日在桑楡將沒如影響不可追也

753 (私注)(文選呉都賦左太仲)文選之文也李善注無所載

文選左思呉都賦5 翫其磧礫而不窺玉淵者未知驪龍之所蟠也習

779

其敝邑而不覿上邦者、未知英雄之所躔也（劉逵注）（李善注所引）磧礫、淺水見沙石

之貌。玉淵、水深之處。美玉所出也。尸子曰、龍淵生玉英。莊子曰、千金之

珠、在九重之淵驪龍頷下。故曰、不窺玉淵者、不知驪龍之蟠也。（李善注）

上林賦曰、下磧礫之坻。説文曰、磧、水渚有石也。且歷切。驪音離。左氏傳

曰、衛州吁曰、弊邑與陳蔡從。上邦猶上國也。方言曰、躔歷行也。（五臣注）

良曰、翫習也。磧礫淺水而有石者。玉淵淵深而有玉也。公子所習淺近

如此水之淺近也。不知我國如玉淵之深焉。驪龍、龍名也。龍蟠必在深

淵。今公子不窺則不知龍在淵。　濟曰、蜀但知習其敝小都邑。不見上

國、不知英雄之所行歷也。邦國也。躔行歷之所

（私注）文選云、長門失歡宴。又曰、辭寵悲團扇。漢（孝成李）武皇帝陳皇后寵絶

幽閉（閑閉李本）長門宮。又曰、班婕妤怨詩在上注。又注曰、漢書曰、（李本）孝成帝初即位

班婕妤選入后宮。始爲少使。俄而大幸爲婕妤。後趙飛燕寵愛婕妤失

寵。故有是篇。婕妤后妃之位之名也。

1 文選 謝朓 和王主簿怨情 一首 30　掖庭聘絶國。長門失歡宴。…辭寵悲

班（五臣作團字）扇（五臣注15による）

2 同 司馬相如 長門賦 并序 16　孝武皇帝陳皇后。時得幸頗妬。別在長門

宮。愁悶悲思。

3 同 怨歌行 班婕妤 27（五臣注）向曰。漢書云。孝成帝、班婕妤。帝初即位選

入後宮。始爲小使。俄而大幸。爲婕妤。後趙飛鸞寵盛。婕妤失寵。故有是。

794 篇也。婕妤、后妃之位名也。左曹越騎校尉況之女、虎之姑。少有才學。

(私注)文選注曰、野外曰郊。(天文写本、版本のみ)

。文選 司馬相如 上林賦[8] 悉為農郊、以贍萌隷。(李善注)張揖曰、邑外謂之郊。郊、田也。

799 (私注)文選注曰、蘇武為漢使入胡。々人不還蘇武。十九年而始還。

1 文選 潘岳 西征賦[70] 銜使則蘇屬國。(李善注)漢書曰…又曰、蘇武字子卿、杜陵人也。武以中郎将使持節送匈奴使。留在漢者、匈奴乃徙武北海上。武杖漢節牧羊。武留匈奴凡十九歳。乃還。拝為典屬國。

2 同 班固 公孫弘傳賛[49] 奉使則張騫蘇武(李善注1に同じ)

801 (私注)文選注曰、陶潜九月九日無酒、立菊籬前。大保王弘令白衣使贈酒

。出處未詳。

。初學記 九月九日 王酒 檀道鸞續晉陽秋曰、陶潜九月九日無酒。於宅邊菊叢中摘盈把、坐其側。久望見白衣人。乃王弘送酒。即便就酌而後歸。

802 (私注)文選注曰、葱嶺雪、四時不消。白雪多在

。出處未詳

1 文選 謝惠連 雪賦[73] 雪宮建於東國、雪山峙於西域。(李善注)漢書西域傳曰、天山冬夏有雪。(五臣注)濟曰、雪山在西域。

2 後漢書37　班超梁慬列傳　賛曰、坦歩葱雪、咫尺龍沙。(唐李賢等注)葱嶺、雪山、白龍堆、沙漠也。

3 太平御覧50　葱嶺山

a 漢書曰、西域三十六國、南限葱嶺、其河兩源、一河出葱嶺山、一出于寘國、于寘國在南山下、其河北流與葱嶺河合。(漢書96上　西域傳)

b 廣志曰、葱嶺、其山嶺生葱、茂於常葱。

c 西域諸國志曰、葱嶺高行十二日、可以至頂。

d 漢書96上　西域傳　西域以孝武時始通、本三十六國、其後稍分至五十餘。皆在匈奴之西、烏孫之南、南北有大山、中央有河、東西六千餘里、南北千餘里。東則接漢、阨以玉門、陽關、西則限以葱嶺。…其河有兩原、一出葱嶺山、一出于闐。于闐在南山下、其河北流、與葱嶺河合、東注蒲昌海。(注)師古曰、西河舊事云、葱嶺其山高大、上悉生葱、故以名焉。

おわりに

やや省略せざるを得ないところもあり、後日を期することになったが、私注に引かれた漢籍の貴重であることが理解していただければ幸いである。

近く山崎誠氏が身延山本和漢朗詠集私注を鎌倉時代語研究(武蔵野書院)に紹介されるという。また、京都大学国語国文資料叢書に京都大学蔵朗詠私注が影印されるという。木村、杤尾等編和漢朗詠集私注(新典社)出版を機に書き始めた小論が、朗詠私注の研究ひいては和漢朗詠集研究に役立つことを念ずるのである。

三　和漢朗詠集私注所引漢籍一覧

凡例

一、新典社影印和漢朗詠集私注を底本とする。
二、作品番號は日本古典文學大系和漢朗詠集に依った。
三、引用漢籍を五十音順に配列した。

		部立	用語	引用書	
アンイン	504	山水	山祇之髪	晏氏春秋 諫上	初學記2雨暴夜所引
	164	納涼	三伏	陰陽書	初學記4伏日叙事所忌釋注所引.
	261	九月九日	杜日	陰陽書	
	320	雁	上弦	陰陽書	
エ	68	鶯	魚躍	淮南子	淮南子説山訓.瓠巴鼓瑟而淫魚出聽.白詩詠琴.流水潛魚聽.
	80	雨	墨子之悲	淮南子 説林訓	
	(368)	霜		淮南子 天文訓注	初學記霜所引.
	(510)	水		淮南子 天文訓	初學記 總載水叙事所引.
エキ	(397)	風		易	初學記風叙事所引易緯 立春條風至云々.
エン	162	納涼	班婕妤團雪之扇	怨詩	班婕妤怨歌行 宋本玉臺新詠本による.文選不可.
	199	扇	白羽扇	班婕妤詩	班婕妤怨歌行 初學記雪班扇所引
	380	雪	秋扇	班婕妤詩	班婕妤怨歌行
オウ	656	帝王	堯舜・羲皇	王起	王起は全唐文641~642に堯見姑射神人賦等の作があるが、晉の皇甫謐の帝王世紀の誤りではなかろうか(初學記9帝王参照)
	656	帝王	伏羲	王起	初學記 總叙帝王 叙事所引帝王世紀
	660	帝王	黄炎	王起	初學記・總叙帝王 叙事所引帝王世紀
	667	親王	齊帝第八子	王起	隋志著録の何茂材續帝王世紀(佚書)はうか.
	792	無常	蝸牛角上	王府新書所引莊子	莊子則陽
カ	75	霞	殷於火	河圖	内閣寫本76に誤入.版本により訂正.
カイ	241	八月十五夜	織錦相思之字	廻文詩	晉書列女傳竇滔妻蘇氏所引.参考樂府詩集94織錦曲.織錦詞あり.
	425	松	十八公	會稽録	古注蒙求丁固生松所引會稽録
ガイ	758	述懷	象外	外論	文選遊天台山賦象外之説 李善注.外論未詳.
ガツ	2	立春	池凍解	月令	禮記月令、初學記3.春.叙事所引.
	84	雨	暗聲	月令	初學記3.春叙事所引禮記月令.
	186	螢	螢火	月令	初學記3夏所引

		部立	用語	引用書	
ガツ	267	九月九日	菊	月令	初學記4九月九日.服萸華所引禮記.鞠有黄華.月令廣義九月(考證)
	663	帝王	蒲朽螢	月令	初學記3夏所引.
	55	三月盡	關	月令章句	初學記7關.叙事所引.(蔡邕)月令章句.關在境.所以察出禦入(藝文類聚 關所引)
	193	蟬	麥秋	月令	初學記3夏.麥秋所引蔡邕月令
	71	早春	東岸西岸	月令	
カン	188	螢	明	明漢記	晉書の誤りか.蒙求 車胤聚螢 古注引宋略.徐注引晉書車胤列傳
	413	晴	鶴、皐	漢記	白氏六帖 天所引.鶴鳴九皐聲聞於天.張東答漢昭帝 又.漢書東方朔傳 答客難所見.
	468	管絃	相如・文君	漢記	漢書司馬相如傳.蒙求 文君當壚所引
	4～5	立春	池	漢書・西京雜記	初學記7.昆明池叙事所引.(初學記を用いた典型的例)
	104	柳	昭君村	漢書 元帝紀	
	186	螢	辰星	漢書 天文志	江談抄4(考證)所引.漢書 辰星曰北方冬水.晉灼注.五月夏至見東井.
	311	落葉	朱買臣	漢書 朱買臣傳	蒙求 買妻恥醮所引.
	375	雪	銀河	漢書 張騫傳	蒙求 博望尋河
	389	春氷	胡塞・使節	漢書 蘇武傳	蒙求 蘇武持節
	398	風	流水	漢書	白氏六帖3車.流水所引.漢書 車如流水馬如龍.後漢書馬后傳 車如流水.馬如流龍.
	408	雲	漢帝龍顔	漢書 高祖本紀	蒙求 漢祖龍顔.
	408	雲	淮王雞翅	漢書	白氏六帖26仙.雞犬仙.神仙傳を出典とすべきである.漢書劉安傳不見之.
	444	鶴	李陵	漢書 李陵傳	蒙求 李陵初詩
	485	酒	酒泉郡	漢書 地理志下	應劭 地理風俗記亦見之.

		部立	用語	引用書	
カン	653	帝王	張良一巻書	漢書 留侯世家	蒙求子房取履注所引.
	672	親王	平臺	漢書 文三王傳	
	674	丞相	公孫弘	漢書 公孫弘傳	蒙求漢相東閣注所引.
	676	丞相	孫弘	漢書 公孫弘傳	蒙求漢相東閣注所引.
	677	丞相	陳丞相	漢書 陳平傳	蒙求陳平多轍注所引.
	685	將軍	李將軍之在家	漢書 李廣傳	蒙求李廣成蹊注所引.
	759	述懷	顏駟	漢武故事	蒙求顏駟蹇剝注所引.
	97	紅梅	仙方之雪	漢武內傳	初學記2雪敘事所引. 赤霜仙藥所引.
	636	餞別	九枝燈	漢武內傳	初學記25燈九光所引.
	683	將軍	雪中放馬	韓子 說林上	蒙求管仲隨馬 (韓非子)
	(38)	三月三日		韓詩	初學記4三月三日敘事所引. 韓詩章句曰鄭俗云々.
	454	猿	巴峽哀猿	關中記	類話は盛弘之荊州記, 袁山松宜都記に詳し(御覽53. 峽)樂府詩集86巴東三峽歌あり.
	547	仙家	石床	關中記	初學記5嵩高山石牀所引 潘岳關中記
ガン	626	眺望	薺	顏氏家訓 勉學	顏氏家訓勉學所引羅浮山記
キュウ	686	將軍	麟角	九經略	參考, 初學記29麒麟敘事所引爾雅 麒麟麕身牛尾一角. 北堂書鈔122劍. 麒麟角鳳骨體所引崔駰刀劍銘.
ギョ	680	丞相	鄭大尉之溪風	御覽	太平御覽67谿所引越絕書
ギョウ	42	三月三日	鳥羽杯	翹林文苑	
	69	鶯	燕姬	翹林文苑 燕姬注	
	264	九月九日	谷水洗花	翹林文苑	初學記27菊敘事所引風俗通と同文
	289	蘭	楚客	翹林文苑	
	303	紅葉	錦繡	翹林文苑	
	633	餞別	三百盃	翹林文苑	
ギョク	363	爐火	臘	玉燭寶典	初學記4臘敘事所引.
キン	138	躑躅	寒食	琴操	初學記4寒食敘事 禁火三日所引.
ケイ	138	躑躅	寒食	荊楚記	初學記4寒食敘事所引荊楚歲時記

		部立	用語	引用書	
ケイ	156	端午	當戸危身立	荊楚記	初學記4五月五日敍事文懸於戸上蹋百草懸文所引荊楚歳時記
	212	七夕	乞巧	荊楚記	初學記4七月七日敍事所引荊楚歳時記
	455	猿	江、巴峡	荊楚記	天文寫本荊州記とす、これをとるべし。
	449	鶴	饑鵰、鶴	敬亭山詩	文選27 謝眺敬亭山→文選
	493	山	曉鵰	敬亭山詩	文選27 謝眺敬亭山→文選
ケンコ	767	慶賀	錢塘	兼名苑	參考太平御覽74塘所引錢塘記
	688	將軍	蛇驚劍影	古今注	出處未詳
	688	將軍	馬惡衣香嚙人	古今注	出處未詳 三國魏志朱建平傳に類文あり
	82	雨	花父母	古詩	出處未詳 柿村考證引謠曲熊野
ゴ	411	晴	紫蓋	吳苑	呉苑の誤か、初學記5衡山、山有三峯其一名紫蓋、白氏六帖 衡山三峯亦引之。
	406	雲	五湖	吳錄	初學記7湖敍事所引張勃吳錄注虞翻又云、太湖有五道別謂之五湖。
	255	月	合浦	後漢書 孟嘗傳	參考、白甘詠、珠合浦夜光開、蒙求 孟嘗還珠注所引後漢書
	385	氷	狐疑	後漢書	光武帝紀などに渡河の事が見えるが狐疑の事見えず。白氏六帖氷、光武渡河亦同。六帖氷、狐聽所引述征記參照。初學記氷、引薛瑩後漢書。
	663	帝王	刑鞭蒲	後漢書 劉寬傳	蒙求劉寬蒲鞭
	666	親王	公主	後漢書 皇后傳	參考 初學記10公主敍事
	679	丞相	嚴陵	後漢書 嚴光傳	蒙求嚴陵去釣注所引
	686	將軍	四七將	後漢書 二十八將傳論	
	752	述懷	范蠡咎犯	後漢書 隗囂傳注	注に史記を引く。
	759	述懷	伯鸞	後漢書 梁鴻傳	蒙求 梁鴻五噫注所引
	454	猿	哀猿	語林	參考 蒙求養由號猿注所引淮南子說山訓
	467	管絃	落梅折柳	語林	

		部立	用語	引用書	
ゴ	706	妓女	潘安仁	語林	遊仙窟 潘安仁之外甥注所引.
コウ	53	三月盡	舟車	孔子	文選55 陸機演連珠奚仲之妙 李善注 世本曰. 奚仲作車. 尸子曰. 造車者奚仲也.
	205	立秋	鯉	(孔子)家語	太平御覽936 鯉魚所引家語
	39	三月三日	萬機	孝經	出處未詳. 文選36 任彦升. 天監三年策秀才文. 一日萬機 李善注. 引尚書(皐陶謨)
コク	(491)	山		國語 周語下	初學記5 總載山. 敘事所引.
	(59)	閏三月		穀梁春秋	内閣本缺. 版本による. 太平御覽17 閏所引穀梁傳.
コン	71	早春	東岸西岸南枝北枝	坤元録	參考 白氏六帖6. 梅. 南枝. 大庾嶺上梅南枝落. 北枝開
	92	梅	大庾萬株梅	坤元録	屏風詩注 cf.11
	108	柳	陸地	坤元録	
	257	月	一曲	坤元録	
	572	水	青艸湖	坤元録	
	573	隣家	隔墻人	坤元録	
	236	秋夜	蔓艸	恨賦	→文選
	24	春興	笙	混天圖	參考. 初學記16 笙敘事 世本曰. 隨作笙注. 禮記曰女媧之笙簧. 白氏六帖 笙 同.
	799	扇		琨天圖	
	245	八月十五夜	金波	昆天圖	參考. 初學記1. 月. 金波所引漢書
	287	荻	扶桑	混天圖	
サ	454	猿	玄鶴	左氏傳	出處未詳. 太平御覽916 鶴. 孫氏瑞應圖. 伏侯古今注參照.
	741	懷舊	黃壤	左傳(注)	左傳 隱公元年. 不及黃泉注. 地中之泉. 故曰黃泉. 742 文選古詩十九首注亦引之.
ザツ	406	雲	礙孤峯之月	雜記	出處未詳. 陸賈新語 邪臣之蔽賢. 猶浮雲之障日月.
	69	鶯	周郎	(三國)吳志 周瑜傳	

		部立	用語	引用書		
サン	476	文詞	陳孔璋	(三國)吳志		蒙求陳琳書檄注所引
	414	曉	飲渭.龍	三秦記		內閣寫本缺.版本による.初學記6渭水.龍飲所引辛氏三秦記
	543	仙家	三壺雲浮	三秦記		
	758	述懷	蓬萊	三秦記		史記秦始皇本紀亦出之.
	675	丞相	甯戚飯牛.桓公	三齊略記		蒙求甯戚扣角注所引.亦漢書鄒陽傳注所引.
	572	隣家	三徑	三輔決錄		蒙求蔣詡三逕注所引.內閣本573に編入.版本により改む.
シ	20	春興	歌	史記		參考初學記21文章敍事.蓋詩誌.歌永言.見尚書
	43	桃	不言之啓	史記	李將軍傳	百廿詠 桃 獨有成蹊處.蒙求李廣成蹊古注所引.
	53	三月盡	舟車	史記	河渠書	陸行乘車.水行載舟.初學記9總敍帝王作舟車引班
	55	三月盡	關城	史記	秦始皇紀	固東都賦
	63	鶯	待旦	史記	晉世家	參考 蒙求 鉏麑觸槐
	81	雨	長樂	史記	高祖本紀	初學記24宮.敍事.所引漢書.長樂引漢武故事.
	240	八月十五夜	秦甸凜々	史記		秦始皇本紀.金城千里.亦留侯世家.關中沃野千里.所謂金城千里.
	240	八月十五夜	三十六宮	史記		參考.文選.班固西都賦.離宮別館三十六所.
	257	月	征戍	史記	蒙恬傳	
	276	九月盡	艤舟	史記	項羽本紀	
	287	萩	菟裘	史記	魯周公世家	
	289	蘭	楚客秋絃	史記		
	323	雁	范叔	史記	范雎傳	
	377	雪	狐之腋	史記	孟嘗君傳	白氏六帖4裘.狐白亦引之.
	379	雪	手不龜	史記		莊子逍遙遊に不龜手藥あり.
	399	風	漢主	史記	高祖本紀	內閣寫本缺.版本による。
	399	風	徐君塚	史記	吳太伯世家	蒙求季札掛劍所引.
	406	雲	五湖之烟	史記	貨殖傳	蒙求范蠡泛湖所引.

		部立	用語	引用書	
シ	423	松	養由之射	史記	周本紀
	439	草	華山、馬	史記	周本紀 初學記5華山.歸馬引尚書
	439	草	傅野	史記	殷本紀 百廿詠 野.獨在傅巖中.
	462	管絃	秦嶺之雲	史記	秦始皇紀 初學記13封禪 秦雨所引史記
	479	酒	新豐	(史記)	項羽本紀
	479	酒	長樂鳳凰管	(史記)	高祖本紀
	532	古宮	姑蘇臺	史記	越王句踐世家
	532	古宮	暴秦虎狼	史記	秦始皇紀
	548	仙家	桃李不言	史記	李將軍傳 cf43
	551	仙家	故山無主	史記	留侯世家注 史記留侯世家 天下有四人.正義所引
	593	佛事	芥鷄	(史記)	周公旦世家 史記魯周公世家.初學記30雞 芥羽引左傳
	597	佛事	朝宗	史記	夏本紀孔安國 孔安國集解 初學記6.海 朝宗引尚書
	653	帝王	三尺之劍	史記	高祖本紀 初學記9總敍帝王.漢高提劍.起布衣所引.
	654	帝王	項莊鴻門	史記	項羽本紀
	670	親王	梧岫	史記	五帝本紀 崩於蒼梧之野.葬於江南九疑.集解 皇覽曰…傳曰舜葬蒼梧.
	672	親王	平臺	史記	始皇本紀
	674	丞相	李文子	(史記)	魯世家 魯周公世家.亦 後漢書王良傳に李文子.公孫弘.汲黯について言及する.
	674	丞相	汲黯	史記	汲黯傳 蒙求 汲黯開倉.
	675	丞相	百里奚	史記	秦本紀
	694	詠史	虞氏涙四面楚歌	(史記)	項羽本紀
	696	詠史	秦虎口	史記	秦始皇紀
	696	詠史	漢龍顏	史記	高祖本紀 蒙求 漢祖龍顏
	710	妓女	衛子夫	史記	外戚世家 蒙求 衛后髮鬒 注引張衡西京賦
	728	老人	綺里季、商山	史記	留侯世家
	342	霧	馬鞍	詩	太平御覽49.馬鞍山.南越志云.始皇朝望氣者云.南海有五色氣.

	部立	用語	引用書	
シ				遂發卒千人鑿之以斷山之岡阜謂之鑿龍今所鑿之處形如馬鞍故名焉 江談抄4 山名也青山馬鞍雲(考證)
	502 山水	鈴聲過山	詩	
ジ	90 梅	陶門柳	時務策注	
	108 柳	嵆宅	時務策注	
	552 仙家	柳門	時務策注	
	237 秋夜	洲	爾雅釋水	初學記6 總載水 敘事所引.
	(397) 風		爾雅釋天	初學記1 風 敘事所引.
	(491) 山		爾雅釋山	初學記5 總載山 敘事所引.
	686 將軍	麟	爾雅釋獸	初學記29 麟 敘事所引.
	303 紅葉	錦繡	七十二仙傳	
シャク	243 八月十五夜	嵩山	釋名	初學記5 嵩高山 敘事所引.
	(497) 山		釋名	初學記5 總載山 敘事所引.
シュ	406 雲	五湖	周禮	初學記7 湖 敘事所引周官
ジュ	683 將軍	聞鴻射聲	珠林	
シュウ	144 巻2 更衣	衣帶隔季香	周易	初學記9 總敘帝王 垂衣所引.
	261 九月九日	重陽	周易	出處未詳.
	653 帝王	諸侯	周易比	易經上象傳比、先王以建萬國親諸侯.
	761 述懷	載鬼一車	周易睽	
	471 晴	七百里	周官	初學記5 衡山 敘事所引. 徐靈期南岳記 及び盛弘之荊州記の文. 周官の注に引かれているか.
	364 爐火	火	周書月令	周書逸文(朱右曾輯本の逸周書集訓校釋巻11)
シュン	1 巻1 立春	芳菲	春日書懷詩	劉禹錫詩 cf.19.
	(368) 霜		春秋	初學記霜所引 春秋感精符
ショ	(38) 三月三日		初學記	4. 三月三日敘事所引續齊諧記 逸詩 又秦昭王云々.
	39 三月三日	春之暮月	初學記	3. 春 敘事所引 月令注

		部立	用語	引用書	
ショ	39	三月三日	桃李盛	初學記 仲春篇	3.春敍事所引月令
	60	閏三月	谿	初學記	6.地部總載水所引爾雅釋水
	(80)	雨		初學記	2.雨敍事所引釋名
	107	柳	扶桑	初學記	1.日敍事所引淮南子注
	172	花橘	凱風	初學記	1.風敍事所引爾雅釋天.
	189	螢	岫	初學記	版本缺之.5.總載山敍事所引釋名.
	192	蟬	温泉	初學記 驪山湯篇	7.驪山湯敍事所引辛氏三秦記
	193	蟬	梅雨	初學記	2.雨敍事所引纂要
	(252)	月		初學記	7.月.水氣所引淮南子.金精所引河圖帝覽嬉
	243	八月十五夜	嵩山	初學記	5.嵩高山敍事所引
	255	月	天山	初學記	8.隴右道.天山所引漢書.帝江所引山海經.
	274	九月盡	崤函	初學記	7.關敍事所引.
	310	落葉	鷓鴣	初學記	2.霜.鷓鴣畏所引崔豹古今注
	(338)	露		初學記	2.露所引大戴禮
	(341)	霧		初學記	2.霧所引春秋元命苞
	346	擣衣	北斗星	初學記	7.星敍事.周官.大星皆有州國分野..斗牽牛婺女揚州. 吳は揚州(唐代の江南道)
	(368)	霜		初學記	2.霜.敍事所引大戴禮
	(391)	霞		初學記	2.霞敍事所引説文.左傳
	(397)	風		初學記	1.風敍事莊子云々注.萬竅怒號而爲風.
	(403)	雲		初學記	1.雲敍事所引春秋元命苞曰.陰陽聚爲雲.
	412	晴	清漪	初學記	6.總載水敍事所引.爾雅釋水
	414	晴	歸嵩鶴舞	初學記	內閣寫本缺.版本による.初學記5.嵩山敍事所引.
	478	曉	金屋	初學記	10.皇后.璇宮.玉堂.金屋.
	457	猿	商客	初學記	7.湖.賣藥所引劉向列仙傳東方朔.浮舟所引徐州 先賢傳句踐
	499	山水	泰山	初學記	5.泰山敍事所引.

	部立	用語	引用書	
ショ	506 山水	削成	初學記	5.華山敍事所引山海經
	508 山水	山成向背	初學記	5.衡山敍事所引. 白氏六帖2衡山九向所引湘中記
	512 水	黄梅雨	初學記	2.雨.敍事所引.
	558 山家	林塘	初學記	6.總載水敍事所引.始皇の石塘未詳.
	653 巻6 帝王		初學記	9.總敍帝王敍事所引.
	663 帝王	諫鼓	初學記	9.總敍帝王.堯鼓所引鄧子
	719 遊女	望夫山	初學記	5.石.望夫所引劉義慶幽明錄
	745 懷舊	金谷	初學記	8.河南道.金谷所引郭緣生述征記
	802 白	蘆洲	初學記	6.總載水敍事所引爾雅
	7 立春	雨露之恩	書	白居易 和思歸樂詩.君恩若雨露. 李白 書情詩 愧無横草功虚負雨露恩. (佩13下雨露恩)
	72 早春	錐脱囊	書	史記 平原君傳(考證)(佩1.錐處囊中)
	19 春興	遊絲	書	初學記4三月三日.梁.沈約三日率爾成篇 遊絲映空轉.
	213 七夕	依依	書	文選16 潘岳 寡婦賦 冥冥…依依(李善注)冥冥.幽昧也…依依.思戀之貌.
	269 菊	潤屋	書	白氏六帖2富.潤屋.曾子曰.富潤屋.(大學)
	269 菊	不垂堂	書	漢書爰盎傳 千金之子不垂堂.文選 司馬相如 諫獵上書 所引(考證)
	335 鹿	白鹿	書	初學記 鹿所引 瑞應圖.虞世南 白鹿賦
	335 鹿	德風	書	論語 顏淵篇(太平御覽403道德所引)
	735 交友	淡水交情	書	初學記18交友.敍事所引禮記
	760 述懷	消骨	書	文選39 鄒陽 於獄上書自明 衆口鑠金.積毀銷骨.
ショウ	(59)閏三月		尚書	内閣寫本缺. 版本による.太平御覽17閏所引書(經)堯典.
	39 三月三日	魏文	紹運圖	參考 蒙求 陳思七步
シン	256 月	花亭	神仙傳	陶潛搜神後記の誤りか.白詠鶴來去幾年注參照.

		部立	用語	引用書	
シン	540	仙家	壺公	神仙傳 壺公	蒙求 壺公謫天の古注によるものか.
	657	帝王	蓬萊.王母	神仙傳	神仙傳には見えぬ. 初學記23僊引く史記(封禪書). 蓬萊方丈瀛洲此三神山.諸仙及不死藥在焉.黄金白銀爲宮闕.(6.海.黄金闕亦引之)西王母が崑崙と蓬萊を往來していたという考えは通説となっていたらしい. cf. 文選543
	巻1(1)	春		神農本艸	→ 本艸 本草綱目序例上 五味宜忌…聖人春夏養陽秋冬養陰
	82	雨	藥君臣	醫書(神農本草經)	本草綱目序例上 神農本經名例. 上藥一百二十種爲君…中藥一百二十種爲臣…下藥一百二十五種爲佐使…藥有君臣佐使.
	365	爐火	獸炭	(晉書 羊琇傳)	太平御覽871炭所引語林亦類之.
	423	松	嵇康之姿	晉書 嵇康傳	蒙求 叔夜玉山亦注.
	489	酒	嵇康山雪	晉書 嵇康傳	cf 423.
	557	山家	嵇仲散竹林	晉書 嵇康傳	cf 423
	757	述懐	謝安	晉書 謝安傳	蒙求 謝安高潔
スイ	243	八月十五夜	洛水	水經	初學記6.洛水敍事所引.
	642	行旅	長風浦	注水經	初學記6.江.中郎浦所引
セ	376	雪	鶴氅	世說 企羨	初學記26裘鶴氅所引. 白氏六帖4裘.鶴氅亦引之.
	378	雪	棹舟	世說 簡敖	初學記2雪.乘興引語林. 蒙求 子猷尋戴. 白氏六帖1.雪.乘舟訪戴亦引之.
	423	松	嵇康之姿	世說 容止	→ 423 晉書
	736	交友	青眼白頭	世說	蒙求 阮籍青眼古注
セイ	4~5	立春	池	西京雜記	→ 4~5 漢書・西京雜記
	262	九月九日	漢武.宮人	西京雜記	初學記4.九月九日敍事所引.
	439	草	華山	西京賦注	初學記5.華山所引. → 文選
ゼイ	747	懐舊	甘棠	說苑 貴德	詩經召南に甘棠あり.
セツ	4~5	立春	池	說文	初學記7昆明池敍事所引.
	13	早春	霽	說文	初學記2霽晴敍事所引.

		部立	用語	引用書	
セツ	45	暮春	樓	説文	初學記24.樓所引.
	(384)	氷		説文	初學記7氷所引
	(410)	晴		説文	初學記2霽晴敍事所引.
	476	文詞	詞(檄)	説文	
	507	山中	山 郵	切韻	版本四韻とす
	662	帝王	玉 辰	切韻	
セン	256	月	豐嶺鐘色	山海經注 中山經	初學記2霜.鐘鳴所引.
	439	草	華 山	山海經 西山經	初學記5華山所引.一名太華…削成而四方高五千仞.
	(137)	躑躅		千金翼方	3.草部下品之上羊躑躅には注の文見えず。紅躑躅は山躑躅ともいい、別物.本草綱目17羊躑躅参照.
	(59)	閏三月		千字文 潤餘成歳注	
	186	螢	北 辰	千字文 辰宿列張注	五代梁馬還注.北辰有五星
	385	氷	露 結	千字文 露結爲霜	
	433	竹	鳴鳳管	千字文	何れの注か未詳.鳴鳳在竹の注か.
	466	管絃	伶 人	千字文	cf433.また、嵆琴阮嘯注.
	632	餞別	雁 山	千字文 雁門紫塞注	
	633	餞別	寸 陰	千字文	尺璧非寶寸陰是競
ソ	222	秋興	楚 思	楚辭 九辯	
	289	蘭	秋 (蘭)	(楚辭) 離騷	初學記27.蘭.紉佩所引.
	323	雁	瀟 湘	(楚辭) 離騷	蒙求須賈擢髮注所引.
ソウ	39	三月三日	魏 文	宋書	初學記4.三月三日.敍事.韓詩章句注所引.
	188	螢	螢(車胤)	宋略	蒙求車胤聚螢古注所引.
	(341)	霧		莊子	初學記2.霧所引.
	391	霰	龍頷珠	莊子注 列禦寇	
	398	風	列子之乘	莊子 逍遙遊 司馬彪注	初學記1風.列子御所引.
	400	風	列子懸車	莊子 逍遙遊	初學記1.風列子御所引 cf398
	436	草	西 施	莊子 天運	蒙求西施捧心所引

		部立	用語	引用書	
ソウ	437	草	原憲	莊子 讓王	蒙求 原憲桑樞注所引
	443	鶴	利口	莊子 盜跖	
	474	文詞	山中之木	莊子 山木	
	540	仙家	夢裏旦暮	莊子 齊物論	初學記30蝴蝶入夢所引.
	614	閑居	隙駟	莊子 知北遊	
	(374)	雪		曾子	初學記 雪敍事所引.
	801	白	毛寶龜	搜神記	蒙求毛寶黃雀古注所引.
ゾク	593	佛事	竹馬	續漢書	司馬彪續漢書.蒙求郭伋竹馬徐注は後漢書郭伋傳を引くが古注は續漢書によるか.
	(212)	七夕		續齊諧記	初學記4七月七日敍事所引.周處風土記
	(261)	九月九日		續齊諧記	初學記4九月九日.敍事所引荊楚歲時記注.
	545	仙家	七世之孫	俗續齊諧記	今本には見えない.劉宋の劉義慶の幽明錄に見える.
ソン	761	述懷	載鬼一車	孫氏志怪	蒙求 盧充幽婚古注所引.
	788	螢	積雪	孫氏世錄	蒙求孫康映雪注所引.
ダ	(374)	雪		大戴記	初學記雪所引.
	477	文詞	銘	大戴記	太平御覽590銘所引大戴禮には類似記事あれども金人銘のことなし.同所引の皇覽記陰謀黃帝金人銘及び孔子家語(觀周)に金人銘の記事あり.
テイ	669	親王	鼎湖	帝王記	初學記9總敍帝王所引帝王世紀及史記.
	661	帝王	皇甫謐	帝王世記	天文寫本.版本帝王世時記とす.内閣寫本による.
チョウ	762	述懷	伯夷	琱玉集	眞福寺本巻12.感應所引列士傳
テン	471	文詞	龍門埋骨	天台山賦	孫興公遊天台山賦.文選所收.蒙求孫綽才冠注所引晉書孫綽傳.一文選
	317	雁	萬里	天寶集詩	版本による.
	68	鶯	魚躍	典略	初學記6洛水.魚躍所引魚豢典略
ト	77	鶯	西樓中殿	圖遊	未詳.内閣寫本口遊
トウ	388	春氷	王霸	東觀漢記 王霸	蒙求王霸氷合 徐注引後漢書.古注によったものか.

		部立	用語	引用書	
トウ	667	親王	東平蒼	東観漢記 東平憲王蒼	内閣写本脱書名.蒙求東平為善注引之.
ハク	192	蟬	驪山宮	唐書 地理志	
	544	仙家	奇犬 紅桃	桃花源記	初學記28桃 武陵源所引.百廿詠 桃 仙人路漸長(百詠和歌亦引之)
	1	立春	雨露	(白氏文集)陵園詩	文集4、諷諭.新樂府.陵園妾(中華書局 白居易集)
	21	春興	山桃 野桃	(白氏)文集 牡丹芳	文集4、諷諭.新樂府.
	21	春興	柳風繞麴塵	(白氏)文集	・代書詩一百韻寄微之 文集13.律詩.
	21	春興	同上	(白氏)文集十三 同上	
	48	暮春	今日好	(白氏文集)唱和集	和春深二十首之六.文集26.律詩.
	63	鶯	鳳為王	(白氏)文集 秦吉了	文集4秦吉了 哀冤民也.呑聞鳳凰百鳥主.
	69	鶯	間關、鶯語	(白氏)文集 琵琶引	文集12 感傷
	69	鶯	周郎之簪	(白氏文集)新樂府	井底引銀瓶 文集4.諷諭.新樂府.
	80	雨	舞鬟間	(白氏)文集 歎髪落	文集13.律詩
	84	雨	暗聲	(白氏)文集 上陽人	上陽人 愍怨曠也.文集3.諷諭.新樂府.
	98	紅梅	夕陽	(白氏)文集 昆明春水満	文集3、諷諭.新樂府.
	104	柳	昭君村	白氏(文集)昭君村詩	文集11.過昭君村
	115	花	親疎	(白氏文集)或注	文集3尋春題諸家林園注.(又題一絶 今本注缺)
	117	花	花不語	白氏詩	文集27、過元家履信宅
	118	花	漢女	(白氏文集)長恨歌	文集12 感傷.
	130	落花	閣、樓	(白氏文集)長恨歌	文集12 感傷.
	214	七夕	雲是残粧髻	(白氏)文集 古塚狐	文集4.諷諭.新樂府.
	233	秋夜		(白氏文集)	文集3.諷諭.上陽白髪人注
	234	秋夜		(白氏文集)長恨歌(傳)	文集12感傷.長恨歌に附す.陳鴻長恨歌傳
	235	秋夜	燕子樓	(白氏文集)燕子樓	文集15.
	249	八月十五夜	金膏玉匣	(白氏)文集 百錬鏡	文集4.諷諭.新樂府.
	250	八月十五夜	楊貴妃	(白氏文集)長恨歌傳	文集12.感傷.長恨歌に附す.陳鴻長恨歌傳.
	250	八月十五夜	李夫人	(白氏文集)新樂府	文集4 諷諭.新樂府李夫人

		部立	用語	引用書	
ハク	313	落葉	飛泉	(白氏)文集 達理	文集7.閑適.古調
	317	雁	萬里	(白氏)文集 折臂翁	文集3.諷諭.新樂府.新豐折臂翁
	368	霜	雪花初白	(白氏)文集 繚綾	文選とするは誤り.文集4.諷諭.新樂府.
	372	霜	鴛	(白氏文集)長恨歌	文選とするは誤り.文集12.感傷.
	411	晴	瀑布之泉	(白氏)文集 繚綾	文集4.諷諭.新樂府
	450	鶴	五絃彈	(白氏文集)五絃彈	文集3.諷諭.新樂府.
	460	猿	峡猿聲	(白氏文集)長恨歌	内閣寫本文選とするは誤り.版本による。文集12.感傷.
	462	管絃	霓裳	(白氏)文集 法曲歌注.	文集3.諷諭.新樂府.
	463	管絃	五絃	(白氏)文集 五絃彈	文集3.諷諭.新樂府.
	472	文詞	鸚鵡	(白氏)文集 秦吉了	文集4.諷諭.新樂府.
	472	文詞	鳳凰	(白氏)文集 秦吉了	文集4.諷諭.新樂府.
	506	山水	碧潭色	白氏文集 早春招張賓客	天文寫本内閣寫本文選とするは誤り.文集31.律詩.
	541	仙家	雲碓	(白氏)文集注	天文寫本文選とするは誤り.文集17.尋郭道士不遇詩注
	541	仙家	藥爐	(白氏)文集 夢仙	文集1.諷諭.古調詩.
	541	仙家	丹	(白氏)文集注	文集17.尋郭道士不遇詩注.
	614	閑居	三千	(白氏文集)長恨歌	文集12.感傷.
	622	閑居	秋夜	(白氏)文集 上陽白髮人	文集3.諷諭.新樂府.
	644	行旅	謫處	(白氏文集)琵琶引序	文集12 感傷.
	658	帝王	洋洋	(白氏)文集 法曲家	版本.天文寫本は文選に誤る.文集3.諷諭.新樂府.
	662	帝王	王扆	(白氏)文集 采詩官	文集4.諷諭.新樂府.
	671	親王	瓊樹	(白氏)文集 重賦	文集2.諷諭.古調詩
	(706)	妓女		(白氏文集)長恨歌	文集12.感傷.
	711	妓女	思違	(白氏)文集 上陽人	文集3.諷諭.新樂府.
	713	妓女	双鬟、雲	(白氏)文集 古塚狐	文集4.諷諭.新樂府.
	714	妓女	火熨	(白氏文集)繚綾	内閣寫本文選に誤る天文寫本.版本による.文集4.
	723	老人	江湖潦倒翁	(白氏)文集 琵琶引	文集12.感傷.
	760	述懷	咲中	(白氏)文集 天可度	内閣寫本文選に誤る.天文寫本.版本による.文集4.諷諭.

	部立	用語	引用書		
ハク	767 述懐	三峡	(白氏)文集	大行路	文集3、諷諭.新樂府.
	69 鶯	燕姫	(白氏)六帖	蘭.國香	30蘭28國香.
	118 花	蜀人濯文	白氏六帖	蜀錦.濯	2錦63蜀錦.文濯
	214 七夕	涙珠	白氏六帖	珠.泣	2珠56泣
	262 九月九日	魏文菊	白氏六帖	九月九日.重陽	1.九月九日50.重陽
	264 九月九日	上壽三十餘家	白氏六帖		出處未詳.初學記27菊所引風俗通參照.
	287 蘭	叢蘭	(白氏)六帖	蘭國香	30蘭28國香
	289 蘭	燕姫	(白氏)六帖	蘭.國香	30蘭28國香.
ハチ	475 文詞	江淹一時友	八代史		晉書・宋書・南齊書・梁書・陳書・周書・隋書・唐書を八代史という.梁書江淹傳、蒙求江淹夢筆古注引宋略
ビャク	243 八月十五夜	嵩山	白虎通	巡狩	初學記5.嵩高山叙事所引.
ヒャク	19 春興	紅錦	百詠	野	
	84 雨	斜脚	百詠	雨	
	107 柳	扶桑日	百詠	日	
	109 柳	桂	百詠	月	
	126 落花	落花不語	百詠注	桃.	百廿詠、桃.獨有成蹊處注.蒙求李廣成蹊古注所引史記
	130 落花	離閣鳳翎	百詠注	鳳	百廿詠、鳳.阿閣佇來翔注.尚書中候
	130 落花	鳳舞	百詠	風	
	147 首夏	竹葉(酒)	百詠注	酒	百廿詠酒 臨風竹葉滿注 張華輕薄篇
	178 蓮	魚遊	百詠	蓮	
	192 蟬	玉甃	百詠注	井	百廿詠井.玉甃談仙客注.
	243 八月十五夜	雪	百詠	雪	
	243 八月十五夜	兩顆珠	百詠注	珠	百廿詠珠.昆池明月滿注 三秦記.初學記7昆明池參照.
	256 月	鶴	百詠注	露	百廿詠露.夜警千年鶴
	339 露	露滴.寒玉	百詠	露	

		部立	用語	引用書		
ヒャク	339	露	松葉雅琴	百詠	風	
	398	風	入松	百詠	風	
	403	雲	竹班湘浦	百詠注	竹	百廿詠竹 誰知湘水上. 流涙獨思君注. 張華博物志
	406	雲	五湖之烟	百詠注	煙	百廿詠煙 瑞氣凌丹閣注. 孫氏瑞應圖
	424	松	君子之德	百詠注	松	百廿詠松 鶴栖君子樹注 晉宮闕名
	436	草	西施顏色	百詠	野	
	445	鶴	五老峰	百詠注	星	内閣寫本缺. 版本天文寫本による. 百廿詠星 空烏五老臣注
	456	猿	一葉舟	百詠	桂	
	463	管絃	秋風拂松	百詠	風	
	472	文詞	文章	百詠注	鳳	百廿詠鳳注 山海經
	483	酒	忘憂	百詠	萱草	
	493	山	夜鶴	百詠	松	
	(527) 巻5	禁中		百詠注	門	百廿詠門. 煌々紫禁隈注.
	535	古宮	秋蘭泣	百詠	蘭	
	543	仙家	霞峙	百詠注	河	百廿詠河. 河出崑崙中注. 山海經
	562	山家	觸石	百詠注	雲	百廿詠雲. 錦文觸石來注. 公羊傳
	591	佛事	涓露	百詠	海	
	597	佛事	朝宗	百詠	海	
	691	刺史	昆吾劍	百詠注	劍	百廿詠劍. 我有昆吾劍注 海内十洲記
ブ	766	慶賀	鳳闕	武昌記		初學記8. 江南道. 鳳闕所引.
	81	雨	龍池	武陵記		初學記8. 江南道. 龍池所引.
	802	白	葱嶺	武陵記		初學記8. 江南道 葱嶺引 沅州記
フウ	4~5	立春	池	風俗通		初學記7 昆明池 叙事所引. 出處未詳
	200	扇	夜漏	風俗通		初學記25 漏刻叙事所引 周官. 出處未詳
	363	爐火	臘	風俗通	祀典	初學記4. 臘. 叙事所引.
	(756)	端午		風土記		初學記4. 五月五日. 叙事所引 周處風土記. 注に續齊

	部立	用語	引用書	
フウ				譜記を引く.
	(272) 七夕		風土記	内閣寫本缺. 版本による. 初學記4 七月七日敍事所引 周處風土記
ヘン	626 眺望	天台山	編珠録	隋杜公瞻撰. 見在書目著録. 和刻本あり.
ホウ	264 九月九日	地脉	抱朴子	藝文類聚87 菊所引
	319 雁	四五朶	望花山詩	呂榮詩. 江談抄4 (考證)
ホッ	275 九月盡	頭月縱隨	法華經 提婆品	
	580 山寺	求車	法華(經)譬諭品	
	599 佛事	千年	(法華經)提婆品	
	23 春興	遊絲	法花傳	
	179 蓮	吳山	法華傳	
ホン	(740) 欵冬		本艸	cf 神農本艸
	147 首夏	薔薇	本艸	
ミョウ	180 蓮	經	妙法蓮華經	
モウ	279 巻3 女郎花	偕老	毛詩 北風擊鼓	白氏六帖2, 夫婦偕老. 世俗諺文亦引之
	377 霜	葛屨	毛詩 魏風葛屨	初學記2 霜所引.
	407 雲	戴石	毛詩 周南卷耳	
	438 草	綿蠻	(毛)詩 小雅綿蠻注	
	443 鶴	鶴穿屋	毛詩 召南行露	
	437 草	顏淵	蒙求注	蒙求 顏回簞瓢
	745 懷舊	金谷	蒙求注	蒙求 綠珠墜樓 注所引晉書
	460 猿	梯	蒙求注	蒙求 魯般雲梯 注引用淮南子修務訓.
	634 餞別	楊岐	蒙求注	蒙求 墨子悲絲 楊朱泣岐 注所引 淮南子說林訓
モン	39 三月三日	一日澤	文選 兩都賦序	
	41 三月三日	羽觴	文選注 擬古詩	文選五臣注16. 陸機 擬古詩 擬今日良宴會注.
	43 桃		文選注 雜詩	文選29. 曹植雜詩注、五臣注15.
	47 暮春	時須惜	文選 短歌行	文選28 陸機 短歌行 李善注本文による.

		部立	用語	引用書	
モ二	68	鶯	鴻雁	文選注	西都賦 文選1.班固西都賦 鴻雁 李善注所引毛萇傳
	68	鶯	鴻雁	文選注	琴賦 文選五臣注9.嵆康琴賦 翰注.
	68	鶯	春囀	文選注	春鶯曲は唐曲.文選注の出處未詳.
	68	鶯	龍吟	文選注	私注引鄴中記.出處未詳.龍吟は馬融長笛賦 龍鳴水中 五臣注 銑注が参考になる。
	80	雨	潘郎之思	(文選)	秋興賦序 文選13.
	104	柳	巫女廟	文選注	高唐賦 文選19.高唐賦及び注には巫女廟の語不見.
	119	花	織自何絲	文選	雜詩 文選29.張協雜詩10首之3
	122	花	秦城.箏	文選注	笙賦 文選五臣注9.秦箏 翰注.
	(137)	躑躅		文選注	別賦 文選五臣注8.躑躅 良注.
	150	夏夜	枯木	(文選)	秋興賦 文選13.潘岳 秋興賦
	150	夏夜	月.夜霜	(文選注)	月賦 文選五臣注7.謝莊 月賦 銑注.
	160	納涼	珠簟	文選	文選26.謝朓 在郡臥病呈沈尚書
	160	納涼	風襟	文選	風賦 文選13.宋玉 風賦
	172	花橘	麝	文選注	文選53 嵆康 養生論 李善注所引本草名醫
	175	蓮	蕭條	文選	風賦 文選13.宋玉 風賦
	188	螢	月光於屋上	文選注	出處未詳.太平御覽611勸學所引.南齊春秋 参照.
	188	螢	積雪片於床頭	文選注	文選38.任昉 爲蕭揚州作薦士表 集螢映雪.李善注所引孫氏世錄 又五臣注19.良注.
	189	螢	山經	文選	文選五臣注15.陶潛 讀山海經 翰注.
	189	螢	海賦	文選	海賦 版本缺之.文選12.木玄虛 海賦
	195	蟬	蟬悲	(文選)	秋興賦 文選13.潘岳 秋興賦
	208	早秋	二毛	(文選)	秋興賦序 文選13.潘岳 秋興賦
	222	秋興	商聲	文選注	詠懷詩 文選五臣注11.素質…我心.翰注.
	222	秋興	商聲	文選注	九歌 文選五臣注17.五音.翰注.
	236	秋草	蔓草	文選	恨賦 文選16 江淹(文通) 恨賦
	240	八月十五夜	三十六宮	文選	西京賦 文選1.班固 西都賦.西京賦は誤り.

		部立	用語	引用書	
モン	252	月	征戍別離	文選注 古詩	文選29.古詩十九首之二、李善注所引列子
	257	月	棹歌	文選 江賦	文選12.郭璞江賦
	269	菊	陶家不垂堂	文選 雜詩	文選30陶潜雜詩二首之一.
	274	九月盡	崤函	文選注 西都賦	文選1.李善注、五臣注
	274	九月盡	爽籟	文選注	文選五臣注11.殷仲文南州桓公九井作爽籟 良注
	287	蘭	浮雲掩	文選注 古詩	文選27.古詩十九首之一、李善注、五臣注良注(15)
	289	蘭	曲	文選 雪賦注	文選13.謝惠連雪賦 李善注所引宋玉風賦
	304	紅葉	松澗	文選 詠史詩	文選21.左思詠史詩八首之二.
	304	紅葉	錦江	文選注 蜀都賦	文選4 李善注及び五臣注2.
	311	落葉	隱逸	文選 反招隱詩	文選22王康琚反招隱詩
	313	落葉	飛泉琴	文選注	文選43.劉孝標重答劉秣陵沼書 蓋山之泉…李善注所引宣城記及び五臣注.
	335	鹿	食萍	文選 短歌行	文選27.魏武帝短歌行
	341	霧	蘋風	文選 風賦	文選13.宋玉風賦
	(344)	擣衣		文選 擣衣詩	文選30.謝惠連擣衣詩
	346	擣衣	北斗星	文選 古詩	文選29.古詩十九首之七
	353	初冬	凋	文選注	367四時冬日最凋年(白氏文集)によるか.
	363	爐火	風光	文選注 和徐都曹	文選五臣注15.風光草際浮 翰注
	374	雪	梁王之苑	文選注 雪賦	文選13.謝惠連雪賦 李善注
	380	雪	琴	文選注	白雪曲か.文選の注には白雪曲を注するもの數箇所あり.嵇康の琴賦の注もその一.廻雪の語は曹植の洛神賦に見える。
	388	春氷	梁王	文選注 雪賦	cf 374.
	(397) 巻4	風		文選 風賦	cf 341.
	398	風	昭君之魂	文選 十四五臣注	文選五臣注14(李善注は27)王昭君辭序
	398	風	流水	文選 雜詩	文選29.王讚雜詩

		部立	用語	引用書	
モン	403	雲	泰臺	文選 翰 升天行	文選五臣注14 升天行 翰注.(鳳臺注)
	406	雲	漢皓	文選注 解嘲	文選45 楊雄 解嘲并序 李善注. 五臣注23 向注
	416	曉	殘月函谷	文選	出處未詳.
	417	曉	胡笳	文選	文選21 虞羲 詠霍將軍北伐
	418	曉	瓊筵	文選注	文選五臣注15 謝朓 始出尚書省 銑注.
	419	曉	漏	文選注 新漏刻銘	文選56 陸倕 新漏刻銘 擊フ外次云々 李善注.
	424	松	錯午	風賦	文選13 宋玉 風賦
	438	草	布護	文選	出處未詳. 張衡 東京賦 聲教布護ニゴトシキホドコシ. 司馬相如 上林賦 布護閎澤シキホドコセリ
	438	草	綿蠻	文選注 景福殿賦	文選11. 何晏 景福殿賦 緜蠻マタラカニシ. 李善注
	439	草	華山	文選 西京賦注	初學記5 華山 敍事 薛綜注西京賦云. 華山對河東首陽山.黃河流於二山之間.
	444	鶴	屈原	文選注	出處未詳. 文選32~33 屈原 騷. 同 賈誼 弔屈原文 等の注によったか.
	449	鶴	飢鵝老鶴	文選 敬亭山詩	文選27 謝玄暉(朓) 敬亭山詩
	454	猿	瑶臺	文選 前緩聲歌	文選28 陸機 樂府 前緩聲歌
	(462)	管絃		文選注	出處未詳.
	462	管弦	鳳管	文選注 笙賦	文選18 潘岳 笙賦 黃鍾 李善注所引 漢書(律暦志上)
	462	管弦	緱山	文選注 遊仙詩	文選21 何劭 遊仙詩 李善注所引 列仙傳
	463	管絃	夜鶴	文選注 琴賦	内閣寫本文集とするは誤り. 天文寫本版本にて改む. 文選 嵇康 琴賦 千里別鶴 李善注.
	463	管絃	隴水	文選注 長笛賦	文選18 馬融 長笛賦 狀似流水 李善注所引 列子
	466	管絃	羅綺	文選 魏都賦	文選6 左思 魏都賦 羅綺朝歌. 私注 長恨歌傳を出典とするも今本不見. 文選には他に用例あり.
	(470)	文詞		文選序	昭明太子 文選序

		部立	用語	引用書	
モン	(470)	文詞		文選注 表	李善の上文選注表には見えない。文選序五臣注
	476	文詞	駟相如賦 凌雲	文選集注 別賦	文選五臣注8 別賦 向注.
	477	文詞	銘	文選注 表	文選序、銘則序事清潤 五臣劉良注銘則述其功美使可稱名也.
	477	文詞	獲麟	文選五臣注	出處未詳、参考文選 劉琨 重贈盧諶 宣尼悲獲麟 五臣注銑注. 同、杜預春秋左氏傳序 五臣注 翰注.
	487	酒	土風	文選注	出處未詳.
	491	山	黛色	文選注	内閣寫本文集注に誤る. 天文寫本、版本にて改む. 参考. 飛燕外傳、玉京記、西京雜記.
	491	山	蒼海	文選注	出處未詳.
	492	山	愛山人	文選	内閣寫本缺. 天文寫本版本による. 論語 雍也篇の語
	493	山	獨鶴飢鼯	文選 敬亭山詩	文選27. 謝朓 敬亭山詩 cf 449.
	495	山	衆籟	文選注	出處未詳. 衆籟は百籟と同意. 文選29 張協 雜詩、同35 張協七命等に百籟の用例あり.
	499	山水	泰山	文選 上書秦始皇	文選39 李斯 上書秦始皇
	505	山水	韓康	文選注 雜體詩	文選31 江淹 雜體詩 左記室詠史思 李善注
	515	水		文選注	出處未詳. 論語 雍也篇の語 cf 492.
	521	禁中	鳳池	文選第十五注	文選五臣注15(善注は30) 謝朓 直中書省 翰注.
	533	古宮	老鶴賀	文選注 遊仙詩	文選21 何劭 遊仙詩 王子喬 李善注所引列仙傳.
	543	仙家	三壺	文選注	出處未詳. 参考文選1. 班固 西都賦 李善注.
	543	仙家	十二樓	文選注	出處未詳、参考、太平御覽 地、崑崙山所引河圖始開圖、同列仙傳
	549	仙家	王喬、笙	文選 思玄賦注	文選 張衡 思玄賦 六臣注15引舊注. 五臣注8
	550	仙家	左耳清	文選	出處未詳. 文選21 左思 詠史詩 李善注所引皇甫謐高士傳等の注により、高士傳 許由の本文を見たものか.
	580	山寺	閑水	文選第八	文選五臣注8(李善注は16) 陸機 歎逝賦
	582	山寺	龍門	文選注	文選五臣注 謝朓 觀朝雨 向注.

		部立	用語	引用書		
モン	591	佛事	涓露	文選表		李善上文選注表
	606	僧	堂	文選	赴洛詩	文選五臣注 陸機 赴洛詩 戀堂室 良注.
	619	閑居	東海	文選注	七里瀬詩	文選26 謝靈運 七里瀬詩 李善注. 五臣注 銑注.
	654	帝王	漢祖四方之風	文選…五臣注	漢高祖歌	文選五臣注14 置沛宮 銑注. 佐酒 銑注. 大風起兮雲飛揚 翰注.
	655	帝王	四海	文選注	東京賦	文選3 張衡 東京賦 李善. 五臣注(2) いずれも私注と合わず.
	659	帝王	周穆西母	文選注		出處未詳. 文選14 鮑照 舞鶴賦 夕飲乎瑤池 李善注所引 穆天子傳 參照.
	660	帝王	崑閬	文選第八注	思玄賦	文選五臣注8 張衡 思玄賦 登閬風之層城 翰注.
	666	親王	豪家郎	文選	西都賦	文選1 班固 西都賦 李善注所引 文子
	675	丞相	百里奚	文選	答盧諶	文選五臣注13. 劉琨 答盧諶
	676	丞相	傅說	文選注		出處未詳. 參考. 文選13 賈誼 鵩鳥賦 李善注所引 尚書. 同32 屈原 離騷經 李善注. 五臣注. 私注の殷武丁の注は 尚書 說命に見える.
	685	將軍	蔡征虜	文選五臣注		文選五臣注14 鮑照 東武吟 銑注.
	687	將軍	雄劍	文選注		出處未詳. 參考. 文選35 張協 七命 陽文陰縵 李善注所引 吳越春秋. 佩文韻府88 雄劍 所引 吳地記. 北堂書鈔122 劍 雄劍雌劍 所引 列士傳. 搜神記11.
	687	將軍	雌黃自口吟	文選注	廣絶交論	文選55 劉孝標 廣絶交論 李善注所引 晉陽秋
	(694)	詠史		(文選)	詠史注	文選21. 王仲宣 詠史詩(五臣注 向注)
	729	老人	流年淚	文選		文選23 劉楨 贈五官中郎將詩
	729	老人	水無返夕	文選	歎逝賦	文選16 陸機 歎逝賦
	729	老人	重春	文選	短歌行	文選五臣注14 陸機 樂府 短歌行
	735	交友	陽春曲	(文選)	對問	文選45 宋玉 對楚王問
	742	懷舊	長夜	文選	古詩	文選29 古詩十九首之十三.

		部立	用語	引用書	
モン	745	懷舊	南樓翫月	文選注	出處未詳. 晋書庾亮傳. 世說新語容止篇
	747	懷舊	促齡衰木	文選 五臣注	文選五臣注12. 曹植贈白馬王彪 銑注.
	753	述懷	玉淵	文選 吳都賦	文選5左思 吳都賦 今本李善注本にはこの本文あり.
	779	戀	長門	文選	文選五臣注15 謝朓和王主簿怨情 五臣校による.
	779	戀	長門	文選 長門賦	文選16 司馬相如長門賦 (五臣注8)
	779	戀	團扇	文選 怨詩	文選五臣注14 班婕妤怨歌行. cf 162. 199. 380 怨歌行
	794	無常	郊原	文選注	內閣寫本缺. 天文寫本 版本による. 出處未詳. 參考 文選8司馬相如上林賦 農郊 李善注.
	799	白	蘇武鶴髮	文選注	出處未詳. 文選10潘岳西征賦 李善注. 同49 班固公孫弘傳贊 李善注所引漢書。また, 蒙求蘇武持節注には鬚髮盡白とす. 淵鑑類函257老人.鶴髮には五代史を引く. 白氏六帖17老にも見える. 性靈集にも鶴髮の用例あり.
	801	白	晚花前	文選注	出處未詳. 初學記九月九日 王洵所引檀道鸞續晉陽秋
	802	白	葱嶺	文選注	出處未詳. 後漢書37 班超梁慬傳贊 坦步葱雪, 咫尺龍沙.
ユウ	744	懷舊	雁齒	遊仙窟注	遊仙窟 參差於雁齒注
ヨウ	554	山家	香爐峯	雍州記	王謨所輯 漢唐地理書鈔中の鮑至南雍州記には見えず. 白氏六帖2 廬山.香爐 引廬山記
ライ	55	三月盡	闌城固	禮記	
	472	文詞	鸚鵡	(禮記) 曲禮	白氏六帖29 鸚鵡. 能言不離飛鳥. 曲禮
	(723)	老人		禮記注 曲禮	
	802	白	葱嶺	禮記	天文寫本, 版本による. 內閣寫本 滄州記とす. 初學記8. 江南道. 葱嶺に沅州記を引く. これによるか.
ラク	88	梅	梅花落	梅曲	樂府詩集24に梅花落があるが, 笛の曲である.

		部立	用語	引用書	
リク	728	老人	太公望	六韜文師	蒙求呂望非熊注所引
リョウ	180	蓮	佛為眼	龍樹菩薩阿彌陀仏禮	
レイ	(279)	女郎花		靈鬼志	江談抄4(考證)、塵添壒囊鈔9.35a女郎花事に靈鬼志を引く、隋志雑傳に著錄する荀氏の靈鬼志か。
レツ	69	鶯	燕姫	列女傳飛燕	
	24	春興	笙	列仙傳王子喬	初學記16笙敍事古之善吹笙者有王子晋注見列仙傳、周靈王太子。
	262	九月九日	彭祖	列仙傳彭祖	
	448	鶴	陶安公	列仙傳陶安公	
ロ	106	柳	匡廬山	廬山記	初學記8江南道廬山所引
ロウ	(650)	庚申		老子経	老子には見えない、三尸は三蟲の意で道家の語、庚申の夜體内から出てその密事を天帝に告げる。
	63	鶯	忠臣	老子述義忠孝	唐・賈大隱撰。
ロク	680	丞相	袁司徒之家雪	錄異傳	初學記2、雪袁門所引。
ロン	205	立秋	鯉	論語季氏	
	268	菊	松柏之後凋	論語子罕	
	443	鶴	嫌小人	論語陽貨	
ワク	472	文詞	鳳凰	或書	禽經、又、太平御覽915鳳所引大戴禮
	668	親王	勁捷	或書	太平御覽701屏風所引西京雑記
補コ	133	藤		古書	
	以下出典を明示しないもの				
	23	春興	花錦	馬融の文章の才を述べた故事出處未詳、蒙求の羅含宿鳥、江淹夢筆の注参照。	
	39	三月三日	曲水	初學記4三月三日敍事荊楚歲時記注、昔周公卜成洛邑因流水以汎酒。	
	63	鶯	遺賢	太公望、伯夷・叔齊、綺里季、嚴光。	
	88	梅	柳色酒中	五柳先生傳	
	102	柳	箏	箏者秦代蒙恬造箏、初學記16箏敍事所引風俗通	
	145	更衣	邑老	燕邵伯為寛に…招邑老… 史記34燕召公世家	

	部立	用語	
164	納涼	三伏	曹植曰謂之三旬
227	秋興	蜀茶	蜀郡茶中夏月其花浮水飲之則散熱商賈人多募利.
227	秋興	楚練	楚國人秋搗練爲冬服
241	八月十五夜	擣衣	楚人放湘南不得歸其妻爲夫擣衣待之.
248	八月十五夜	瑶池	瑤池者在崑崙之側其池多珠玉. 太平御覽67.池所引穆天子傳. ただし珠玉の語なし. 崑崙玉は有名であるので, その連想か. 又, 御覽38.崑崙山所引河圖始闓圖に崑崙之墟有五城十二樓, 河水出, 四維多玉. と見える.
352	初冬	江南	禹貢曰, 江南道者揚州城域又荊州之南界也. 初學記8.江南道叙事. 江南道者禹貢揚州之域, 又得荊州之南界.
363	爐火	野馬	野馬一名遊絲, 春三月在空中. 莊子逍遙遊. 遊絲は遊氣の意か.
369	霜	四皓	商山四皓出而仕漢其鬢白如霜. 初學記10皇太子, 四皓所引史記.
374	雲	庾亮	庾亮字元規起南樓翫月. cf 文選38.45
375	雪	梅嶺	大庾嶺有万株之白梅. 初學記8.河東道, 梅嶺. 白氏六帖6.梅, 南枝.
416	曉	關谷鷄鳴	函谷關 鷄不鳴則無開門戸矣 初學記7.關, 雞鳴所引漢書
443	鶴	嫌小人	衛懿公其心小人不重賢士愛鶴稱爲大夫. 左傳 閔公二年.
484	酒	榮啓期	孔子遊泰山見榮啓期鼓琴而歌… 皇甫謐高士傳
486	酒	上林	上林者漢武帝所開也. 白氏六帖11苑囿武帝廣開上林.
486	酒	菓、含自消	梨名曰含消. 初學記28梨, 叙事所引辛氏三秦記…名曰含消梨.
491	山	泉聲	蓋嶺有泉 文選43 劉孝標, 重答劉秣陵沼書
491	山	蒼海	天台山東有蒼海. 後漢書 東夷傳に蒼海郡あり.
500	山水	明月峽	巴郡有明月峽, 峽首南峯石壁有圓孔, 形如滿月因以爲名焉. 初學記8.山南道, 明月峽所華陽國志. 太平御覽53.峽所引庾仲雍荊州記
500	山水	黄砂磧	黄砂磧胡地也. 班固竇將軍北征頌 鹿走黄磧. 岑參過磧詩(考證)
508	山水	水、瀬	山夾水曰澗, 深水曰潭… 初學記6.水, 叙事所引爾雅
511	水	鴛鴦	宋有韓馮夫妻契厚共化爲鴛鴦. 藝文類聚92鴛鴦所引列異傳
524	禁中	鷄人	鷄人漏刻官名也. 周禮 春官, 鷄人. 文選 陸倕新漏刻銘 聽雞人之響 五臣注 濟曰. 周禮 雞人.

	部立	用語	
542	仙家	伯夷叔齊	伯夷叔齊隱首陽山採薇武王使麻子喚伯夷. 史記 伯夷傳.
543	仙家	五城十二樓	崑崙山有五城十二樓,五百仙女居之,西王母爲之長. →文選543
550	仙家	商山	綺里季.甪里先生.園公.夏黄公,四人老翁隱商洛山. cf 369.
551	仙家	虚澗	(世説曰.磻溪谷在渭水上源,太公呂望避殷紂之亂釣北海之濱…天文寫本.版本ともに世説を出典とするが誤りか.内閣寫本説曰とするに從う. 史記 齊太公世家 漁釣正義所引文参照.
552	仙家	通夢	或人晝常寢弟子諫之.其人曰.晝寢則與周公通夢. 後漢書邊韶傳
597	佛事	酌盡	釋迦如來…若不返珠我欲汲盡海水… 四教集解中(考證)
614	閑居	樓臺	崑崙有十二樓. cf 543. →文選543
633	餞別	十五年	甯越十五季爲晝夜嗜學 千字文 寸陰是競注→633
668	親王	淮南	淮南王得仙昇天 神仙傳 劉安.
671	親王	瓊樹	崑崙山有瓊樹,其色赤. 漢書司馬相如傳 瓊華 張揖注.
679	丞相	傅氏岩	殷武丁夢見傅説.令人求之於傅岩之中.得傅説.遂立爲師. 史記 殷本紀. 文選 賈誼 鵩鳥賦 →文選676
682	將軍	三尺劍	呉季札劍三尺如霜雪如氷. 蒙求 季札挂劍注. 文選五臣注22 重答劉秣陵沼書 但懸劍空隴有恨 翰注.
695	詠史	賓雁 牧羊	漢武帝時蘇武爲使入胡.胡人留而不返.乃曰牡羊乳時可返…得雁書召返蘇武. 蒙求 蘇武持節注
(698)	王昭君		説曰王昭君者漢元帝后也… 西京雜記
708	妓女	双蛾遠山色	文君漢好女也.其黛似遠山. 西京雜記。
710	妓女	李延年餝族	李延年者李夫人兄也… 漢書 李延年傳.同外戚傳.
717	妓女	賣先朝舊賜箏	漢帝時美姫帝寵絶家貧賣舊賜箏.
727	老人	樂天 齒令	唐武宗皇帝會昌年中白樂天招六叟…行尚齒之會… 白氏文集 胡.吉.鄭.劉.盧.張等六賢皆多年壽…合成尚齒之會…傳好事者詩.
737	交友	蕭會稽之過古廟	會稽太守蕭氏憶其賢遊呉季札古廟.故曰異代之交. 陳書 蕭允傳.
746	懷舊	羊太傅 峴山	羊祜字叔子爲太傅爲政寛仁.祜死百姓因峴亭山下爲立碑…謂之墮涙碑. 蒙求 羊祜識環注. 晉書 羊祜傳

部立	用語	
白	燕丹烏頭	燕太子丹質於秦…馬角生烏頭白時可許之…琱玉集12感應所引燕太子傳

班婕妤詩	一 怨詩
禮記	一 月令
呉志	一 三國志
魏志	一 三國志
項羽本紀	一 史記 479, 694
高祖本紀	一 史記 479
周公旦世家	一 史記 593
夏本紀	一 史記 597
醫書	一 神農本艸經
注水經	一 水經注
離騷	一 楚辭 289. 323
文集	一 白氏文集
陵園詩、唱和集、新樂府、長恨歌、琵琶引序等	一 白氏文集
六帖	一 白氏六帖
提婆品	一 法華經
詩	一 毛詩 438
秋興賦 月賦 詠史注 對問	一 文選
曲禮	一 禮記
遊仙窟注	一 語林

（注）

1 杜甫の詩は平安時代に傳わっている。江談抄「詩事」王勃元稹集事に「又被命云、注王勃集、注杜工部集等、所尋取也」とある。また、唐人選唐詩所収の唐の韋莊撰又玄集に春望等の詩數種が収めてある。

2 法隆寺藏尊英本太子傳玉林抄が吉川弘文館から影印本で出ている。

3 北村季吟古注釈集成（新典社）影印本。

4 岩波文庫 倭漢朗詠集の序説参照。倭漢朗詠集鈔六巻。

5 日本書目集成（影印本汲古書院）。續群書類從 雜部巻八八四所収。小長谷惠吉 日本國見在書目錄解説稿 附同書目錄、索引（昭和二十一年 小見山出版）

6 台灣文海出版社影印本、（原本は同治十三年序刊本）

7 清、羅振玉輯、民國十七年東方學會石印本。

8 梁、徐陵輯、文學古籍刊行社刊（一九五五、同、台灣世界書局版）

9 唐、徐堅等編 中華書局刊（一九六二）

10 宋、郭茂倩編 文學古籍刊行社刊（一九五五、同、台灣世界書局版）

11 唐、歐陽詢等編（影印本一九五九 中華書局、同汪紹楹校 活字本一九六五中華書局）

12 唐、魏徵編 五十巻、（影書陵部藏本 昭和十六年）、他に元和二年刊本、天明刊本、四部叢刊本等がある。

13 宋、李昉等編（影印本一九六〇 中華書局）

14 清張英等編 清康熙四九年序刊本、同 影印本、台灣新興書局版

15 丁福保編 全漢三國晉南北朝詩（一九五九中華書局 同台灣世界書局版）所收。

16 源順集（群書類従等所收）に廻文歌が見られる。奥義抄や八雲御抄等に説かれている。

17 唐・白居易編 白氏六帖事類集（影印本、台灣新興書局版）

18 具平親王編 弘決外典鈔十巻 弘安舊鈔本 同民友社影印本、（昭和三年）、寶永四年刊本、

19 傳嵯峨天皇宸筆百廿詠斷簡、内閣文庫藏百廿詠、延寶板本等があるが、傳嵯峨天皇宸筆本系（一類本 古本系）と全唐詩系（二類本）があり、一類本系の本文によるべきである。 杤尾武 内閣文庫藏百廿詠翻字（中國文學論叢七號）參照

20 杤尾武編 國會圖書館藏 附音增廣古注蒙求、蒙求和歌（影印本 一九七三 中文出版社）參照。